

演劇会議

VOL.103 2000年7月

リアリズムシリーズ⑭

手法的思想と思想的手法 芳地 隆介

”トリックスター” 環境庁長官の花束 岩波 剛

座談会 銀河ホールのこれまでとこれから

インタビュー 鈴木瑞穂の俳優人生(上)

戯曲 302号室の春 栗木 英章

8月はHOTゆだへ

第8回全日本演劇フェスせまる(8月25日(金)~27日(日))

多彩なプログラムに期待たかまる

開催地湯田町では、湯田町議会議員のみなさん全員が開会行事に参加予定。全リ演の参加者を、ステージパフォーマンスで歓迎します。

特別展示企画として「舞台美術研究会展」決まる。「伊藤薫朔を研究する舞台美術家の作品展」で舞台模型やパネル等50数点。Jホール。

プレ企画(8/25)の
高齢者演劇「植物医師」に菅原町長が役者として出演を決意。

劇団「前進座」有志が
大道芸に友情出演。隈取り化粧や立ち廻りをやります。

今秋公開予定!

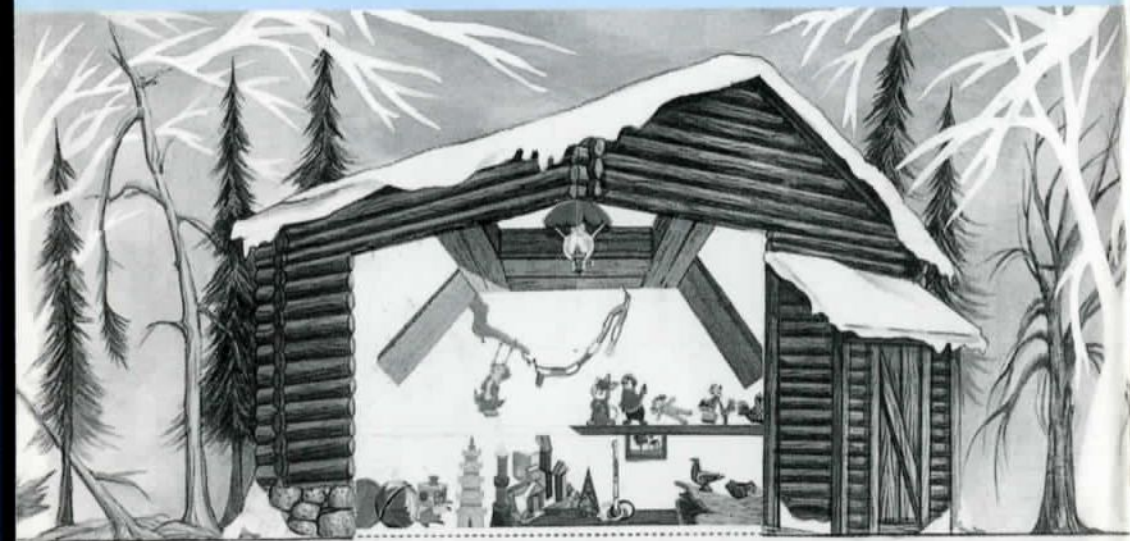
郎と一燵

念願の映画化 成る!

のべ3500人余りのエキストラと俳優70人が郡上各地でロケ敢行、快調のうちに終了。

原作・こばやしひろし
監督・神山征二郎
音楽・姫神

主な出演
緒形直人・岩崎ひろみ・前田吟・山本圭
林隆三・日色ともゑ・篠田三郎・加藤剛



舞 台

◇劇団息吹

『煙が目にしみる』

11月5日

堤 泰之／作 木田昌秀／演出



◇劇団演集

『黄昏の季節』

3月3～5日

島田たろう／作 浦はじめ／演出



◇関西芸術座

『黄昏』

3月8～12日

アーネスト・トンプソン／作
門田 裕／演出



劇団はぐるま『クローズ少年の冒険』

作／浅野公蔵 演出／なみ悟郎

デザイン 板坂 晋治

1998年上演、岐阜市民会館

表紙のことば

こばやしひろし

私たちの劇団の美術プランはずつと45年間板ヤン（板坂晋治氏のニックネーム）で、浮気したことがない。不思議な縁である。いずれにしても、学生時代、板ヤンがガチャン（緒方規矩子）と一緒に芝居したおかげで、スタッフの大切さを知ったのだ。スタッフの強い今日の劇団はぐるまがあるのも、そのおかげといえよう。舞台いっぱい「クローズ少年の冒険」の世界が楽しく広がるのである。

（劇団はぐるま）

公 演

舞 台

◇京浜協同劇団

『とびだすエンピツ』

3月18・19日

北川幸比古／原作 若林一郎／台本
内田 勉／演出



◇劇団潮流

『リディチエからの花々』

3月

マリオ・フラツティ／作 堂崎茂雄／演出



◇劇団潮流

『橋』

3月

マリオ・フラツティ／作
堂崎茂雄／演出



公 演

舞 台

◇劇団すがお

『ガラスの家族』

3月11・12日

キャサリン・バタソン／原作
吉原 廣／脚色 坂下和代・加藤武夫／演出



◇劇団はぐるま

『柳(りゅう)』

4月8・9日

町井陽子／作 服部みつまさ／演出



◇劇団名芸

『頭痛肩こり樋口一葉』

4月14・16日

井上ひさし／作 佐野むつみ／演出



公 演

舞 台

◇青年劇場

『菜の花らぶそでい』

4月14日～30日

山下惣一／原作 高橋正圀／脚色
松波喬介／演出



◇劇団銅鑼

『樹々の息吹』

4月25日～28日

平石耕一／作・演出



◇だいこん座

『ワルのほけつと』

5月20日

灰谷健次郎／原作 大橋喜一／脚色
高橋 寛／演出



公 演

舞 台

◇劇団大阪

『光る時間(とき)』

5月18日～21日、25日～28日

渡辺えり子／作 熊本 一／演出



◇劇団あしがえ

『ゼロ弾きのゴージュ』

6月～7月

宮沢賢治／作 團山士華／演出



◇テアトルハカタ

音楽劇『裸の王様』

徳満亮一／作 中村ジョー／演出



公 演

演劇会議

2000年7月8日発行 第103号

◆ もくじ ◆

グラビア (舞台)	1
2000年7月中旬以降の公演	6
リアリズムシリーズ⑭	
リアリズムについて考える (Ⅱ) 手法的思想と思想的手法 …芳地 隆介	8
”トリックスター” 環境庁長官の花束 …岩波 剛	12
座談会 ゆだ文化創造館銀河ホールこれまでとこれから	15
菅原信夫町長/川村光夫/中野健	
北から南から (劇団通信)	26
ロシア演劇レポート⑱ 2000年春のモスクワで	44
桜井 郁子	
インタビュー 鈴木瑞穂の俳優人生(上)	51
劇評 青年劇場【菜の花らぶそでい】	58
萩坂 心一	
劇団銅鑼【樹々の息吹】	60
中山 浩充	
関西芸術座【黄昏】	62
今泉おさむ	
劇団大阪【光る時間 (とき)】	63
”	
劇団京芸【花いちもんめ】『はたがめの鳴る里』	65
神沢 和明	
劇団息吹【夜の来訪者】	67
”	
デジタル劇団員入門 (その1) —メールを書こうよ—	69
石垣 政裕	
戯曲 『302号室の春—近しき病院のスケッチブック—』	79
栗木 英章	
情報BOX	105
全リ演西会議主催 かやぶき交流会	105
西会議2000年度総会は7月15、16日	108
松下朗さんとお別れする会	108
第19回北海道演劇祭inオホーツク	109
好評発売中! 「ドラマの森③」	109
劇団あしぶえ 3つの試み	110
「アノニム戯曲賞」募集	111
第8回全日本演劇フェスティバル	112

2000年7月中旬以降の公演

●劇団通信の中から7月中旬以降の公演や行事をまとめましたので、都合のつく方はぜひ観劇し合ってください。

劇団蒼生樹	7/14~16	岐阜市民会館	海の沸点	坂手洋二/作 濱田重行/演出
劇団はぐるま	7/21~23	浦和市民会館	西遊記	いずみ薫/脚本 波田正子/演出
劇団埼玉	7/22~23	銀河ホール	風・夏冬	相沢史郎/作 佐藤逸平/上演台本・出布木一平/演出
	8/25		”	小田健也/脚本・服部順一/演出/音楽
劇団名芸	9/30~10/1	三百人劇場	冒険者たち	
	7/21~23	名古屋平針小劇場	”	鈴木弘文/作・演出
劇団夜明け	9/19~20	名古屋市南文化小劇場	ユタと不思議な仲間たち	梅津幸三/演出
劇団やまなみ	7/22~23	中津川文化会館	ザ・ニッポン株式会社	徳橋亮一/作・中村ジョー/演出
テアトルハカタ	7/23	福岡サンプラザ	はだかの王様	小松幹生/脚色・高田豊三/演出
	8/1	大博多ホール	ツナオ、木のおどりてこい	内田康夫/原作・平石耕一/脚本/演出
劇団銅鑼	8/5~6	劇団稽古場	藍色回廊殺人事件	吉永仁郎/作・藤本栄治/演出
劇団潮流	9/1~2	大阪厚生年金会館芸術ホール	乱れて熱き吾が身には	永井愛/作・森卓也/演出
劇団四代会	9/2~3	シーガルホール	見よ、飛行機の高く飛ぶを	
東京芸術座	9/1~5	紀伊国屋ホール	夜明けの街	
	9/6	大田区民プラザ	”	E・D・フレイリツボ/原作
	9/7	江東区民文化センター	”	藤原新平/翻案/脚色/演出
	9/8	福島県文化センター	”	
劇団京芸	9/7~10	伏見区呉竹文化ホール	文殊丸助	西口克己/原作・尾川原和雄/脚本・岩田直二/演出
劇団阿修羅	9/12~15	品川六行会ホール	十二人の怒れる男たち	レジナルド・ローズ/作・松木園/演出
関西芸術座	9/13~17	関西スタジアム	おかしな二人	ニール・サイモン/作・亀井賢二/演出
演劇集団和歌山	9/15	県民文化会館小ホール	馬	阪中正夫/作・楠本幸男/演出
青年劇場	9/15~10/2	紀伊国屋ホール前庭劇場	島清、世に敗れたり	松田章一/作・松波喬介/演出
演劇サークル麦の会	10/13~14	麻生区民会館	黄昏	アーンスト・ボーンソング/作・吉岡邦根雄/演出
劇団大阪	10/20~22	近鉄小劇場	海の沸点	坂手洋二/作・堀江ひろゆき/演出
劇団きつがわ	10/21~22	クレオ大阪南	月光の夏一挽歌	毛利恒之/原作・林田時夫/演出
劇団あしぶえ	10/22~11/5	”	”	平石耕一/作・園山士肇/演出

手法的思想と思想的手法

リアリズムについて考える II

劇作家 芳地 隆介

その頃の新劇は面白くなかった。何よりも陰鬱で暗かった。幕間の劇場のロビーも好きになれなかった。翻訳物を見ると鼻を高くしてみたりアイシャドウをやたらに塗りたくったり、かつらで赤毛にしてみたり、おまけに翻訳調が鼻についた。有楽町の日劇のダンシングショウや浅草の松竹歌劇の方がずっと楽しかった。

芝居は、もつと面白くなければならぬ、やるのなら楽しい芝居をやるうじやないか、と演出の五十嵐君とよくしゃべりあった。歌を14、5曲いれた歌いり芝居『花よ、明日は咲け』を書いた。日本読書新聞で、作曲家の林光さんが「歌」を褒めて書いてくれた。さらにイギリスのウエスカーに倣って協同で何かやれないか、といった手紙までいただいた。こちらの力量不足で、応えられなかった。が、それもあって四国、大阪と公演する機会

があった。61年から62年にかけてのことである。気をよくしていた。

次はスリラー風のものはどうだろう、と話合って『人間蒸発』を書いた。「国民文化会議演劇のタベ」でも上演することにもなり、戯曲賞もいただいた。芝居を創造する方法・方向として間違いないであろう、と考えていた。が、A新聞で、S評論家からこっぴどく批判された。この芝居は、労働者が疎外されていく現状のなかにあって、「疎外を謳歌」するような舞台になっている、といった主旨の内容であった。冗談ではない、労働の現場にあって、我々もまた30年後には、この芝居の主人公と同じようになるかも知れないのだ。動機は不純にみえるけれども切実に実感的であるのだ。そのことに対する

実に冷やかな冷水であった。

上気した頬をして、故八田元夫さんが「良かったよ」と言っ、ぼくの手を握りしめた。64年『太陽に向かつて涙を流すな』を上演したときである。うれしかったのは間違いないのだが、少なからず困惑もしていた。この芝居は、あまりにも現実に密着し過ぎていないか、と思っていたからである。

そしてそれら批評や要望に、ときに躍り上がり、折りに怒りくるい落ち込み、悩まされ続けた。二度と戯曲は書くまいと、書き始めて10年くらい、心底思い続けていた。

こんなことは芝居を書き始めたころ、あるいは舞台を創り始めのころに、だれでもが直面することであり、主観的にはともかく客観的にはよくあることであろう。しかし、そのことよって「リアリズム」を考えることになるのは、当然と言えば当然である。

にもかかわらず、依然としてリアリズムを声高に標榜している芝居や劇団の舞台ほど、面白いとは思えなかった。

発想が縮こまっている、現実に癒着し過ぎていて、事実に対する作者の解釈が浅すぎる、と思えた。

テーマに密着し過ぎてはいないか、現実を公式主義的に解釈していいのか、事実に追従し過ぎてはいないか、受けを狙い過ぎてはいないか、と思えてならなかった。言いかえれば、事実はニュースカルポを読めばいい、現実の予定調和的解釈を、社会主義リアリズムと、はたして言えるのか。

実も蓋もない言い方になってしまったけれども、作者や集団や劇団が、現実をどのように観察し、どのように解釈し、それを表現においていかに工夫し楽しんでいるかが見えなかった。が、そんな言い方をすると、モダニズムだと言って一蹴されかねない状況にあって、言い出せば、唇寒しである、黙っていればいい。

むしろ、言われているところのリアリズムから、いかに自由であるか、むしろ自由であることよってのみ、面白い舞台は創れるのではないか、と考えた。しかし――

「仕事はきついし、職場は殺伐としてるんだからさ、せめて芝居くらいは楽しいのを観たいじゃないか。もっと楽しいものを演ってくれよ」

友人仲間たちから、耳にたこができるくらい、こんな声も聞かされた。何を言ってるか、もつと真剣に現状を

考えろよ、と言えなくはないのだが作者は陰々鬱々である。60年代後半の頃のことである。

芝居の終演後トイレに入った。隣で2人の男たちが用を足しながらしゃべっていた。

「いやあ……、面白かったなあ」

「うん、漫才を観ているようだったなあ……」

無論、ぼくがその作者であるということを知らない。神田の労音会館（現在「神田パンセ」）で「幽霊はどこだ」の再演か、再々演のときであった。作者冥利ではある。

「もつと分かり易い芝居を演ってくれよ。芝居を観て考えなきやならないなんて、勘弁してくれよ」

こんな意見を、短編の上演をしていたころは、よく聞かされた。考えることは、本来楽しいことであるはずだ、ブレヒトの言葉を思いうかべながら、いささか我田引水に解釈して傲慢であると言われても仕方がない、腹をくくっていた。

離職前の10年くらいは、仕事に追われて、短編しか書けなくなっていた。というより、時間が無ければ短編を書けばいい、と覚悟していた。実際、人の存在のかたちを人間の関係性のみで見えていくだけではなく、無関係と

を観ていると、国民演劇を演っている、あるいはそれを志向しているのだなあ、とつくづく思ってしまう場合がある。

当たり前ではある、全国の人たちに観てもらうのだから、と言えどそれまでであるが、情緒も情感も、平均的な表現に狙いをすえているようにみえるところに、いささか辟易させられるときがある。

劇団に芝居を書くというのは、平準的な表現や方法に、ある程度沿っていかねばならぬだろう。作者の自由な発想が、劇団の創造方法とどのように折り合えるか、少なくとも最低限のことは考えることになろう。無論、それらを考えることをポジティブな条件に変えねばならない。そのことは、劇団との拮抗を意味し、かつそれが創造の質の向上につながらなければならぬだろう。言うは易く行ふは難し、ではあるのだが、しかしそれが作者の自由の条件であるように思える。

いまさらのようではあるが、現実の生活は、数限りない制約に囲まれている。労働時間（過労死）、労働の不文律、国家（歌）の強制、差別、地域の慣習、環境破壊等々、人間性を疎外する条件は数限りない。この国はい

見えるところの関係性といったあたりを書いてみたいと考えていた。

以上の感想や批判は、いずれも顔の見える観客からである。そして比較的顔の見える観客を相手にして芝居を書いていたのである。

いわば感想や批判が直接的であり、現実の解釈や解析が、具体的な討論となる。しかしそのことによつてではあるが、問題が特殊化し細分化し、つまり普遍的な論点にまでたかまらずに終わってしまう。逆に言えば、その討論に、外部の人たちは、よほどの想像力がないと参加できない。「人間乾期」を書いたとき、ある劇団の幹部俳優が「上演させてほしいと思ったんだけど、あの生活感が分からなくてね……」と言ったのが印象的であった。普遍的でないから、と言いたかったのである。

離職して10年以上が過ぎた。自由になった。律義に自己規制していたものからは解放された。少なくとも行動の自由が広がった。それはドラマの素材の広がりを意味する。何でも書ける、ウエスカー風に見える、調理場が教室ではなく、世界が教室である、と言え言えるのだ。帰属の条件が広がった。しかし――。

しかし、ひるがえって全国巡演をしている劇団の舞台つたいどのような方向に向かっていっているのか。人間の生きていく姿として、これらの問題にぶち当たらないわけにはいかない。いかに闘い、いかにそれらから自由を獲得していくか、絶望的であるとすら思える。

しかし舞台という制約の表現芸術において、それらを考えどのように表現するか工夫をこらし、むしろ楽しむというのも可能である、これにまさる面白さはないであろうと思える。

リアリズムを古めかしい言葉にしてしまったのは、せまい意味で方法論としてとらえ過ぎたからではあるまいか。より広い思想としてとらえるべきではなかったか。無論、思想は手法を選択する、しかし芸術創造に決められた手法などはないのだ。芝居を創造するというのは、リアリズムする行為と同義語であろう。さらに言えば、自由と同義語なのだ、とぼくは思う。なぜなら、あらゆる現象から、いかに自由であるか、限りなく自由であることがいつも問われているのだから、とぼくは思う。



「トリックスター」 環境庁長官の花束

演劇評論家 岩波 剛

愛の現代神話ともいうべき「橙色の嘘」でデビューした平石耕一は、動植物、特に植物を劇中のポイントに置きながら、家族をめぐるさまざまな物語を紡ぎ出してきた。民族紛争をめぐる残酷劇「ホームワーク」のような例外もあるが、おおむね情感をたたえ、ヒューマンな帰結をもつ現代劇作家として評価を得てきた。劇団銅鑼の『樹々の息吹』は、そうした枠組を踏み破り、新しい現代劇作法への一歩を踏み出している。

ミズパシヨウはじめ高層湿原植物の宝庫として知られる尾瀬沼が観光道路によって破壊されることへの反対運動を一つのモチーフにしている。その意味では、いかにも平石戯曲らしいが、この戯曲の主な舞台はなんと霞が関の環境庁、その長官室となっている。ここには抒情も、家族関係のきしみも、物語らしい物語も立ち現われない。あえていえば環境汚染をめぐるディスカッションドラマ

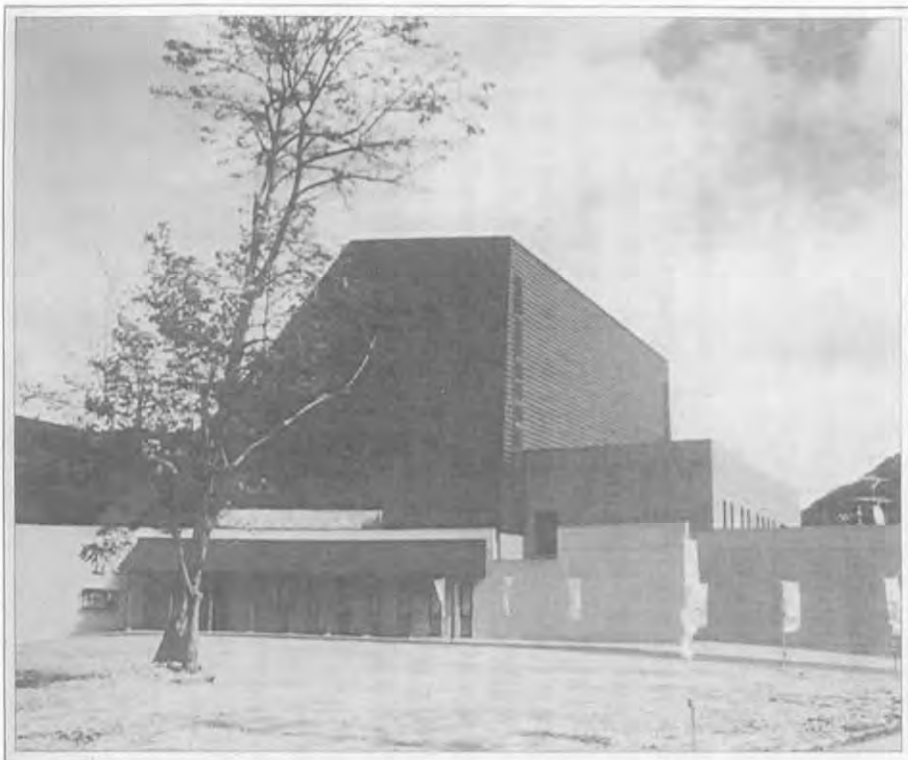
だ。この劇にはいわゆる「悪人」は出てこない。三つの「力」が働いている。新設の環境庁幹部による「政策づくり」、マスコミによる「話題づくり」、市民による「世論づくり」である。こんな三つの運動態をわずか2時間余の間にどのように関わらせることが可能であるか。以下は多くの独断である。近年、清水邦夫は戯曲の人間関係の中心に「虚」を置くことで力づよい作品を発表しているが、平石耕一は劇の中心に「トリックスター」を立てることで、自らにつきつけた難問に自ら答えている。ほくには興味深い舞台だった。その点に触れてみたい。

正面に環境庁長官室。それを見下ろせる形で上部、右、左に台座を置くという舞台装置。初代長官に就任した空賀百石（モデルは大石武一氏）が、前例や慣例にこだわらない奔放な指示を出し、他省庁の思惑などシガにもかけない法案を発想して関係者をあわてさせる冒頭

シーンはカッコイイ。他の省庁から次官や局長が集められて発足したばかりの環境庁に、いきなり長官が混乱をもちこんだのだ。彼らは「無理です」「できません」「そんな無茶な」とことごとくに反発し、嘲笑さえする。ところが、反抗的だった行政幹部たちはまもなく長官の指示に従いはじめ、やがて他の省庁の激しい抵抗をはねのけて新設官庁らしい仕事を熱心に推し進めだす。ついには幹部の督励、他省庁とのあつれきの重圧に耐えきれず課長の一人が自殺するほど猛烈に働きます。こうした意外な変化が会議の進行と共に集団の動きとして明瞭に差し出される舞台処理がうまい。

いきおい、マスコミもはやし立て、世論は盛り上がる。気をよくした空賀長官はさらにハッスル、世論を喚起するようハッパをかける。かくて、観光道路は建設途中で中止となり、法案は次々に成立し、順風満帆の船出と思われた。「近い将来、この国に世論を土台にした制度が環境庁を発信源として、どんどん生まれる。日本の歴史がひっくり返る出来事だ。信じてるよ、この環境庁をな」。空賀長官は意気軒高である。長官を中心にしたお祭りのようだ。

ドラマはこのすぐ後に起こる。内閣総辞職で空賀は長官の椅子を降りることになった。次官、局長らは花束を



座談会

「ゆだ文化創造館・銀河ホールの これまでとこれから」

菅原信夫（湯田町町長）

川村光夫（岩手ぶどう座主宰）

司会 中野 健（劇団支木）

（2000年5月4日 銀河ホールロビーにて）

贈り、盛大な拍手で空賀を送り出す。その時、彼らはぬうーッと「官僚」の顔をあらわにする。彼らが熱中したのは国民と国土を守るという大義だったのか、いや、新設行政機関の強化、さらなる予算分捕り、天下り先をふやすこと、つまり「省益」の増大に腐心していたのだ。「世論が環境庁を発足させたんだ」といきりたつ空賀への答は「世論は利用するためにあるんですよ」。そのとき官僚たちは高い所において、空賀を見下ろしている。その視覚イメージが皮肉だ。空賀は呆然として、かかえていた花束を大地に投げつける。散らばった花びらが滑稽だった。

型破りのヒーローと見えた長官は、実は官僚に操られた道化、トリックスターだった。この、みせかけと実体の転倒を終幕、ほぼ5、6分のうちに喜劇として実現する作劇法がみごとである。トリックスターとは文化人類学から借用した言葉だが、秩序や制度を足蹴にし、踏みはずして騒ぎ回るいたずらもの、おどけものである。（文化英雄としての道化」という点で現代の知識人像でもある）かくて官僚を個人でなく一つのマッスとして、見えない意志、エゴをもつ集団として描き出すことに成功した。これは特筆に値するし、そのためにこそ、作者は道化的ヒーローを中心に置いたのだ。

「樹々の息吹」はその牧歌的なタイトルにもかかわらず、権力としての官僚、もっと大きな権力構造を支える官僚の体質をあぶり出す劇となった。その劇の構図から見ると、自殺した課長も、世論づくりに奔走し遭難死する巨瀬沼・恵蔵小屋主人も、いうならば官僚のエゴ拡張の「犠牲の山羊」となっている。このように悲劇的要素をカッコにくくりこむことで、劇全体が情緒性から切り離され、さらに幻想の対話やコミック挿入によって乾いた叙事となりえている。逆にいえば、感情移入に歯どめをかけ、除湿された劇だからこそ、誰が彼らを殺したのかという問いが、森の木霊のように返ってくる。

劇は官庁の一室での討論を基軸としている。その人事も会話も虚構のものだろうが、劇場の外にはその対象である環境汚染というまぎれもない「現実」が存在する。その意味でぼくはこれをリアリズム演劇と見た。それにしても、政治家、集団としての官僚を演じて、見えない体質をあぶり出すことは難しい。長官役の千田隼生、次官役の山田昭一はじめ菊地佐玖子、佐藤文雄らベテランの積年の舞台経験がその力を発揮していた。注文をつけるとき面白さは倍増するだろう。

はじめに

湯田町へは銀河ホールの柿落し以来8年、毎年足を運んでいる。川村光夫さんとは「がんとり」以来だから13年ほどのおつきあい。しかし、菅原町長さんとかにお話しするのはこれからはじめてのことである。

座談は、町の変容からおふたりの演劇との出会い、そしてホール建設のご苦労と多岐にわたって湧き出て

くる。感動したのはご兩人とも70歳を超えられてなお演劇と町づくりに希望を語っておられたことである。川村光夫さんのこれからの銀河ホール運営のコンセプトと菅原町長の町づくりのコンセプトが共鳴しあっている、状況を切り開こうとしていることである。8月の演劇フェスティバルを全り演あげて成功させよう。

(劇団支木 中野 健)

——町長さん、お忙しい中ありがとうございます。北上市で会議があったそうですが。

町長 市町村合併のことですね。岩手県が正式に「合併案」を発表しまして、その会議です。

——ご苦労さまです。岩手県としてはだいたい何年ぐらいの計画で合併事業を進めようとしているのでしょうか。

町長 まあ、出来るだけ早くということでしょう。まだ素案の段階ですが。

——湯田が町制となって38年、状況は依然として厳しいものがありますね。今日は銀河ホールのこれまでとこれからということで、菅原町長さんとぶどう座の川村光夫さんのおふたりからお話しを伺いたいと思います。

この座談会を通して、過疎化を抱えるこの湯田町にどうして演劇専用ホールを建てる事が出来たのか。また、今年で開館8年目を迎えるわけですが、高い利用率をなぜ維持できるのか、その企画運

営のデザインの組み立てはどうしているのか。このふたつを解き明かすことができればと思います。おふたりは、この湯田町の歴史とともに歩んでこられ、銀河ホール建設の牽引車として活躍されてこられました。まず、それぞれの青春の歴史といえますか、この湯田町の魅力と演劇との出会い、建設に至るまでのエピソードなどお話しただきましようか。

湯田町の魅力と演劇との出会い

川村 なかなか自分で自分のことわからないもので。町長さんが町のことは一番良く知ってらっしゃると思うんで町長さんから。町長 そうですね。ここは昔から鉱山の町でした。平泉金色堂のいわゆる黄金文化の土台を支えたと推

定できる歴史を持っています。産業構造の急激な変化や資源の枯渇で閉山が相次ぎ、それに伴って町も大きく変わってきたんです。今は温泉観光地として落ちついてきています。

川村 町長さんがおっしゃるように、ここは温泉と鉱山の町です。昔は馬に乗って湯治に来ていたそうです。戦後までその名残りをのこしている旅館がありました。ここは他の温泉地とは異った独自の文化的な条件があったんですね。鉱山には東京から当時の最高の教育をうけた技術者たちがたくさん入ってきてましたし、秋田とか近隣の地域から農家の二〜三男が労働者として入ってくる。閉ざされた辺境の地ではあるけれども、どこかに風穴があいていて外と混じりあった文化が育ってきた、そういう土地柄です。

町長 私は戦後の混乱していた時期に代用教員として、先生とは何かもわからないまま働きたんだですよ。無我夢中でしたかね。

川村 奥さんも先生をしてたんですね。町長 そうなんです。ぶどう座ができる前ですが、各村落ごとに青年演劇がありまして私の家内も加わって、確か「父帰る」であったと記憶してますが出演してました。当時恋愛中だったんです。観に行きましたら隣に坐った人が「あのお婆さん役上手だなア!」と褒めるんですね。私もまんざらではなく、惚れ直しましたね。まあ、あまり美人でもなかったからお婆さん役がちやうど良かったんだと思います。

川村 おもしろいもんだな。ながいこと一緒にいますが、あの時あの人と恋愛中とは……。初めて聞



菅原町長



「演劇は湯田町にとって有効な文化として光を放っている。これを近隣の市町村の広域協力で活用していきたい。希望があるから智恵が生まれ、工夫が生まれるんです」と菅原町長（右）。左は川村さん。

く話です（笑）。

町長 戦後まもなくの演芸会というのは電気が充分供給されておらずランプやガス灯をつけたりしてやったもんです。中味はやくざ踊りやのど自慢的なものを中心に演劇らしい演劇を観たのは「父帰る」がはじめてです。刺激をうけましたね。そのあとあわてて菊池寛を読みましたよ。

川村 戦後の演芸会的なものは5年ぐらい続いて1950年にぶどう座が生まれました。先ほど言いましたように、外に開かれた文化的な素地がこの町にあったことも手伝ってぶどう座が生まれたのかも知れませんね。

——川村さんたちがぶどう座をつくらなかったら、ひよっとして町長さんたちが例えば「りんご座」とかつくったかも知れませんね。町長 それはどうかなア（笑）。

——川村さんは戦争にとられて、

一時期東京に住まわれましたね。ムーランルージュとかはご存知だったようですが築地小劇場は知らなかったと。川村さんのそもそもの演劇との出会いは浅草ですか。

川村 いやいや、戦争中もムーランルージュはやってましたし怪演劇などは浅草で観ました。それ以前の子供の頃の体験があるのです。ここに「川尻座」という汚ない芝居小屋があったんです。その「川尻座」で戦争中に青年団がやった「父帰る」を観たのです。綿屋の小林さんという痩せた男の人が女形（母親役）を演じました。近代劇にはじめて触れた感動がありました。奥様が出演したという「父帰る」を観たという繋がりですね。そこまではまだ村うちでの経験でしたが、なんとといっても、昭和24年に

「火山灰地」を東京で観たことで。これを観なかったら私は演劇をやらなかつたかも知れない。

——有楽座ですね。

川村 そうです。以来50年ですからね。ながいことやってますというんなことがあります。現役の教育長の奥さんもぶどう座の劇団員でした。

——町長さんは教職から社会教育に移られましたね。何年間勤められましたか。

町長 2年です。青年教育の方です。視聴覚教育の分野が得意ですね。いろんな集會に積極的に行きましたよ。そういう背景もあって演劇に興味をもってきたのかな。

川村さんも昭和29年に村役場社会教育係になりましたよね。公民館に舞台を造らせたり、学校の体育館にも舞台を造らせたりしましたね。その頃また私は教師でして、

賛否両論でした。学校施設で夜の夜中まで稽古されるんでたまらんとか、大変迷惑だとか（笑）。

——その後、教育長を務められ、助役、そして町長——現在のお仕事に就かれるわけですが、町の変容といえますか、ダムが造られ過疎化が進み、人口は最盛期の3分の1まで減少という厳しい状況にありますね。どのように受けとめられていますか。

町長 時代の流れでしょうね。しかし悲観してませんよ。これはあとで述べますが展望はあります。

——厳しいといえば、ここは豪雪地帯です。雪との闘いぬきには生活できないですね。雪の中で辛抱強く生きることで知らず知らずのうちに人は強く鍛えられるんです。

——そうですね。私のところ（青森市）も雪は多いですが湯田には負けます。そういう厳しいなかで

銀河ホールを建てられた。そのきっかけは。

銀河ホールを建てたきっかけ

町長 町長の仕事に就いてから国民文化祭が岩手県でやられることになったんです。川村さんたちが文部大臣から「地域文化功労賞」をもらって、その祝う会がありましてね。その席で私がいきなり「文化創造館」を建てますと喋ってしまったんですよ。それもまったく思いつきのようですね。

—— 議会に提案する前にですか。
銀河ホール建設のそもそもの発端が町長さんの非公式の場での発言でスタートしたと。

川村 湯田町にはぶどう座があるんで、県の演劇協会でも演劇開催地として候補にあがってたんです。

でも建物を建てても開催地に選ばれなかったら大変なことになる。どちらにしても背水の陣であり、まさに退路を絶たれた状況で、前に進むしかなかったんですね。まあ考えてみれば、そうでないと仕事はできないですね。

町長 正式に発表したらいろんな批判が続きました。金喰い虫だ、ぶどう座のオモチャを作ってやるようなものとかね。それから、具体的にどのような建物を建てたら良いのか、町民の希望を聞くために「建設委員会」を組織し、川村さんに委員長になってもらいました。各集落くまなく座談会をもちました。どこへ行っても批判の方が多かったんです。

—— どういう批判でしたか。
町長 金額も大きかったし、箱を作っても1年に1回ぐらいしか使えないのではとかです。役場の中で

ですから町長さんとは内々に、もし決定したら「会場」をどうしようかと相談をしてたんです。それが非公式ではあったけれども町長発言で既定事実となっていました。このことですね。その場には私の小学校の同級生だった議長も同席してました。議長も、よし俺もやろうとなったんです。

—— 大本営発表ですね。

町長 まだ地ごしらえが出来ていないうちに発表してしまった(笑)。

川村 そのあとに山ほどの苦勞が始まるんですね(笑)。私は岩手県の演劇協会会長でしたから、国民文化祭の演劇会場を湯田町にしたいと提案をしていました。演劇協会のみなさんも了解してくれてました。実現させるには「会場」が無いので町長さんに頼んで建ててもらうことを前提として引き受けなければならぬ。町長さんとし

も、かなりの反対者がいました。役場職員からも批判が出てくるという四面楚歌のスタートでした。川村 だいたい、劇場なんか作る町長は「次は落選だ」という話も聞こえてきたくらいですから。

—— 命がけでしたね。

町長 建物が完成したら私の政治生命は終わりだと覚悟しました。ところが完成し運営してみると、うれしいことに利用率は高いし利用する人たちのホールに対する評価も上々。専門の演劇人たちも「湯田町の観客はレベルが高い」などと褒めてくださるし、今度は逆に町民がそれを耳にして自慢するようになり喜ぶというふうに変化してきましたですね。

—— 当初から演劇専用ホールを意図されたのでしょうか。

町長 そうです。私も川村さんも演劇専用ホールだと考えてました。



ニから 柿 落とし公演の前に、ビニールシートをかぶせた座席

若い人たちからは音楽ホールの要望が強かったんです。そこで演劇と音楽の箱の違いは何かというところに残響効果なんです。それだけの違い。現代の音楽の状況を見るとロックや吹奏楽器を中心としたものが主で残響効果など必要ない、かえって芝居小屋の方が良いとある人から教えてもらったんです。ですからスタート時点から演劇ホールとして設計し、音楽については備品か何かでカバーしようという発想でした。私は抵抗はなかったのですが、若い人たちからは批判がありました。

—— 先見の明ですね。設計者との出会いも大きかったのではないのでしょうか。清水裕之さんですね。

川村 あれこれと情報をあつめていたなかに「劇場の構図(鹿島出版)」という本に出会ったんです。読んでもおもしろかった。従来のような

市民会館、県民会館ではなく、今日の視点で劇場はどうあるべきか国際的な視野で論証してるんですね。

町長 その本を川村さんから借りて読みました。なるほどこの人ならいいだろうということで清水裕之さんと呼んで、一般の人たちにも入ってもらい講習会を開いたんです。

―― 予算は13億でしたか。



川村光夫氏

たらいいかたと打算的な考えも持っていました。結果的にはそういうことをやらなくともお客さんを集めることができるようになってきた。

―― というのも、川村さんとぶどう座が永年培ってきた演劇人との交流、学びあいがいっつの間にかネットワークとして広がりを持っていったことが大きいですね。だから国民文化祭の時に全国からたくさん演劇人がお祝いに駆けつけてくれた。建設までのご苦労はあるにしても祝福されてのスタートでしたし、その後も地域演劇祭が持続して成果をあげていますし。

町長 ここまでできたらあとは名誉館長の川村光夫さんにすべておまかせです(笑)。人材を育ててもらってソフトの面でも運営の面でも。おまかせした立場ですから、金は出しても口は出さない。思う

川村 最初は10億規模でした。定員500人規模の要望もあり予算が膨らみ過ぎ、それで詰めて削って現在の338席にしたんです。

町長 なぜここ湯田町に劇場を建てようと思ったかというところ、川村さんに引っぱられて富山県の利賀村に2人で視察に行ったんです。富山でレンタカーを借りて、ものすごいしゃぶりの山道を私の運転でね。帰りは晴れていてよくみると崖っぷちの道路を走ってたんですよ。怖かったね。山の奥の、人口2000人ぐらいのところ、劇場を作った本当に使えるのかどうか疑いをもってね。合掌造りの民家を改造して劇場にしているのを見ました。ここに夏になると何百人もの人が集まると聞いて、よしわかった、これだったら湯田でもやれると確信したんです。

―― 銀河ホールの名前は公募です

ようにやって欲しいですね。ただし、人の真似事は嫌です。他でやってないこと、個性のある仕事をやって欲しいと願っています。

結果的に千人規模の大ホールを作らなくて良かった。そんなもの作ったら多分もてあましてると思います。

川村 ここで地域演劇祭を7回やってきましたが、毎回町長さんが客席で観てくださる。町長さんが客席に坐っていることが力になるし、町民を励ますんです。

―― 私も感心しました。激務を抱えられているのに時間をつくられていつも客席にいらっしゃる。

町長 努力をしてホールに足を運ぶようにしています。私が先頭になって観客席に坐っていきましょう。

川村 町内の人は喜ぶし、よそから来た人は「こういう町長もいるもんだ」と感心する(笑)。

か。

町長 そうです。

川村 確か30ぐらいの応募がありました。第1位が銀河ホール、第2位がUホールです。

―― 国民文化祭から8年、順風満帆に経過してきたように見えませんが、あらためてお聞きします。出発時から将来設計と聞いていますか、ソフト面での運営の見通しがあったのでしょうか。

川村 はじめにプランありきではなく、ごく自然に進んできたのではないかな。ホールの運営委員会があつてそこで企画を練って今度はこれをやろうと。

町長 よその温泉地の大きな旅館なんかでは数日間、湯治客のために演芸会などやってましてね。ここ湯田町にはそんな大きな旅館がない。そこでホールが完成すれば、観光協会と協力して催し物がやれ

町長 たびたびここに足を運び舞台に接することが楽しくなってくるんです。義務感ではなく努力しているうちに楽しくなってきた(笑)。回を重ねると芝居が良く見えるようになってきたし、しかも劇評まで聞くのですから勉強になりますね。

―― このアートマネージャーの新田満さんも「俺は最初、演劇のことは全然わからなかった。わからないから人から教えてもらった。芝居をたくさん観たり学んできた。学ぶと楽しくなる。それだけだ」と言っています。

町長 いまでは湯田町自慢の建物です。町会議員さんたちも、よそに行くとき胸を張って銀河ホールのことを語ってますしね。

―― 地域に活かしている劇場ですね。建築家の清水裕之さんが「21世紀の地域劇場(鹿島出版)」の

中で、銀河ホールの行き方は地域共同劇場といった趣を持っていると指摘されています。その意味は、湯田町と近隣の市町村、秋田・岩手にまたがる地域共同という性格と、もうひとつは全国の地域劇場や演劇人が共有しあうという2つの意味がある。これまでの7年間の実績を振り返ってみますと、町民文化祭はもちろんのこと、演劇の分野だけでも、地域演劇祭、ロ



中野 健氏

とで、この銀河ホールの仕事がより鮮明になってゆくはずですし、何より地域社会に貢献してゆくことになると思います。さらにですね、2年に1回くらい民話劇、歴史劇というか、過去の人々の文化遺産を今日に受け継いでその対話してゆくという性質の戯曲を全国から公募する。まだ公募タイトルは決まっていますが、翌年にそれを舞台化する。これを1年おきに連続してやることで銀河ホールの性格がある深みを持ってもっとはつきりするのではないかと考えています。

それと専門劇団の地域滞在型の……現在、前進座が来ています……創造活動への支援とか、北国演劇ネットワークの充実だとかですね。聞くところによると、来年、前進座友の会のみなさんが湯田町においてになる予定があると

シア演劇との国際交流、雪国演劇ネットワーク事業、演劇講座。高齢者障害者演劇、地域演劇を考えるシンポジウムなど多彩です。こうしてみてもと銀河ホールは、演劇を活かして町づくりに貢献している姿が見えてきます。

さて、銀河ホールのこれからが課題となります。

これからの課題

川村 町長さんに相談中なのですが木下順二民話文学碑を建てようと考えています。木下順二さんは、ここ湯田をモデルに「ダム」というラジオドラマを書かれた人でもあるし、私たちの目標としてきた劇作家であります。80歳を超えられてお元気です。全国のゆかりの人たちにカンパをお願いして来年あたりに建てたい。単に文学碑だ

けではなく、もうひとつ大切な意味があります。

銀河ホール柿落としての国民文化祭は「民話劇」でした。ここにこられる人たちの中には、町全体の印象も含めてでしょうが、民話劇にふさわしい劇場ですねと言う人もいます。「民話劇場」と限定されても困るんですが、しかし民話という先祖の文化遺産と現代人とか関わりあって芝居を創るということは、こういう地域にとってふさわしいのではないかと。雪の下に耐えて生きてゆくということ先祖もやってきたわけで、そういうものを受け継いで我が心としてゆくという芝居創りを少し前に進めてゆく必要があるのではないかと考えています。

そういうコンセプトを持った劇場はどこにもありませんね。

川村 それに近づいてゆくというこ

か。

町長 それですよね。市町村合併や過疎のことが先ほどから話題にできましたが私は絶望してはいないんです。ここは過疎地ですが希望はあるんです。定住人口は確かに減っています。しかしそうであれば交流人口を増やせば良いのです。

交流人口も町の財産であり資源なんです。それだけではなく、交流人口を結果として定住につなげてゆく努力をしなければいけない。その交流事業のひとつに演劇があります。演劇は人と人を結びつけます。実感です。演劇はここ湯田町にとって有効な文化として光を放っています。まだ小さな光ですが、これを活用してゆく。近隣の市町村の広域協力だね。希望があるから知恵が生まれ、よそにはない工夫が生まれるんです。

今の町長さんのことばで座談

会のしめくくりとしたいと思えます。今日はお忙しいなか、ありがとうございました。8月25日から3日間、全日本演劇フェスティバル・銀河ホール地域演劇祭がここ湯田町銀河ホールで開催されます。この演劇フェスティバルは湯田町から多額の補助金をいただいで開催されます。町の期待に応え、全国各地からたくさんの方に参加してもらい成功させたいと思います。

ありがとうございます。

計報

この「座談会」のなかで、菅原町長さんと奥様との若かりしころのエピソードが語られておりますが、奥様の菅原文字様が5月26日急逝されました。享年70歳。慎んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

中野 健

北から南から

● 劇団通信

〔劇団 河童〕

「無沙汰しております。」

さて、今年の9月15・16・17日の3日間、北海道北見市と隣町の端野町で第19回北海道演劇祭 in オホーツク（ハツカのまち演劇祭）が開催されます。2年に1度道内各地を持ち回りで開催している演劇祭も19回目を迎えます。2年前の檜山（江差町・上ノ国町・厚沢部町）での演劇祭から準備を重ねてまいりました。なんと北見での開催は22年ぶりです。

今回の見どころは、9作品中創作劇が4本です。澁谷健一氏・作が3本、久しぶりに石上慎氏・作が1本という内訳です。また結成3年目の若い力であふれる劇団みずならや地元青年団ねぎぼうずの上

演もあります。おやこ向けには、劇団さつぼろと風の子北海道の2作品も上演されます。子どもからお年寄りまで楽しめる作品で、いつばいで

また、北海道舞台塾オホーツクステージの1事業として演劇フォーラム、北海道文化財団主催の妹尾河童氏の講演会と盛りだくさん。

すがすがしい9月の北海道でお待ちしております。

（布施 茂）

〔劇団 海鳴り〕

こちらはようやく桜の開花宣言が出され、緑萌える季節です。

2月に団内の定期総会を行い、活動計画等を協議。9月の北海道演劇祭 in オホーツク

（於北見市）参加、第30回定期公演の演目を「鉄道員」に決定しました。京浜協同劇団の山本氏より上演許可をいただき稽古をスタートしました。4月には子役のオーディションを行い、制作発表。その記事が全道版（北海道新聞）に掲載され、稽古場の雰囲気は上昇中です。

久し振りに力量が試される作品で緊張もしておりますが、感動できる舞台を目指し努力しております。紋別公演は9月30日（土）、10月1日（日）で、仲間の皆さんの観劇をお待ちしております。

（五十嵐陽子）

〔劇団 さつぼろ〕

ようやく桜が満開となりました。季節は確実にやってく

を3分割して稽古しなくてはなりません。付き合う演出家は激務です。

「ほくたちの遭難」は4年目を迎える作品で、小さな漁船が舞台というユニークかつ素敵な芝居ですが、残念ながら今年で打ち上げとなりま

（林中直樹）

〔劇団 新芸〕

桜の季節が終り、新緑の美しい頃になりました。

「小樽・運河・桜坂」少しずつ光が見えてきました。道演集理事「湖」の加藤氏や新劇場の山根氏をはじめとする諸氏の男気のおかげで、劇団さつぼろの飯田信之氏を演出に迎えることになりました。

「新芸が北見演劇祭にこの

るのに、北海道は、沖縄と肩を並べるといふ失業率に加え、不景気に道庁の談合疑惑と有珠の噴火がそれに輪をかけるという暗い冬の状態のままです。また、完全5日制にむけて行事精選や授業時間の確保という理由から芸術鑑賞教室の実施を見合わせる学校が増えました。本州の各地域でも同様の状況となっていると思います。

劇団にとって、上演の機会が確保されず練られた舞台になるどころか、収入の激減につながる深刻な事態です。いづれも今日の政治のありようから来ていると思われ、なりません。銀行への公的資金の投入やアメリカ軍への思いやり予算などは湯水のように使うのに、庶民や被災者は、ま

作品を持って出たいという気持ちを持てたいという気持を大事にしようじゃないか」と言ってくださったの結論だそう。制作も北見に合わせた予算に変更し、切符単価を300円値上げして1800円にすることでギリギリやりぬこうということになりました。

飯田演出の稽古は口調はあくまでやさしいのです。何げない間は台本を考察して、時代を読みながらの中から、勉強不足で臨むと恥ずかしいです。若い役者は、当日不在の役の代役にもダメを出してもらえるので、もつとやりたいといつも言っております。

2人ヒロインの1人の智恵役の参加がないまま、テーブル稽古が進んでゆくのもったいないです。週1回しか参加できない私は口惜しいです。

5月中旬、準主役の明之助役に新劇場の斎藤誠治氏に客演していただけることになり

ました。困難な状況が、人々の助けを受けて新鮮な稽古場に変化してゆきそうです。

4月8日・9日の道演集総会に3人が参加。新年度の企画推進委員に広光が加わることになりました。（宮津）

〔劇団 支木〕

前号（102号）は私たちの舞台装置（舞台美術Ⅱ孫福剛久氏）が表紙に載っていたので、手にした時はうれしいやら恥ずかしいやら。岐阜での国民文化祭で「壺・ヤボネシア」をやらせていただきました、とてもいい経験になりましたし、他劇団の舞台や文化祭成功のため奮闘している方々と接し、大いに勉強させていただきました。この場をお借りして、改めてお礼を申しあげます。

さて、春公演は……と勢いよくお知らせしたいところですが、じつはまだ未定です。初

つたく見放されています。

また、ゆとりのない競争の教育がゆがんだ病巣を呈しています。千葉、愛知、佐賀など管理教育の強いところから事件を起こす少年が続いて出たのも偶然でしょうか。マスコミは、社会一般の学校・地域、親の教育の問題にしていますが、ほんとうにそうでしょうか。いずれのケースでも弱いものへ弱いものへとその矛先が向かっています。強い者から脅迫された者が、一転して弱い者を脅迫するという図式です。個々の親や学校の問題でなく、国全体で子どもをどう育てるかが問われていると思います。

さて、劇団は、中高校一般公演「ほくたちの遭難」（澁谷健一／作）と久しぶりの再演「やまんばのにしき」（松谷みよ子／原作）の稽古の最中です。稽古場公演の自主稽古も入ってきますので、1日

のアトリエ公演を、若手団員の脚本で仕上げたいというところから、予想以上に時間がかかっています。難産ではありますが、団内にはこれまでにない意欲的な雰囲気も充満しています。一人一人が主體的に関わっていくことで、個人と組織が両立して成長している確かな手応えがあります。秋公演は、11月の県民文化祭の参加になっていて、こちらのほうは次号で詳しくご説明いたします。

8月の全日本演劇フェスを大勢の参加で成功させましたよ！
(有馬)

〔黒石演劇研究会〕

桜・宵宮・ねぶたとまつりの季節になりました。まつり好きのわが研究会は、稽古そつちのけで準備に追われています。皆さんがご推察通り我々の気合の入った稽古は、ねぶた祭りの終わる8月中旬

からなのです。前号では、今ごろは立ち稽古をしているはずでしたが今年もまた例年のパターンになってしまった。それでも毎年公演出来ているのには、時に不思議になるのです。

さて、わが研究会に朗報がありました。なんと、女性助っ人の登場です。女優不足のわが研究会にとつてはまさに天の恵み。これで少しは台本選びに幅が持てるようになりました。この機会を逃さず我々は会員にしようともくろんでいるのである。そう、研究会得意の宴会作戦である。まずは桜まつり、そして……無事秋には成功していることを皆さんも祈ってください。

来年は、大ホールという誘いもあり、来年をにらみオリジナルをとも思っております。とにかく気合を入れてこれから稽古に励みたいと思います。
(清野)

〔劇団 だいこん座〕

5月20日、鶴岡市中央公民館ホールにて、灰谷健次郎原作、大橋喜一脚本、高橋寛演出「ワルのぼけつと」を公演しました。灰谷健次郎の原作は20年ほど前に書かれたものですが、ワルサをしながら成長していく姿は、なにかと子どもの育ちが問題視されている今日にあって現代に充分通じるものがありました。

ワルガキ6人組に小学生、中学生を起用し、初舞台の人が多く、どうなることかと思いましたが、楽しく稽古にも参加し期待にこたえてくれました。劇中で5曲ほど歌って踊る場面があるのですが、若い出演者は喜んでやってくれました。出演者14人、劇団員以外の協力者も加わってやっとな上演できる状況ですが、周囲の人々の力も借りながら公演を続けていくことが大切なことだと考えています。

〔劇団 埼玉〕

◆第75回公演「風・夏冬」上演続報。
「演劇会議」百号記念戯曲集に掲載されている「風・夏冬」(相沢史郎/作・佐藤逸平/上演台本・由布木一平/演出)の上演は7月22日、23日が浦和市市民会館、8月25日が岩手県湯田町銀河ホール、そして9月30日・10月1日が東京、地下鉄三田線の千石駅そばの三百人劇場です。

一つの芝居が夏と冬で内容も全く異なるものが同時進行で進められ、しかも場所が岩手の北上地方と新宿西口地下道。一方は真夏スタイル、かたや真冬の衣装での稽古。従って稽古スケジュールも岩手班と新宿班に分けて岩手班は埼玉の稽古場で、新宿班は深川の「とっくり座」の稽古場をお借りして進めるなど、てんやわんやの稽古風景です。それでも、少しはゆとりを

もってやろうと、5月初めの

連休には劇団員が大勢岩手を訪れ、現地で直接原作者から方言の指導を受けてきました。このおかしくてしかも悲しい物語が、どこまで我々の力で観客の心に伝えられるか、目下の大きな課題です。「心のひろしま あしたきらきら」の上演から生まれた朗読グループ「きらきら」の会が星野富弘さんの詩画集より構成した作品を上演すべく準備中です。

メンバーは現在18人、演出は由布木一平が担当します。
(中山)

〔青年劇場〕

全国の皆さんお元気ですか？
まずは公演報告です。第76回公演「菜の花らぶそでい」(高橋正園/脚本・松波喬介/演出)(4/14~30)は前作「遺産らぶそでい」(90年初演)に引き続き、佐賀県唐津の専

業農家が舞台です。

今日の日本農業の現状を経済・流通面だけでなく、食文化の側面からもとらえ、加えて消費者である私たちがこれから何を選択していくのかにも迫る作品でした。会場は爆笑に包まれ、新聞評でも「骨のある社会派喜劇」と好評でしたが、観客動員では大変苦勞し、楽日まで奮闘が続きましたが(17ステージ、5656人)目標の7500人に届かず残念ながら課題を残しました。

◆演劇鑑賞会等一般公演
「真珠の首飾り」ジェームス

三木/作・演出、5月~6月、関東・東北・沖縄・近畿・東海

◆「愛が聞こえます」高橋正園/作・松波喬介/演出、6月~7月、九州

◆学校公演子ども劇場公演
「17才のオルゴール」森脇京

子/脚本・堀口始/演出、5月~7月 東海・滋賀・長野・関東

◆「翼をください」ジェームス三木/作・演出、6月~7月、長野・近畿・東北

◆第77回定期公演「島清、世に敗れたり」松田章一/作・松波喬介/演出(9/15~10/2)紀伊國屋ホール・前進座劇場、他

「真珠の首飾り」東京再演ではベアテ・シロタ・ゴードンさん(登場人物のモデルの一人)、日本国憲法草案に女性の権利を書き込んだ)がニューヨークからかけつけてくださり、ちょうど開かれていた参議院の憲法調査会のメンバーも「超党派」で観劇するなど、マスコミでも大きな話題となりました。日本を「神の国」に逆戻りさせないためにも私たちは歴史をきちんと検証していく必要があると思

います。「真珠の首飾り」は

来年も全国公演を計画中。

さて、この号が届く頃にはもう総選挙の結果が出ているのでしょうか？「くらしと文化」……我々「国民の立場」から政治を押し進めてくれる議員さんが一人でも多く誕生してほしいものです。それでは8月銀河ホールでお会いしましょう！
(中谷 源)

〔東京芸術座〕

この4月28日、桜の花の散り去るごとく、劇団演出部長・舞台美術家、松下朗(本名・勝則)が永眠致しました。享年73歳。全り演との関わりでは、1989年の東会議の合同公演「西風に起つ」(亀井淳/作・早川昭二/演出)で、装置を担当しました。劇団葬「松下朗さんとお別れする会」は5月27日・千日谷会堂で。皆様の生前のご厚誼に深謝致します。

さて、公演活動では4月に
外国物で予定しておりましたが、上演権が取得できず飛ばすことになってしまいました。
全国巡演は、巡演3年目になり
ます。「ブラボー! ファー
ブル先生」(平石耕一/作・
杉本孝司/演出)が北海道・
東北・関東・東海・近畿を巡
演し7月帰京。巡演2年目の
【勲章の川】(本田英郎/作・
高橋左近/演出)は、東北・
関東・東海・近畿・山陰を巡
り7月中旬帰京。

そして、全員が揃ったとこ
ろで劇団創立40周年記念公演
の掉尾を飾る9月東京公演・
藤原新平/翻案・脚色・演出
【夜明けの街】(E・Dフィリ
ッポ/原作)の取組みに入り
ます。久々の紀伊国屋ホール
での公演は、9月1日、5日、
大田区民プラザは6日、江東
区文化センターは7日、そし
て、8日には福島県文化セン
ターで福島女子高校の全校鑑

賞が入っています。

9月半ばから、「ブラボー!
ファーブル先生」と「勲章の
川」の2作品が下期の全国ツ
アーに入り、12月まで。この
間、劇団所属の舞台美術家・
園良昭に、長年にわたる舞台
美術家の活動、合わせて「夕
鶴」「子午線の祀り」公演な
どの舞台監督としてのすぐれ
た成果に対し、「山本安英の
会」記念基金から助成金が授
与されました。

また、同じく劇団所属の劇
作家・平石耕一は三越劇場で
の上演【家路】(文学座)お
よび紀伊国屋サザンシアター
での上演「湧きいずる水は」
(民藝)の作者として、第9
回(社)日本演劇協会賞を受
賞致しました。(郡司)

〔劇団 阿修羅〕

昨年は、イブセン「人形の
家」を上演。今年は、レジナ
ルド・ローズ「十二人の怒れ

る男たち」を松木園の演出で
上演します。9月12日(火)
15日(金)の4日間、品川
六行会ホールにて。冤罪事件
をいまだかかえる我が国日
本。市民のための、開かれた
司法を追求したい!意志をも
った作品となること間違い無
し。乞うご期待!!
(寿美)

(寿美)

〔演劇サークル「妻の会」〕

全り演の皆様、お元気です
か。連日のご奮闘ご苦労様で
す。凶悪少年犯罪の多い昨
今、まことにユウウツで胸の
いたむ思いです。さらに、「神
の国日本」とか「教育勸語」
といった首相発言に、時代が
逆戻りしたのではないかと思
い、思わずドキリとしました。
いまこそ平和憲法を大事にし
なければと感じます。

さて私たち妻の会は、今年
に入って総会を終え、10月公

という劇団の方針のもとに選
ばれた作品で、沖縄を舞台に
多くの民間人が命を絶った沖
縄戦やアメリカ軍による統
治、基地問題など、戦後55年
経った今でも解決していない
沖縄の問題が盛り込まれてい
ます。沖縄に住んでいるわけ
でなく、戦争体験者でもない
私たちが本当の辛さや悲しみ
怒りなどを、どこまで伝えら
れるのが難しい点もあります
が、沖縄の人から話を聞いた
り、沖縄民謡の先生に来てい
ただいたりして、自分たちの
できるところから頑張ってい
ます。ご期待ください!

今後の予定としては12月15
日から17日に奮物の公演を予
定しています。(小西和子)

〔劇団銅鑼〕

新緑薫る4月25、28日
【樹々の息吹】(平石耕一/作
・演出)を成増アクトホール
で上演しました。公害問題が

深刻化した71年。危機感はず
論となり世論の高まりは環境
庁を発足させた。人命尊重を
理念として奮闘した初代長官
・空賀百石。型破りな彼の
奮闘に戸迷いながらも能力を
発揮してゆく官僚たち。世論
を代弁する記者団。そして公
害の陳情者たち、その中に尾
瀬沼の自然保護を訴える山小
屋の主人も。

「……自然は一度壊れたら
取り返しがつかなくなりま
す」。彼、星野太一は1月上
演【序章】の主人公でした。
かくて(平石版「現代日本小
辞典」)第1弾「序章」第2
弾「樹々の息吹」を大好評で
終り次の準備に入りました。

第3弾は内田康夫原作「藍
色回廊殺人事件」(平石耕一
/脚本・演出)。吉野川河動
堰建設をめぐる殺人事件。お
なじみ浅見光彦シリーズ初の
舞台化に(榎井沢のセンセ
ー原作者)も興味を寄せて

おられるそうです。8月23
、27日。9ステージ。【序章】
に次いで稽古場を使い実験的
な演劇空間を創ります。今度
は土・日もありますのでぜひ
上板橋までお運びください。
1ステージ70席の限定、お早
目にお申込みを。

今年度の「センポ・スキハ
アラ」の学校巡演が始まりま
した。初演から数えて9年。
6月6日京都八幡文化セン
ターで5000回を記録しま
す。今なお改稿に改稿を重ね
おかげで鮮度も緊張感も衰え
を見せず成長しつづけている
のはうれしいことです。お近
くのホールにまいりました節
はご覧くださいませんか、銅
鑼に電話をくださいれば情報をお
伝えいたします。

いずこも同じく銅鑼でもゴ
ミ問題は深刻だ。特に不燃ゴ
ミの始末ときたら、もう。そ
こで尾瀬沼に習って各自持ち
帰ることになった。のだが、

演にむけて、ようやく稽古を
開始しました。10月13、14日、
麻布演劇市参加公演、アーネ
スト・ボーイニング作「黄昏」
を上演します。夫79歳、妻69
歳、共に人生の黄昏をむかえ
る個性的な自我の強い夫妻を
中心に、娘、娘の恋人、子供、
娘の友人との葛藤を通じて、
老いの問題を描いたドラマで
す。私たちとしては久しぶりの
翻訳物、肩ひじはらず、私
たちのもてるものを充分に出
した舞台にしたいと思ってい
ます。よろしくおねがいしま
す。(吉岡利根雄)

(吉岡利根雄)

〔劇団 蒼生樹〕

私たちは去年の12月に、3
回にわたって行った15周年記
念公演を終え、今は7月14日
から16日に上演する「海の沸
点」(坂手洋二/作)の作品
づくりに励んでいます。

この作品は、「21世紀への
メッセージ性がある作品を」

現実はい——忘れて帰る輩が結
構いるのです。ひどいのは帰
りに立ち寄った飲み屋にうっ
かり置いてくる御仁も。ゴミ
持ち帰り運動が身につくま
で、まだ時間はかかりそうな
気がします。(菊地)

〔京浜協同劇団〕

★内田勉が「とびだすエン
ピツ」で演出者としてデビ
ューしました。この作品は、
北川幸比古の童話を若林一朗
が脚色したもので、川崎市か
らの委託を受けて第29回「か
わさき演劇まつり」で上演し
ました。欲しい物を描くとそ
れが飛び出してくるという特
許の鉛筆をめぐる話です
が、物よりも大切なものがあ
るはずだという作品のメッ
セージが好評だったよう
です。細田寿郎のマジック仕掛
けは圧巻でした。(3月下旬
川崎・幸文化センター、3回。
観客1300人)

★第36期新人(研究生)の7人が、1年間のレッスンを終えて、5月上旬に「スペース京浜」で卒業公演を行いました。上演作品は、北野ひろし作の「あいまい」。価格が高くてとても手が出ない1戸建て住宅。ならば他人どうしでも2世帯で住めば半分の負担で済むという不動産屋の口車に乗せられたサラリーマン一家を描いた喜劇。客席からは笑いが絶えず、新人たちは手ごたえを感じていました。新人たちだけで300余人の観客を集めたのも立派。終演後観客を前に卒業式。卒業後も全員が劇団に残るというので、教育を担当した瀬谷やほ子、清水治栄もジーン。今回の新人は、講師も劇団員みんなでやろうという方針のもとで育てました。それがよかったですといえます。

★夏の公演は、7月1日から10日まで、「スペース京浜」(稽古場)で10回やります。木庭久美子作「さよならパティ」。世をはかなんだ老人たちが、「幸福の木の実」を食べて天国へ行くとうと企みます。お別れパティを開こうとする矢先、ある事件が起きて、老人たちは自分の人生の意味を考え直そうとします。木庭作品に惚れた室野定子が演出します。

★秋の公演は、神奈川県演劇連盟の劇団の合同公演で、演出を加藤直氏にお願いしました。「西遊記」をベースにワークショップ形式で集団創作中です。どんなものになるやら乞うご期待です。

①定期公演(7/23) 創作劇「ザ・ニッポン株式会社」、県芸術劇場(長坂町11/4)、山梨演劇合同公演(2001・2/3)

②全リ演フェスティバルへ精力的にとりくむ(10人)

③劇団創立50周年で稽古場増改築へむけての5カ年計画

④財政活動の重視

⑤劇団友の会の組織強化

⑥稽古場への集中を高め、楽しい劇団活動で団員を増やそう

喜劇「ザ・ニッポン株式会社」は第1稿から勉強会を含む4回の劇団討議をへて河野通方がまとめ、演出梅津幸三で稽古にはいりました。芸術劇場は地元長坂町のはなしを台本にする作業がすすめられ、合同公演も創作劇で構想が練られています。

劇団45周年を記念して劇団員募集を行い、現在までに20代前半の男女4人が入団して

ばかりですが、質量とも女性パワーでもっている劇団の実態を示した公演だったと思います。ただ、歴大なセリフに振り回された面もあり、いつかまた井上作品にぶつかっていろいろ話し合っています。

さて、一息つく間もなく、現在は夏恒例の子ども劇場の準備を進めているところです。

●第19回天白/第32回南ことも劇場

【冒険者たち】小田健也/脚本・服部順一/演出・音楽7/21・23 名芸平針小劇場9/19・20 名古屋市南文化小劇場

ミュージカルをキャッチフレーズとしたため、若手を中心に連日、歌に踊りにと汗を流しています。そしてこの勢いで、夏のフェスティバルにも何人かで参加したいと思えます。

その他、有志参加ですが、これまた夏恒例の「反核舞台

人の集い」で、8月に「銀河鉄道二〇〇〇」(栗木英章/作・久保田明/演出)を上演するの協力したり、11月に名古屋演劇鑑賞会創立45周年も兼ねて行われる地元劇団・演劇人の合同公演「飢餓海峡」(水上勉/作・木村光一/演出)にも、一部キャストとして参加しながら準備が本格化してきました。

今秋と来春については、現在レバ討議中で、5月末には方向が出せると思います。今年には故代表、柘植洋の七回忌でもあり、月日の経つ早さに、今さらながら驚いています。あゝ忙しき日々、もつと時間を!

(栗木)

(名古屋演劇集団)

前号でお知らせした「黄昏の季節(とき)」を3月に打上げ、新年度を迎えました。団内での総会を開き、すぐに投票による新生運営委員を決

定(これが毎年ドキドキもんです!)、次回の公演予定や当面の稽古日程等を決めて行きます。前劇団代表・北原雅子の休団により、劇団代表には土屋隆司が就任しました。

さて、そんな中、次回公演のための脚本選びから入っている演集ですが、公演は10月頃の予定です。次号までには詳しい内容を報告できると思えますので乞うご期待!

(磯谷 誠)

【劇団 名古屋】

劇団は今、春の公演に向けて稽古・稽古の毎日です(6月9・10・11日愛知県芸術劇場小ホール「海の沸点」坂手洋二/作・久保田明/演出)。

ここ何年か、家庭をテーマにした芝居を中心に、涙あり笑いありの口あたりのいい芝居が多かったのですが、久々の直球勝負の芝居です。87年、沖縄で開かれた国体で日の丸

をひきずり降ろした男を中心に彼の家族、支援者たちの9年間にわたる戦いを描いたお芝居です。登場人物の大部分は実在の人物、事実の重みを実感しつつの稽古です。加えて三線の演奏、踊り、方言など、あと2週間少しの中で課題は山盛りです。なによりも「沖縄の心」をどこまで僕らが理解し伝えることができるか……。

あいかわらず、たくさんの人たちの協力を願っての公演です。舞台も客席も中味あるものに……。今一番しんどい時期ですが、がんばるしかありません。また次回、公演の報告をします。(谷川伸彦)

【劇団 はぐるま】

映画「郡上一揆」の現地ロケが続いています。劇団からもエキストラとして、5人、10人と参加しています。セリフのある役はともかく、足だけ

だったり、後ろ姿だったり、数百人のうちの1人だったり、自分の姿を見付けるのも大変なシーンばかりですが(編集でカットされる可能性も……)、映画の撮影現場を体験するという事は、貴重な経験だと思えます。また、製作支援活動として、出資金、協賛金の受付窓口を劇団内に設けて、金銭面でも協力しています。「郡上一揆」公開の折には、どうぞ見てやってください。

春の本公演は、ロケ協力のために上演せず、研究生の卒業公演のみとなりました。旧家の女たちの生き方を描いた、町井陽子/作「柳」を御浪町ホールで3ステージ上演し、279人のお客様に見ていただきました。この公演を経て、6人が入団しました。夏のミュージカル劇場は、「西遊記」を岐阜市民会館で上演します。7月21日が6時

い。劇団も企業であれば芝居創りもスピードを要求されるということか? そもそも芸術文化はゆったりとした時間の流れの中で、試行錯誤の作業を繰り返しながら深まっていくものだ。時間がかからない小さな試行錯誤、振れない舞台創りだとすれば、芸術文化の貧困を自らの手で進めていると言える。俳優は頭の回転が速く、演出の要求を短時間で受止める能力があること。またその要求を自身の体で速く表現できる能力があること。俳優はせりふ覚えが速く、それらしく聞かせる能力があること。 こういう能力がないと専門俳優は務まらない……ということであれば、演劇の公共性はかなり幅が小さくなるように思う。また老人は経験だけで

半、22日、23日がそれぞれ10時、2時の計5ステージとなります。前回公演の「ジブシー」が終わった後、ダンスを中心に基礎レッスンを続け、振り付けなども早めに取り組んで来ました。再演のため、前回の音楽などは手直し程度で使用できるのですが、初演を越える舞台にするためには、これからの勝負になります。

夏以降の予定としては、10月にこばやしひろし/作・演出の大垣市民創作劇「春日局」、11月に林大輔/作・汲田正子/演出、岐阜市民芸術祭演劇部会合同公演「円空になったババ(仮題)」に参加することになっていきます。移動公演もあり、最悪で3つの舞台が平行して進行することになります。メンバーのやり繰りをしながら乗り越えて行こうと思っています。(内田 薫)

ついていけない、みんなの足を引っ張ることが心苦しいと自ら俳優をあきらめざるを得なくなる(想像です)。あるいは老人グループで劇団を作り、ゆつくりしたスピードで芝居創りをやるということに発展する? かもしれない。夜明けも最近老健城山劇団(城山)という言葉が時々飛びます……冗談で! 俳優が経験という能力と身につきの遅い必死の勉強に取り組んでも「基準になる速さに」適合できなければ、舞台に立つチャンスは著しく減少し、経験豊かな俳優の演技を観て学ぶという事はできなくなってしまうように思う。少なくとも必死になってようやく「せりふ」が入ったら初日の幕という芝居創りはやっていけない……と思うが、でも現実多くあるのではないか? ……いつもそうだよ! でも

〔劇団 夜明け〕 前号の演劇会議に我劇団の通信が載っていない。確かにFAXしたはずなのに……期限に遅れたためかFAXのエラーがあつたのか? 「国民文化祭の成果を『きらめく星座』9年ぶりの再演の成果に結びつけられた」と

昨年国民文化祭で共演した地元専門劇団「なんじやもんじや」の西尾さんに出演してもらったこと、また同じく国民文化祭と一緒に青年劇場の中津川さんに3日間におわたる指導が得られたこと、そしてさらに国民文化祭で演出を受けた、ふじたあさやさんから学んだことを一生懸命生かした事など、最近になり評価を多くのお客さんからいただくことができた。稽古を重ねるなかで「役の関係をしっかり創る」ことは実に大変なことだ。つくづく

特定の人だよ……役の人間を創る! ものすごく大変なことを私たちはやっている。このことは確かだ。短時間でものすごいことはできないと思う。 # ユタとふしぎな仲間たち の再演計画 「きらめく星座」に続いて次回公演も再演! 13年前の不十分の舞台を総力を挙げてレベルアップさせ、観てよかった、やってよかったと言え舞台をめざしたいと思っている。大幅なレジーを行い、やりがいのある本にしたいと挑戦している。 7月22、23日(3ステージ)、中津川文化会館、目標は1500人。(鈴木弘文)

思う。きらめく星座で充分できたわけではない。しかしいつもそういう目標を掲げて稽古を取り組まなければならぬ。 青年劇場公演「菜の花らぶそでい」を観てこのことに関連して思ったこと いろいろな意味で青年劇場から勉強させていただいている。ありがたいと思う。 専門劇団の舞台創り期間はますます短縮化傾向にあるという。公演をやらなければ金にならない。時間がなければせりふを入れながら人間を創り、他の役の人間との関係も深めなければならぬということになる。プロと言っても俳優にかかる負担は大変なものだと想像する。 ずいぶん以前から企業での物作りは生産期間短縮化が命題になっている。世の中の変化のスピードはものすごく速くなってまいりました。 さて、毎年恒例の春のふれあい小劇場は、劇団員(出演者)の仕事の都合などにより、6月の予定がのび、7月7・8・9日の日程とあいなりました。ふれあい小劇場での公演としては、久しぶりに現代狂言「第一」「裸大名」にとりくむことになり、連日立ち稽古に励んでいます。 今回は、伊賀地方に住む外国人の方々に公開稽古に事前にご招待し、ささやかながら国際交流に役買いたいと計画しています。 現在、伊賀地方では、10年ほど前、好景気で京阪神方面から工場の進出が相次ぎ、人手不足を補うために外国人の方々の割合が高くなり定住化への動きが広がりました。そんな外国人の人たちに日本語を教えるボランティア団体「伊賀日本語の会」の生徒さんたちをご招待する今回の試

みをせひ、劇団にとっても意義あるものにするため、がんばりたいと思っております。

(大東)

〔劇団 すがお〕

こんにちは。春の公演を終わって次回公演にむかって準備中です。

■公演報告

日韓演劇交流Ⅱキャサリン・バターソン／原作、吉原廣／脚色、坂下和代・加藤武夫／演出「ガラスの家族」桑名市コミュニティプラザ 3月11日(土) 12日(日) 2ステージ 観客505人
前回公演「レンタル・ファミリー」に次いで「家族」にこだわり選んだ作品「ガラスの家族」、踊りのはいつた芝居は、外部からの客演を迎えて苦労した甲斐があり、役者はたのしく演じましたが、お客さんにも多くの感動を与えたと思います。もちろん多く

の課題は残しながらですが、崩れ行く親子関係、あまりにも希薄になっている今日、アメリカの里親制度に題材をとったこの作品はタイムリーな公演だったと思います。

また、この公演には韓国からのプロのパントマイムを迎えて一緒にステージを踏みました。子連れのお客さんにも楽しんでもらえたようです。

■次回公演

日本のアマチュア劇団初めてのアイルランド公演Ⅱ7月19日(日)アイルランド・モナハンカレッジシアターにて、木下順二／作、加藤武夫／演出「夕鶴」。アイルランド側はドラムリンプレイヤーズまたは、モナハン青年劇団が小品を上演する予定です。劇団以外に合唱団や日本舞踊の師匠ら含めて25人の参加予定です。子役の一部は現地の子供を借りての上演となります。7月13日から21日まで、

9日間のアイルランドの旅と交流を満喫したいと思っております。

〔劇団 たけぶえ〕

春の公演「近代一幕劇シリーズ」は離航しております。

たかだかこれぐらいの人数の作品に四苦八苦しているようでは、わが劇団もついに年貢の納めどきが来たのかと、半ば自嘲的に、それでもここ一番が踏ん張りどきと、公演日を1ヵ月(6月26、27日)延期して頑張っております。

こうした劇団の逼迫した事情をよそ目に、恒例の一般公募による「たけぶえ市民劇場」は5月から始まりました。

今年11月3、4、5日に開催する「第5回武生国際地域演劇祭」で公演の予定です。「国際地域演劇祭」には韓国・馬山の「劇団馬山」と中国・マカオの「ヒウ・コック」、それに今回は武生在住の外国

の人たちもそれぞれのお国の歌や踊りで参加します(武生には外国の人が人口の4%近く在住しております)。

出演団体には「出来るだけ地域性の豊かな(民族的な)」そして視覚的なものを」とお願いしてありますので、私たちも出来るだけ日本的なものを準備しようということ、4年前に紫式部を上演した経験から(その時のセット、衣裳、小道具がまだ使えるとの安易な考えから)「かぐや姫」が候補に上がりました。

5月半ばになって台本執筆を依頼(命令?)された代表柴野は数日の苦悶の末(と、彼は強調しています)、ミュージカル「新・竹取物語 KAGUYA」の構想を持って来ました。

それは何と、超モダンなラブロマンス。平安調の雅びさはどこかへ飛び散ってしまいそうな内容です。賛否両論の

中、早くもギャルたちがざわめき始めております。はてさて、これからどうなりますかとやら、どうぞ11月の演劇祭をご期待ください。

〔劇団 京芸〕

こんにちは、京芸です。ただいま劇団は小学校公演の真最中、毎日蒸し風呂のような体育館を走り廻っています。

【そうべえまっくらけのけ】(つげくわえ)脚本・演出・98年8月初演)は、本番は短いものの、仕込みがたいへんで、なぜ体育館でここまで、というくらいやっています。

皆、汗と埃の毎日です。でも子どもたちの鋭い感性と好奇心で、こちらが笑わされたり泣かされたりするたび、もっと頑張ろう!と思うのは、私だけかも知れませんが、とにかく辛くも楽しい日々です。この芝居でたくさんの子どもに、勇気とやさしさと、

人間ってこんなに楽しいぞ!!ってことを伝えられたらなあ…….と思っております。

さて、忙しいのは公演班のみならず、制作部も東奔西走しています。京芸創立50周年記念公演である、「文珠九助」の稽古がいよいよ始まるからです。オーディションによる一般参加者、客演、京芸は総出演という大所帯が、いったいどんな芝居を創るのか、今から楽しみです。

念願かなって、物語の舞台は地元京都市伏見区。江戸時代天明年間の史実です。刀鍛冶の文珠九助が悪政に苦しむ人々にかわって立ち上がります。慈と義の物語です。私たちにとっては遠い昔のことなのに、脚本を読めば、人名も地名も京言葉もすべて新鮮でなつかしいのです。けっして生粋の京都人でない私もちよっと胸が熱くなりました。本番は9月7〜10日。伏見区呉

竹文化ホールにて、原作・西口克己、脚本・尾川原和雄、演出・岩田直二で京芸総力を挙げてお送り致します!!

最近、公演期間なのに京芸ではおかしな風邪(?)が大流行しまして、もうあつちでゴホゴホ、こつちで38度5分!先輩に「お前ら、なめとんか!自己管理せえや!!」とどなられています。本当に、芝居って体力だなあ……。私は風邪ではなく突然首が回らなくなつて情けない思いをしました。あ、イヤ借金とかじゃないです。痛かったです。

〔劇団 未来〕

大型連休も終わりました。例年であれば特訓稽古と装置作りに多忙のところ、今年

は飛び石で太鼓の練習のみでした。連休明けからは6月30日〜7月2日第24回大阪春の演劇祭に参加・劇団未来第53回公演、相沢史郎作・和田澄子

潤色「和太鼓でつづる二人爺イ」に本格的な取り組みが始まっています。

今回の台本は相沢氏の「二人爺イ」の脚本に8本の太鼓レパートリー(八丈島太鼓・権兵衛太鼓・呼び太鼓・豊年太鼓・三宅太鼓・八島太鼓・子・御陣太鼓)を構成、挿入し、場所を大阪近郊のとある老人ホームに変え、清助のみ東北弁で他の3人は大阪弁にしています。

太鼓公演は3回目になります。初回は劇団創立10周年記念として太鼓のみの公演、第2回は1部太鼓、2部芝居形式で公演し、今回は前述のように芝居に太鼓を仕組んだ台本としての公演です。

稽古場は「二人爺イ」が東北弁と大阪弁のおもしろい会話で月・水・金、太鼓が昨年1年間開講した「太鼓教室」を終了した6人と劇団OB等8人が参加して勇壮な太鼓リズム

ムが鳴っている火・木・日
なっています。そして土曜日
は裏方の仕事が進められてい
ます。まだ、太鼓の衣装・面
など課題はありますが、新し
い試みの舞台、二人爺イの友
情、芝居と太鼓の友情、太鼓
打ち手の友情が花咲くか!?

ご期待ください。(藤岡)

〔関西芸術座〕

関芸スタジオ公演(3月8
〜12日)の「黄昏」A・トン
ブソン/作、門田裕/演出が
好評のうちに終了した。各々
批評も、主人公たち老夫妻の
寺下貞信・河東けい、実年
齢に近い重厚な演技と存在感
で、高く評価されました。劇
団演技者の層の厚さを改めて
喜ばしいことと思います。

全国巡演中の「遙かなる甲
子園」は5月の新年度をむか
え、一部配役を変更しての稽
古を重ねていましたが、去る
4月26〜27日に、名古屋演劇

鑑賞会例会に出演し大変な好
評を得ました。私事ですが、
かつて私(仲)が、こばやし
ひろし/作、岩田直二/演出
の「湿地帯」で、当時30歳
の頃、演出助手として全国労
演を廻り、名古屋労演の例会
でも公演して以来、まさに30
数年ぶりの例会でした。ほと
んどの会員の方には名も知ら
ない劇団でしたが、今後近畿
の各演鑑連の例会もあり、企
画・創造の重要さを今さらな
がら痛感しています。

これと平行して「薰ing」
の中・高校公演。小型形式の
「宇宙のみなしご」も巡演を
続けています。

次期スタジオ公演は、「お
かしな二人」ニール・サイモ
ン/作・亀井賢二/演出で、
9月13〜17日に予定。

また、第2回関芸ファミ
リー劇場「猫はしる」は7月28
日〜8月6日、上演。同作品
はミュージカル形式でもあ

り、目下歌と踊りのレッスン
が続けられています。

スタジオ公演もすでに4年
にもなり、一応の定着をみて
いるが、作品によって異なる
とはいえ、通常6〜7ステー
ジで、有料観客1000人を
集めるのが極めて困難(客席
150人余)な有様です。こ
れは単に数字や財政問題だけ
でなく、劇団そのもののあり
方、舞台と観客との関係の基
本的な命題と関わっている
と思います。8月の定期総会も
この辺の問題については討議
を深めなければと考えていま
す。(仲)

〔大阪府職員演劇研究会〕

「次回の劇団通信をお楽し
みに」と書いたのに、今この
原稿を書いている現在はまだ
本番前で、でもこの文章が読
まれる頃はもう本番は終わっ
ているはずで、ああ、わか
なくなつたじゃないかもう、

どうしてくれんだよ、状態に
なっている今日この頃です。

さて、今は(この原稿を書
いている時点)本番まで3週
間を切り、稽古はまさに阿鼻
叫喚の状態です。いったい本
番までに落ち着いたものにな
るのかどうか。このままでは
本番の時には、舞台はパタパ
タ、客席はシーンと落ち着い
たものになつてしまひそう
です。その結果は、今度こそ次
回の劇団通信をお楽しみに!
上演作品 「金翅雀の群れ」
鐘下辰男/作・三輪智津子/
演出

6月8日(木) PM 7時

9日(金) PM 7時

10日(土) PM 2時・PM 6時

11日(日) PM 2時

劇団大阪「谷町劇場」で

(秋田高志)

〔劇団 コーロ〕

劇団コロ未来史
20001年

創立15周年を迎え、記念公
演・イベントが目白押し。
2006年
創立20周年を迎える。

2008年

【天満のどらやん】20年連
続公演を達成。

2010年

稽古場ローン終了。完全に
劇団の財産となる。

2016年

創立30周年。各界各層から
祝福される。

2026年

2030年

2050年

……と、こういう道を歩むの
でしょうか? それとも……。

などと夢想しながら日々キ
ビシイ現実と格闘していま

す。その中で、今年には新作2
本を立ち上げます。ひとつは
すでに5月に初演の幕をあけ
た小学校作品「オベレッタ」劇
団コロの三びきの子ぶた」
(熊井宏之/脚本・演出、上

田亨/音楽)、もう1本は9
月に近鉄小劇場で公演する予
定の中学高校作品「カモメに
飛ぶことを教えた猫」(ルイ
ス・セプルベダ/原作・田中
孝史/脚本・玉野井直樹/演
出)です。今年はこの2本に
賭けます。もちろん、続演中
の各作品も奮闘中です。

また、最近、相次いで新人
俳優たちが入団して来まし
た。彼らの若さ、熱意、行動
力をバネとして2000年も
走って行きます。ベテラン、
中堅も負けてはいられませ
ん。跳んで行きます。全国の
皆さん、一緒に飛んで行き
ましょう。(坂口 勉)

〔劇団 きつがわ〕

毎年恒例となつていた「春
の公演」(春の演劇まつり参
加)は、諸般の事情でやむな
く中止せざるを得なくなりま
した。関係者の方には大変な
ご迷惑をかけてしまいまし

た。劇団の力不足の結果とも
いえませんが、今は気持ちを切
りかえて、「秋の公演」にむ
かって歩きたたるところです。

さて、「秋の公演」の演目
は、前からの念願だった「月
光の夏——挽歌」(毛利恒之
/作)です。特攻のドラマと
して映画にもなりましたの
で、内容はよく知られている
と思いますが、この戯曲は、
映画の内容をさらに深め、練
りあげた「慟哭」のドラマで
す。作者と劇団東演の特別の
ご厚意によって上演を許可し
ていただきましたので、絶対
成功させなければと、今から
気持ちもひきまします。

秋の公演「月光の夏——挽

歌」は、10月21日(土) 22日

(日)クレオ大阪南(3ステー

ジ)の予定です。ご期待くだ

さい。(山田)

〔劇団 息吹〕

全演・演劇会議の読者の

皆さん、こんにちは、1年ぶ
りの通信です。昨年、大阪春
の演劇祭りの報告を通信して
以来と思えます。

昨年の秋の公演は大阪新劇
フェスティバル参加で、堤泰
之作「煙が目にしみる」を上
演しました、お蔭様で新劇フ
ェスの作品奨励賞をいただき
ました。

今年の春は、また、例のご
とく大阪春の演劇祭りに参加
して5月12・13・14と3日
間、4ステージを終えました。
作品はJ・B・ブリストリ
イ。沢内村直也。脚本八木終
一郎の「夜の来訪者」。上演
作品がなかなか決まらず、稽
古日数が少なかったため、本
番はどうなるかと「ひやひや
」ものでしたがが無事に終わ
ることが出来、ほっとしてい
ます。

次は秋公演、相変わらず、
上演作品はまだ決まってお
りません、この文書が皆さんの

お耳に、おっとちがった、お目に届くころには稽古もたけなわに入っておること。

こんな我が劇団にも悩みがあります。

公演活動は何とか順調にこなしているものの、劇団員の減少に頭を悩ましています。上演作品がさがられてくること、観客の減少、この状態が続くと次は公演回数が減少となることは目に見えています。劇団員の平均年齢もぐんと上がっていますし、と悩んでいても始まらない、20世紀最後の年、新しい世紀に向かって、さあ、進もう。

(柳辺)

〔劇団 潮流〕

5月に入り移動公演で飛び回っています。このところの暑さで体育館で芝居を見てくれる生徒さんも、きつとたいへんだらうと思います。まさにこの時期の学校移動は暑

さとのたたかいです。

創立40周年を迎えました。

すでに記念公演として1月に『思い出のプライトン・ピーチ』(ニール・サイモン/作・藤本栄治/演出)、3月『紙芝居ブンナよ木からおりてこい・映像と池下雅子の一人語り』(水上勉/作・平田一紀/演出)、研究生試演会『リディチェからの花々』(橋本マリオ・フラッティ/作・堂崎茂男/演出)の上演が無事終了しました。また『紙芝居ブンナよ木からおりてこい』はエストラダ(潮流稽古場)と吹田演劇フェスティバル(吹田メイシアター)でも公演します。

この後は7月22日に大阪厚生年金会館での記念パーティー、そして9月1日、2日に『乱れて熱き吾が身には』(吉永仁郎/作・藤本栄治/演出)を大阪厚生年金会館芸術ホールで公演いたします。

いろいろお世話をおかけする方々もいらつしやると思いますが、なにとぞよろしくお願ひします。

〔劇団 大阪〕

3月の新人公演『汚れちまった悲しみに』(鐘下辰男/作・堀江ひろゆき/演出)300人の観客を集め成功裏に終えることができました。アンケートもたくさん回収でき、評判も上々でした。公演後、若い男性3人が入団を決意してくれ、大いに私たちをうれしがらせてくれました。

5月の第51回本公演『光る時間』(渡辺えり子/作・熊本一/演出、谷町劇場)は10ステージ846人の観客を集めました。今回は商店街をはじめ近隣にチラシをまくなど、地域への知名度の浸透を図りましたが手応えはいまひとつでした。当地に根を下ろして20数年、谷町劇場を発足

させて10数年になるのに地域の人にあまり知られていない状況を早く解消しなければと思っています。観客の評判は上々、初の渡辺作品に出演者一同ホット胸をなで下ろしています。最終日には作者渡辺えり子さんご夫婦がなんの前触れもなく観にこられ、劇団員もびっくりしましたが、「よかったヨ」と涙ふきふき感想を漏らしてくださいました。

公演総括のあと6月から演劇フェスティバル『そして、あなたに逢えた』の稽古と、秋の公演『海の沸点』の稽古に突入。その間にも『奈良アマチュア演劇フェスティバル』の応援、西会議事事務局劇団としての総会準備と忙しい日々が始まります。では、フェスティバルでお会いしましょう。

公演予定 第52回公演

『海の沸点』(坂手洋二/作・堀江ひろゆき/演出)

10月20日〜22日、近鉄小劇場

(清原)

〔神戸職演連〕

5月3日の憲法記念日にシーガルホールで開催された『兵庫憲法集会』で、神戸ドラム館ボレロのみなさんと一緒に、寸劇『ぼくらの憲法』を上演しました。神戸職演連が憲法集会に参加するのは3回目なのですが、回を重ねるごとに脚本も本格的なものとなり、サークル員一同、本公演にも勝るとも劣らない姿勢で取り組みました。

『ぼくらの憲法』は、すっかり自信を無くした憲法が、国民のなかに飛び込み、暴力団員の嫌がらせに対し、非暴力で応戦する市民の姿や公害裁判に立ち向かう人々の姿を見て元気を取り戻すというストーリーです。300人近い観客の皆さんにも、好評のうちに幕を閉じることができま

した。

さて、次回公演についてですが、来年の1月27日、28日、神戸アートビレッジセンターで行うことになりました。演目については未定ですが、サークル員一同、力をあわせて良い舞台となるようがんばっていきたいと思います。

(衣笠)

〔劇団 四紀会〕

立て続けに発生した、セブンティーンによる常軌を逸した殺人行為の数々。日本中を震撼させた、私たちの地元・神戸須磨での忌まわしい事件が、連日のように続いたこの異常さ。本当に本当に、何とかしなければという思いに苛まれる昨今です。

さてそんな中、劇団は劇団で様々な問題を抱え、それらを解決すべく、定例総会を開きました。5月再演予定だった『ヨンカーズ物語』が中止

になったこともあり、じっくり話し合おうと、3回にわたって議論されました。結果、今年から新しい世紀に向けての方針が確認され、今模索しながらも、進みつつあるところです。

公演活動の方は、一般公演こそ流れたものの、恒例の移動公演がスタート、平行して、演劇教室卒業公演と教室30周年記念公演の稽古が入り乱れての、稽古場争奪戦(?)が展開しております。さらに、6月から次期演劇教室が開講し、会場を外に借りたりの授業体制と、忙しさは例年通りとなっております。

4月の芽葺き交流会に引き続き、本年そして今世紀最後のビッグイベント『第8回全日本演劇フェスティバル』で、皆さんとお会い出来るのを楽しみにしております。それは、また。(里中)
★当面の公演予定(移動公演

を除く、再掲あり)

●神戸働くものの演劇教室第31期卒業公演『法王庁の避妊法』飯島早苗・鈴木裕美/作、青木克也/演出、7/1〜2、県民小劇場

●演劇教室30周年記念公演『見よ、飛行機の高く飛べるを』永井愛/作・森卓也/演出、9/2〜3 シーガルホール

〔演劇集団 和歌山〕

7月9日に和歌山山空襲55周年を記念して、楠本幸男/作・栗原省/演出『ささの葉さらさら』を公衆市民とともに上演します。そのあと、9月15日に阪中正夫/作『馬』を劇団創立30周年記念公演として上演します。ご期待ください。また、5月末に刊行された『ドラマの森③』には楠本幸男の現代劇『月の砂漠』が掲載されています。ぜひお読みください。

〔演劇集団 あり〕

5月21日、米子市文化ホールで、和田憲明作・「アリーグーターダンス」を田中小百合演出で行います。例の石原発言の「三国人」在日青年の生きざまを中心にした作品です。稽古の中で、歴史を知らされていない人の多いことにも突き当たりました。

今、鳥取県ではありがた迷惑な補助行政が行われています。県下の多くの劇団の合意もないまま、県と一劇団を中心に、年企画で「平田オリザ先生」のワークショップと、公演企画が進められ、県下の各劇団の年間計画等を無視し、参加者を集め(釣りあげ)ようとしています。その経費も私どもから見れば、驚異的金額。ワークショップが悪いのではありません。講師に文句があるのでなく、一方的に金をつぎこんでやられれば、弱小劇団はつぶされます。

自由な文化活動の中で、このような見方は保守的でしょうか……。(宮倉義文)

〔劇団 あしぶえ〕

去る4月15日の「かやぶき交流会」には遠路はるばる、たくさんの方々のご参加ありがとうございました。オーブンしたばかりの「かやぶき交流館」のご利用に感謝します。その折に報告しました「99八雲国際演劇祭」の記録誌が5か月かかって、やっとできあがりしました。ご希望の方は劇団までお申込ください。

2000年夏のロングラン公演は、「ゼロ弾きのゴーシユ」。6月11日を皮切りに、7月23日まで計7ステージ上演します。89年の初演以来11年間上演し続けたこの作品は、今回の公演で通算100ステージを超えます。団員一人一人が「100回」の重みを噛みしめながら、さらに感

動を深める作品づくりをと、厳しい稽古を重ねています。

秋には、平石耕一/作「プラーボー/ファーブル先生」を再演します。福岡からプロの俳優上原恵子氏を客演として迎え、キャストを大幅に変更しての上演。上演日時は次のとおりです。

10/22(日)・11/5(日)
11/19(日)・11/26(日)
それぞれ11時、15時の
2回公演。

また今年から、あしぶえは新しい試みとして「シアターボックス」を始めます。これは劇団員が幼稚園、小学校などを訪問し、パフォーマンスを通して子どもたちと直接ふれ合い、心と心のコミュニケーションを図り、観劇することへの興味を引き出すプランです。あわせて、18歳までの子どもチケット料金を思い切って「五百円」にしました。子どもたちへの大切なメッセージ

ンジャーである「先生」の料金も安くしました。こうして1人でも多くの子どもたちに生の舞台を観るチャンスをつくりたいと考えたのです。早速6月に「ゼロ弾きのゴーシユ」の宣伝もかねて、地元の小学校へ出かけます。(田中真理)

〔劇団 演劇街〕
(雑記)

妻の友人が亡くなった夫の遺稿集を出すという。たわむれに私も、死んだら本を出してくれと妻に頼む。戯曲はもちろんだが、まだ未発表の小説がある、それを資料や原稿の山の中から探し出して世に出してほしいと。そこには妻を題材にした物語が書かれてあるのだが、そのことは言わない。私の死後、妻がその原稿を上げた時の姿を想像し、しばし思いに耽る。と妻が、あなたが先に死ぬとは限らな

いわ、とぐふぐふ笑った。

(通信)

【おうこの木】の再演。
今秋、10月頭ごろ、山口県演劇フェスティバルに参加(会場はルネサながとを予定)。
11月頭には、山口市民文化祭に参加上演予定です。

八雲国際演劇祭の経験を活かし、台本、衣装、セットと練り直し、役者の楽器生演奏も入れて楽しい弾んだ舞台にするつもりです。

また、来年3月に上演される、秋吉台国際芸術村主催の日韓共同プログラムの芝居づくりに劇団の柳沢悟が演出、広島友好が脚本として参加。劇団もこれに協力して活動していくことになりました。韓国の演劇人たちとの交流が楽しみです。(広島友好)

〔劇団 テアトルハカタ〕

2000年の本公演
テアトルハカタ136回公演

【キネマの天地】井上ひさし
/作・野尻敏彦/演出

6月17日(土) 14時、18時30分、6月18日(日) 11時、15時、開演のスケジュールで上演します。

巡演として、

6月9日、「長靴をはいた猫」石山浩一郎/作・黒江昭治/演出、若久小学校

8月1日「はだかの王様」徳満亮一/作・中村ジョー/演出、福岡サンパレス 主催
・福岡市水道局。福岡市内内の水源地の子どもたちをご招待しての公演です。

児童劇団との合同で「ブンナよ木からおいでこい」小松幹生/脚色・高田豊三/演出。8月5日(土) 12時・16時、8月6日(日) 12時・16時、大博多ホール。夏休みファミリー劇場として毎年恒例

の公演で、留守家庭子ども会の方々には毎年の楽しみ公演として、待っていてください

ます。

昨年まで続いていた博多区民ミュージカルも博多座公演で有終の美を迎えましたが、新たに演劇集団「座」としてスタートします。よろしくお願ひします。

また、恒例になりました春日市民ミュージカルも、11月5日(日)春日スプリングホールで上演します。台本は、執筆中です。2年に1回、劇団協議会で合同公演を上演しています。主催は福岡市、現在は演目、その他話し合いの最中です。会場は、少年科学文化会館、期間は11月23日、11月26日までと決まっています。ご期待くださいませ。(中村)

2000年春のモスクワで

—付、私の30年物語(2)—

桜井 郁子

2000年春、(ゴールデン・マ
スク賞)フェスティバルの機会に、
また1カ月モスクワにいて30ばかり
の芝居を見て来た。経済的に困難な

のによくやるなど思うけど、私の訪
れたどの劇場・演目もお客をひきつ
ける意欲ある作品ばかり。で「ロシ
アの今」を紹介したくなった。しば
らくおつきあいをお願いしたい。

ロシアで「うまい」と感心した俳
優を挙げると言われたら「イワーノ
フ」(モスクワ芸術座、76年初演)
の主人公イワーノフを代表作とする
I・スモクトノフスキイ、「ある馬
の物語」(ポリシヨイ・ドラマ劇場、
75年初演)のホルストメルを代表

作とするE・レーベジェフの二人。
他にもいるけれどまずこの二人を外
すわけにはいかない。残念ながら二
人とも故人である。

ことしまた一人伝説的な俳優に会
えた。ドレイデンという名は3年前
のペテルブルグで会う人ごとに聞か
された。「ドレイデンを観に来たの
?」「モノドラマ」「大理石」を観た
?」「……その時はドージン演出の
『題名のない戯曲』(チェーホフ)と
ロシアのお伽話の世界のような『昔
気質の地主』(ゴゴリ作、ワシー
リエフ演出)の二つだけしか見る機
会はなかった。

そのドレイデンがやって来た、ボ

リシヨイ・ドラマ劇場の作品、スト
リンドベリ1887年作『父』の主
役として。これはちよっと一筋縄で
はいかない戯曲で、下手に演じれば
退屈なはず、現に他の劇場でやった
ものの評判を聞くと一蹴された。と
ころがこの舞台には張りつめた空気
がびんと客席にまで伝わって来て、
3時間ドレイデンから目を離すこと
ができなかった。

物語の主人公(大尉で研究者)は
家父長的に一家を支配しているよう
に見えるながら、妻への疑惑で夜昼氣
が休まらない。実は娘は自分の子で
はないだろうと、妻の否定にもかか
わらず、信じられないのである。小
舞台はディテールに凝りながらも簡
単な装置、中央の透明な壁に仕切ら
れて、右半分はソファベッドとデス
クのある夫の領域、左は食卓のある
妻の領域。二人はそれぞれの領域を
動かず、まるで二つの島に住んでい



『父』A.ストリンドベリ作。演出G.ディチャトコフスキイ
ポリシヨイ・ドラマ劇場

るみたいである。主人公は夢に娘を
見る。ベッドに横たわる彼に、青い
光の中を海辺の岩伝いに歩いて来た
娘が「パパ、愛してる」と呼びかけ
る。食事も拒否する彼に、妻が招ん
で来た医師は病院に入れることを考
える。夫の部屋の大きな窓、右後方

の乳白色のスクリーンがこの舞台の
大きなアクセントになっている。と
きどきかもめの鳴く声が向うに聞こ
えるので窓と知れる。場面は妻の場
に移っていて、主人公はじつと窓の
方を向いて動かない。この後姿、横
顔に主人公のすさまじいばかりの内
心の葛藤をうかがわせ、私はドレイ
デンから目を外らすことができず、
彼の芸の凄さに胸がふるえた。

ラスト、精神病院に入れるべく拘
束服を着せられた主人公は、不意に
静かになって、裏切った乳母の膝に
頭を埋めながら聞く。「どこへ行く
のか? 待っているのは、天国か煉
獄か、それともまた地獄か?」復讐
を遂げたはずの妻も、死にゆく夫に
近づき黙って足許に黒いレースをか
ける。ストリンドベリは自分の戯曲
の初演の幕が下りた時、逃げ出して
街をさまよったそうだ。自分の妻と
の葛藤を書いた作品。ドレイデンの

舞台を見たら、やっぱり逃げるだろ
うな。(マस्क)の男優賞はこのド
レイデンがもらった。演出は『大理
石』の時と同じ若いディチャトコフ
スキイ。

『P.S』や『チュヴエングル』

とてつもない仕掛けの舞台を思い
つく演出家がいるものだ。ペテルブ
ルグの最古の劇場が若い演出家コス
ロフを招いて、画期的な演目をつく
った。18世紀の作家・作曲家E・T
・A・ホフマン原作にもとづく『P.
S.』——楽長ヨハン・クライスラー
とその分身、及び二人の愛したユー
リアの』という長い題名の芝居。

ピストル自殺を失敗した主人公の
前に現れた分身と、ピアノを習いに
来た女の子とからみあいながら、芸
術創造に呻吟する楽長をいくつかの
エピソードで綴って描くファンタ
ジー。開幕前は小ホールとのみ表示

されていて、案内された先は舞台の上。ホリゾントを背につくられた階段状の客席と、閉じた緞帳の間が演技空間である。主人公の夢のシーンになると、オペラ歌手に扮した彼と自身の前に緞帳が開く。平土間のピロード張り椅子の背の金縁、平土間を取り巻く白いバルコンとランタン、すべてが赤い照明に浮かび上がって無人の客席が豪華な書割りに変じている。そこをエコーをきかせたアリアを歌いつつ遠ざかる二人。別のシーンでは女優がモーツァルトに扮する。古典的な劇場建築そのものを使った贅沢な舞台、三人の俳優たちの歌唱力も十分に楽しい舞台だった。

ドージンは「題名のない戯曲」でもプールの上に舞台をつくるという思い切った装置をつくったが、今年も舞台の板そのものをガラスの壁でつくった。開幕時、数メートル四方

のガラス壁が前舞台ぎりぎりに立っている。その前は本水のプール。照明が入るとガラス壁をよじ登る人物のシルエットが浮かんだりするが、やがてこの壁が90度後ろに倒れて舞台になる。下からの照明で青い水底になったり、土砂が運びこまれ、ばら撒かれて真紅の照明が下からあたると、土砂の隙間をまるで血が流れているような「血塗られた大地」の表現になる。ソビエト作家プラトノフの小説を劇化した「チュヴェンゲール」。コムニズムの理想郷を見つけようという男たち、最後は石を抱き列をなして水底に消えていく。こんな現代の黙示録的舞台はモスクワ市内の劇場につくれないため、郊外の公園内パピリオンに特設され、私たちはバスでそこへ運ばれた。もちろんドージンは「マスク」の演出家賞をもらった。

『黒衣の僧』や『どん底』

カマ・ギンカス演出「黒衣の僧」の舞台もこれまでに見たことのない思い切ったもの。観客が通されるのは三階のバルコン席。中央には方形の板張り舞台があつて、これを三方から囲む形。小舞台中央には八角形の圍亭、木の柵で囲われた床一面に青紫色にきらめく孔雀の羽根が植えられている。ここは主人公の若い学士が痛めた神経を休めるために滞在する園芸家親娘の家、丹精こめた果樹園を表象しているのである。登場人物は林立する腰までの丈の羽根をかきわけて出入りする。後幕で果樹園が荒廃した様子は、手づかみで羽根を引抜いて表現される。

親娘のもてなしで安らぎはじめた青年だが、いつしか伝説の黒衣の僧が頭に住みつき、ある日彼の前に音もなく現われる。みすぼらしい黒衣

をまとった裸足の僧は、バルコンから闇の奈落へとび下りたり、はるか彼方のステージにちらりと姿を見せたり、神出鬼没、他のだれにも見えず、青年とだけ哲学的な問答をかわす。天才と群衆、精神と肉体、狂気と正常などがテーマ。青年は親娘とお茶を飲みながら、実は二人に見えない僧と問答する。娘と結婚したものの、病院に送られて神経は癒えたものの、もはや平穏な生活には満足できず、親娘を破滅させた青年が戻ってきたのは、荒れ果てたもとの園、廃墟でふたたび出会った僧にすがって息絶える。黒衣の僧を演じたのはベテラン俳優のヤスローヴィチ。思いがけずたくましい老優は、アクロバットの演技でこうもりのように止り木に逆さにぶら下がったりするが、フィナーレで青年を抱えた姿は印象深い彫像をつくる。原作はチエーホフ。美術はギンカスといつも



『黒衣の僧』(原作、チエーホフ)
演出カマ・ギンカス モスクワ青少年劇場

組んでいるバルギンである。初演の幕を開けたばかりのタバコフ・スタジオの『どん底』(ゴーリキイ作)はお推めしたいプログラムだ。舞台はベンチを床から天井まで階段状に積みあげたシンブルな装置。どん床の住民たちの寢床にもなれば通路にもなり自在に使う、アンナが病気で呻吟する傍でワシリーサ

がペーペルと争い、人が寝ている板を靴音たてて踏み渡る。これにははじめ違和感を覚えたものの、余分なディテールを削ぎ落とし、人物関係をシンブルに浮き上がらせ、場面進行のスピードをあげるのに効果あり、終幕近く人びとがてんでに足踏み踊るとき、板床なればこそ喜びが増幅されていた。



G.トフストノーゴフ氏(右)と筆者(左) ポリショイ・ドラマ劇場にて

「老年とは何か」「青春とは何か」すべてたいせつな人生の問題です。しかも今日に生きる人類の問題もここにあり、「戦争」「殺戮」すべてがこの凝縮されたフォルムの中にこめられている。……

この短編の劇化は困難でした。馬がもの語る。その馬の物語を通して、人間生活の真実に迫る、そういう複雑な構成ですね。それにほとんどドラマチックとは言い難いこの短編を劇化する、この困難さにもう一つ、馬というフォルムを演じるといふ困難さに、われわれは直面しました。し

かしあえて、この実験に挑みました。つまり演劇は、真の演劇ならば、条件性、制約性という力をもっているはず。馬を描くなら、映画の方がいかなる空間でも時間でも場面を転じることができて有利だという人がある。しかしわれわれはファンタジー、つまり観客の想像力に訴えることができる、期待できる。もしそれに成功すれば、演劇にはすべてが、空間や時間の制約をこえた表現が可能になるわけです。

というわけでわれわれはこの偉大なトルストイの作品に手をつけることができました。そしてこの上演によって、観客がトルストイの鋭い問題提起を受けとめ、共感し得たということを、誇りに思っています。……(77年、インタビュアー||桜井郁子。「新劇界」No.2所載)

鈴木瑞穂の俳優人生 上

鈴木瑞穂さんは劇団民芸に入られて20年、退団されてから30年のベテランの舞台俳優ですが、劇団銅鑼に籍をおきながら、其田事務所にも所属して、映画、テレビ、ラジオと幅広い分野で活躍され、多くのファンがいます。昨年1年で186ステージを務めるといふ超多忙の人に、旅公演のさなか、大阪で途中下車してもらい、編集部でロングインタビューを試みました。

その俳優人生について大いに語ってもらったのですが、身ぶり、手振り、表情豊かに、時にはセリフの演技を交えての話しぶりを、どれだけ紙面に伝えられるか心もとない限りです。

役づくりは己を知ることに
からはじまる……

聞き手 鈴木さんは舞台、映画、テレビ、ラジオで活躍され、翻訳劇から時代劇、現代劇と役柄も多様ですが、いろんな役が来たときに、その役に入るにあたっての心構えとか律しておられることと言えば、どんなことでしょうか。

鈴木 役を決めて脚本が来るのですが、自分の役だけにポイントをとるとたいい読み間違えますね。最初は突き放して、全体を何度も何度も読んでみると、作品の言いたいことが分かってくる。こんどは少し自分の役に焦点を当てて読んでゆ

聞き手

熊本 一 (劇団大阪)

清原 正次 (劇団大阪)

赤松比洋子 (劇団きづがわ)

く。その役に与えられている役割や性格などを。そして、その役の背景を深めていく。次にセリフを覚える。これ相手役のセリフを先に覚える。これは滝沢修さんに教わったんですが、相手役のセリフを覚え、それに対して俺はどう反応し何を言っているのかと注意深く探つてゆく。するとセリフの意味が分かる。正確でなくても相手役に返せるセリフが出てくる。それから微調整して、正確なセリフを喋るようにする。



このあたりまではカッコカしないで冷静にさめたところでやってゆく。この間にプレス訓練もしてゆく。立ち稽古に入る頃からカッコカしてくる。そこでもう一度、感情を入れたときに相手役とどこでぶつかるのかと確認してゆくんですね。脚本をもらって、はじめから力まないことが大切ですね。感情を探らないで、行動をさらって、さらって、さらってゆく。脚本がどうしても分からないときもあるのです、そんなときは、こうだと決めて自分で責任を持っていろいろと演じてみるんです。

聞き手 心の解放の問題で、それも技術なんでしょうけれど、そういう技術を身に付けていない私たちにとっては、気持ちをいっぱい上げてそのまま一気に喋ってしまうんですよ。だから、お客さんには熱気は伝わるが意味が伝わらない。つまり聞く人の立場にたった演技と言うん

ですかね…。

鈴木 最初は己から出発しろというのがスタニスラフスキーなんですが、僕も最初に言われたのが「創ろうと思うな、自分でやれ、楽にやれ、己を解放してやれ」ということですね。

だが、テレビの演技が最近面白くないのは、すべて私小説演技だからなんです。何をやってもアイ・マイ・ミー…、なんです。私が…、私の…、なんです。自分を変えようとしていないんです。リハーサルも一回しかやらないしね。

図式的に言いますと、役の人格という輪っかがありますよね。そして自分には自分の人格という輪っかがあるわけですよ。役の輪っかを自分の方にただ引きつけてくるのが私小説演技で、僕らがやらなければならぬのは、自分の人格を役の人格の輪っかの方に重ねようとする。当然

完全には重ならないから、摩擦熱が起こる。火花が散る。それが、演技のきらめきを出すんだらうと思う。だから、「役になり切りました」というのは、嘘だと思ふ。なり切れるわけがない。100%輪っかが重なるわけがない。

そうなると何が大切かというと、役の人格をいろいろ掘り下げる。史実文献や映像や、いろんなものを使って、背景も調べて役の輪っかの輪郭をしっかりと客観視する。そして今度は、俺はいつもこういう感情に陥る、こういう癖がある、俺の声はこんな声で体つきは…と、自分も突き放して客体としてみる、己を知る、自己知覚というのかな。それが演技の上で、とても大事だなあと思うんです。

あるときは感情にのめり込んで、ワァーとやることもあるけど、だからといって良い出来とは限らない。

良いときもあるけど。実感にのめり込もうとする自分を、ああーいかんと、さめてる自分、客観と主観というのかな、第二の自分というのかな、いつも自分を監視する目がある。そこからしか技術は生まれてこないんじゃないでしょうか。

うまく整理できないんですけど、いまやってる『守銭奴』のアルバゴンですが、僕と全く違う人間だし、金に執着している。どこからとつかろうかと思っただれど、そうだ、アルバゴンは金に執着しているが俺は芝居に執着している、似たようなものじゃないか…とね。

そういったところから役との共通項を見つけたし、他にどこだ、どこだと、探り出してゆく。だから、役



『守銭奴』

は一度バラして、分解し、そこからもう一度組み立てていく作業をすることが、役を創る楽しさじゃないかと、いま、思ってるんですけど。

ナチュラルリズムからリアリズムという、幅の広い、奥深いものに、どう食いついてゆくのかという模索

が、本当のリアリズムに近づくのではないかと思ってるんです。

リアリズムは燃えるだけじゃない……

聞き手 私たちがやると、さめてる自分というのに気がつく、どうしても本当にさめてしまつて（笑い）、やつてる気になれないんですよ。やっぱり気を張つて目一杯やつてないとできないように思ってるんですが、お客さんは楽に喋つていても案外分かつているようですね。

鈴木 そうなんですよね。たとえば、形容詞、副詞を多用したセリフ、特に外国の古典には多いんですが、「親の恩」と一言でいえるセリフを「海よりも深く山よりも高く、何々のような、何々のような……親の恩」と言いまわす。そのときにセリフ全部に力を入れ感情を込めて言つてし



まうと、ほとんど伝わらない。そこで「海よりも深く……」という形容詞のところは力を抜いて、「親の恩」を立てる（ここでセリフを喋りながらの実演が入る）捨てるのと立るところを決めてゆく。その違いを早く見つけることですね。

演技というのは、自分が燃えるばかりではなく、さめてることも必要なんです。さめておいてすぐにサーと熱くなれる、素早い色変わりというのかな。

よく他人になり切れますねと言われるんですが、なり切れません（笑い）。じゃ俳優というのは何でしようかねと、よく訊かれる。僕は、読んで字のごとで、その人にあらずして、その人を憂う（思う）ことじゃないかと……。その本人じゃないけど、その人になって考える、思うことだと思ふんです。

聞き手 ラジオや朗読、ナレーションも多いですが、洋画の吹き替えもされてますよね。そんなときも、今のようなことを考えられてるんですか。

鈴木 そうなんです。周りの人たちは「吹き替えなんてあれはつまらんぞ」と言うんですが、これがやり

だと面白いんですね。

一番最初に、マールロンブランドの『ゴッドファーザー』の吹き替えがきたんです。「なんで俺にマールロンブランドなの」て聞くと、最初は三船敏郎さんを予定していたんだが、どうやっても合わない。ずれてずれてしょうがない。そのうちに喋れなくなつてしまつて「俺はダメだ。合わないよ」と帰つてしまつた。次に勝新太郎さんに来た。勝さんは「とんでもない、俺は自分のセリフもよく喋れんの他人のセリフが喋れるか」と断つてしまつた。それでどうとう僕に回つてきた。僕の声は響く方で、マールロンブランドはハスキーなんです。それで口の中に脱脂綿を入れてやつてみて、これでなんとか近いのかなと思つてやつた。

画面の中の俳優さんの動きをじつと見て心理を追いかけると、マールロンブランドが間合いを詰めたり、

押し被せたりして表現しているのを、こつちが声を出して乗せてゆく、他人の体を借りて自分の心理を表現しているようで、「面白い。うん、これは面白いぞ……って、すごくご機嫌さんになっていく（笑い）。

聞き手 ああ、それでなんです。あのマールロンブランドの声は鈴木さんじゃないような声でしたもの（笑い）。ラジオの仕事もたくさんされていきますね。

鈴木 ラジオはやたらとやりましたね。これがまた面白いんです。セリフの訓練にもなりますしね。聴覚視像を起こさせるといふか、聞いているだけでその視像が浮かびあがつてこないといけない。「ああ、いま風の中を歩きながら話しているんだなあ」とかね。人によつてはラジオの仕事だと、「ああセリフを覚えなくていいから楽だな」と思っちゃうんですが、逆ですね。体や顔の表

情で補えないから、言葉の持つ意味、その言葉の表情が大切なので、神経も使いますし、細心の注意を払つてやる必要があるんです。

俳優の華つてつくるもの？

聞き手 今の話を聞いてみると努力や技術が大きな要素になってくるんですけど、俳優の魅力というのは何なんでしょう。鈴木さんの声はとっても魅力的だし、舞台での姿も華やかです。うまいということと魅力があるということは違うような気がするんですけど……

鈴木 よく分かりませんが、華があるとかそこにいるだけで、存在がパツと浮かび上がるとかね。うちの其田事務所について若くして亡くなった夏目雅子なんかそうでした。彼女がすーっと事務所に入つてくると、そっだけライトがあつたようにパツと明るく輝く。オーツと

思いましたが、これは天性のものですが、そんな人は滅多にいないのであって、普通の人間は、魅力を創ら



『夜の来訪者』

なければいけない。

やり方は自分を解放すると心も動く、体も動く。自分を客体視できるときに、存在の深さ、実在感をともなった魅力が出るんだろうと思いませんね。

これは魅力と関係ないかも知れないんですが、僕が心に刻んでいることがあるんです。それは木下順二さんの「どうしても取り返しのつかないことを、どうしても取り返すためにやることは、ただひとつ―責任をとること」という言葉ですね。この責任をとるために、自分にも、世の中にも、こだわり続けなきゃいかんと思っているんです。きな臭い世の中の逆行に対して、怒り続けようと思っているんですよ。

これも魅力のひとつじゃないでしょうか？

聞き手 そうですね。それを支える肉体も大切ですが、昨年186

ステージと、ハードなスケジュールですよ。心身ともによく鍛えられていると思うんですが、健康法とか心がけていられることはどんなことですか？

鈴木 戦争中は「国のため、天皇のために死ぬ。そのために体を鍛えておけ」と、今から思うと、想像もつかないようなことをいろいろやらされましたが…。今はもう鍛える年ではありませんので、現状を維持することをやっているんです。

聞き手 たとえばどんなことですか？

鈴木 毎朝歩くんですよ。100メートルを1分の速さで、休まず2時間くらい歩くと、汗ぐっしょりかいて帰るんです。そして、シャワーを浴びてから体操をゆっくりやる。これは、雨の日以外は旅公演の時も必ずやります。

聞き手 交流会に出たり、夜飲む

機会も多いでしょう。深酒された後もされるんですか？

鈴木 必ずやります。ちよつとつらいですけど、普段より少し歩を早めて歩くんです。汗とともに酒気がきれいに流れ出てくれる(笑い)。

雨の日は泳ぎます。50メートルを40回、2千メートル泳ぐ。ゆっくりゆっくりと。これもジワーっと汗をかいてくるのが、泳いでいて分かるんですよ。そのおかげか、体重はずーっと一定してますね。この体型を保っているんです。

歩くのはいいですね。5コースとっているの、毎日変えて歩いてるんですが、四季の移り変わりが感動的に分かる。それと、セリフを覚えるのにも非常に良い(笑い)。2時間ブツブツ言いながら歩いてるんですよね。

あと心がけているのは、若い人につきあって、会話をパンパンやって

いくことですね。僕くらいの年になると、仲間が集まっても「だれそれが死んだ」とか「腰の調子が悪い」「年金が減ってきた」とか(笑い)、そんな話、多いでしょう。

だから、学生さんや若い人につきあって、ジョーク飛ばしながらワアワア笑って、夢を語ったり、みんなのやりたいことを聞いて励ましたり励まされたりしていると、自分もそんな気になりますからね。

聞き手 じゃ鈴木さんの夢、やりたいことは何ですか？

鈴木 来し方より行く末を見ると、行く末のほうが短いので(笑い)、もうたくさんの夢を持つことができないんですが、ゲーテ400年祭に『ファウスト』をやりたいんですよ。たとえば、新国立劇場なんかでね。

聞き手 2年先までスケジュールが詰まっていると聞きしてるんですが、その合間を縫ってということ

になるんでしょうね。

鈴木 生きてるうちにやりたいんですよ。400年祭にこだわりませんけれどね。演出やってくれよと観世栄夫さんに頼んでるんです。

もうひとつの夢は、引きどきを考えるんです。きれいに引きたいんですよ。「あいつまだ5、6年はできたんじゃないか」というときに辞めたい。男の美学ですかね(笑い)。

分かりますよ。欲が出てきて、辞めるのをやめた、なんて言うかも知れませんが、夢なんです。

次号では劇団民芸に入ったきつかけやそれを退団したいきさつ等、鈴木さんが歩いてこられた道、俳優修業を聞きたいと思います。

(文責 赤松)



れる。観劇後の帰り道、幼少期の貧しい生活を思い出し、そこにも意味があったことに気づく。この作品のキーワード「身土不仁」（人間と自然との関係を表し「体と土は一つ」という意味で、地域自給の方向性を示すようだ）に私なりにほんの少し近づいたのかもしれない。

全編を通して唐津弁が心地よい。大地役の田中慶太が佐賀出身で指導したという。地方を舞台にした芝居はやはりお国言葉に限る。輝いているのはキャサリン役のモニカホーガン（NHKの英会話番組に出演しているらしい）。恋人役の田中も日本人のわりにはスタイルがいい（少なくとも青年劇場の中では足が長い）が、本物のアメリカ娘にはかなわない。細身で背が高く足も長くてルックス抜群、おまけに日本語上手で意味の分からない台詞が一つもない。そのキャサリンが、大学の研究室に逃げ込もうとする大地を「仲間と毎日会って話す、酒飲んで酔っ払う、それが大事」と教え諭す。アメリカ娘に説教されるとは皮肉な話だが、日本農業に惚れ込んでいた彼女に存在感があったのはじめて説得力をもつ。抑制の効いた演技が功を奏した。抑制と言え、役どころをよく心得た小竹伊津子（とし役）の演技にも感心した。力のある役者を脇役で使

える贅沢。農村ホームステイの高校生2人に対する作者のまなざしが優しい。若者の食生活を通して見えてくる寒々しい家族関係を暗示しつつも、自室にこもって1人で食事していた青年がドラマ後半でみんなと一緒に食事すると告げた時、客席に暖かいものが流れた。若者は信頼できる、それが作者の視点だろうし、青年劇場が常に発信しているメッセージでもある。少年犯罪が世間を騒がせている昨今、とりわけ貴重に思えた。私の観た日が小屋を変えての初回だったせいも、全体としてはテンポ不足。いつもは安心して観られるベテラン陣に台詞のトチリがあり、微かではあるが「たるみ」が生じた。一方、若い役者が中心となる場面は軽快なリズムで楽しめたが、終わってみると存在感が薄い。やはりマンガチックにすぎるのは避けたいものだ。その点、年配と若手をつなぐ役どころの一端な青年・道夫（広尾博）のコミカルな存在は舞台にメ

古い記憶が新たな感動を呼び起こす舞台

劇団創芸 萩坂 心一

青年劇場 『菜の花らぶそでい』

山下惣一／原作・高橋正岡／脚本・松波喬介／演出

10年前に上演された「遺産らぶそでい」も原作・脚本が同じ組み合わせで、今回の作品はその続編にあたる。いずれも日本の農業問題をテーマにしたもので、観客は爆笑しながらも厳しい現実をつきつけられる。私自身は都会育ちで、日頃農業や自然に縁がない。にもかかわらず今回の舞台で発せられる台詞の一つ一つが私の心に染み入る気がした。

舞台は佐賀県唐津の農家。農業一筋の鉄人からすると、息子の大地たちが取り組むユートピア構想（農村と都会の交流で村の活性化を計る

画）は単なるママゴトにしか見えな。ただでさえ世代間の対立で思うように進まない時に篤農家の土地提供が絶望的になり、計画は振り出しに戻る。落ち込む村の青年たちを励ますのが大地の恋人、アメリカ娘のキャサリンである。その熱弁に心を熱くする鉄人。何十年ぶりがで菜の花づくりを決意するところで幕となる。感銘深い言葉が随所にちりばめられている。開幕直後、農作物が安く買い叩かれることに愚痴をこぼす鉄人に、母のとしが「またカネの話か。百姓がスーパーで買い物すればカネ

が足りんのは当たり前。昔は味噌も醤油も豆腐も菜種油も自分の家で作った」と言う。また、同じくとしが若者に「薪、炭、米の研ぎ汁、昔は何でも使ってゴミなんてひとつもでなかった」とも言う。なるほどその通りだと思う。鉄人と親しい大河内（元医者）が「今の日本人は年間1人4キロの添加物を摂取している」と言うと、客席からは軽いどよめきが始まった。自分の生活と健康に恐怖を感じたのだ。ラストシーンで鉄人が菜の花づくりに思いを馳せ、農村の春、夏、秋の自然の美しさに触れた後、「みんなの財産になるような農業をしたい」と夢心地に、しかし真剣に言う。その瞬間、観客も同じ夢を見ている。それぞれの心の中に菜の花畑が一面に広がり、心が癒さ

リハリを与えていた。
前作「遺産らぶそでい」は全国公演を通じ、脚本も書き直され、客席も一体となって笑って泣いて勇気を与えてくれる舞台となった。その意味で今回の「菜の花らぶそでい」もぜひ練り上げてもらいたい。「悲劇

喜劇」5月号に掲載された脚本に比べ、すでに細かい手直しがされているようだ(コンビニ少年の好きなおにぎりの種類、喧嘩別れた大河内との仲直りを示唆する鉄人の台詞など)。青年劇場の力を持ってすれば、前作を凌ぐ舞台成果を期待してもよ

いだろう。

それにしても、ここ数年の高橋正樹作品(「愛が聞こえます」)「銀色の狂想曲」を観ていると、青年劇場はいい作家に恵まれて羨ましい。

(4月18日 紀伊国屋サンシアター)

『樹々の息吹』を感じる心に……

劇団埼玉 中山 浩充

劇団銅鑼『樹々の息吹』

平石耕一「現代日本政治小辞典」

平石耕一／作・演出

2000年4月27日、東京成増アクトホールで、平石耕一作・演出『樹々の息吹』を観た。平石版「小辞典」とは何だろうと思いつながら劇場に飛び込んだ。

両サイドに階段のある2階建の舞台(美術、幡野寛)に期待がふくらむ、と、いきなり環境庁長官室、驚

いた。官庁の、しかも本庁のトップの部屋から芝居がはじまるとは……。官僚は芝居になりにくい。なぜなら、情報が漏れにくく、常に秘密のペールに包まれているからだ。どんな芝居になるのだろうか、ますます期待がふくらむ。

1971年、初代の環境庁長官に

就任した空賀百石(千田隼生)は、高度経済成長のひずみから噴出した公害問題に、世論を追い風にして、真摯に取り組もうとする。しかし、官僚の壁は厚く、事務次官(山田昭一)、企画調整局長(原陽三)、水質保全局長(をはり万造)、大気保全局長(菊池佐玖子)自然保護局長(佐藤文雄)等の抵抗に遭う。が医師出身の空賀百石は、人の命を守りたいという信念があった。折りしも福島、群馬にまたがる巨瀬沼を貫通する観光道路

に反対の声があがっていた。巨瀬沼の恵蔵小屋主人星野太一(渡辺太)から直接陳情を受けた空賀は自ら巨瀬に向く。太古から続く貴重な巨瀬沼の自然―その危機を目の当たりにした空賀は、新潟、福島、群馬の知事との折衝など、観光道路中止に向けて精力的に動く。

一方、水俣病認定をめぐって救済が遅れていた患者たちに、見直し審査を実施するなど環境庁としての仕事の成果も上がってくる。また大気保全局では鳥飼局長のもと大西課長(横手ひさお)がディーゼル規制法の実現に向けて出身省庁の運輸省と懸命に折衝していた。

巨瀬沼観光道路反対の声は全国に広がってゆく。恵蔵小屋の太一も反対集会に参加するため下山の回数も増えていた。その年の12月、集会で、太一は帰らぬ人となる。蓄積した疲労が原因だった。同じ日、省庁間の調整に苦慮絶望した大西は、中央線に飛び込んで自殺する。この2人の

尊い命の代償としてか、巨瀬沼観光道路は中止となり、ディーゼル規制法も一応の決着をみる。

終幕、口上人(金田京子)は語る「ここに『環境庁二十年史』という本があります。(中略)環境庁の歴史が網羅されています。でも、星野(太一)と大西の名前は記載されていません。」

1972年7月23日。
絹糸のような細かい雨がそれこそ訪をのこして降ってきます。その小雨の中を、樹々の息吹を感じるたくさんの人たちが、三平峠へ向かいます。星野の納骨は巨瀬沼のほとりで行われるのです」と。

この芝居には霞ヶ関の役人たちが登場する。それぞれ個性的に描き分けられ、ベテランの俳優諸氏が十分に演じておられた。長官に協力、補佐しながらも、最後は省益に落ち着くところなど、いかにも役人らしく作者の視点は鋭い。描きにくいと言われる役人像も、尾瀬の問題だった

から、役所が環境庁だったから、舞台になりえたのだと思う。次の「小辞典」の別のページをぜひ見せて欲しいと思った。

また、この芝居での重要なモメントは、あの美しい尾瀬沼である。昔、山登りをしていた私は、尾瀬長蔵の若主人の雪中での遭難は、30年経った今も記憶に新しい。パンフによると作者平石は学生時代、尾瀬長蔵小屋でアルバイトしたとある。新鮮な驚きと共に、この芝居の根っここの部分を理解できたように思った。尾瀬は自然保護の原点ともなっており、ゴミの持ち帰りなど、尾瀬から始まって、全国の山々にまで広がっている。

環境庁の前に年輪を重ねたヒマラヤ杉があるそうだ。この樹々の息吹も霞ヶ関全体を包み込むようになれるだろうか。芝居全体に流れている自然への賛歌、その底にある考え方が、すべての発想の原点に据えられたとき、少しは人にやさしい住みよい世の中になるのかもしれない。

老いを迎えて、そのきらめき

演劇評論家 今泉 おさむ

関西芸術座「黄昏」

アーネスト・トンブソン／作 青井陽治・堤 孝夫／翻訳
門田 裕／演出

「ゴールデン・ボンド」におちる夕陽。それは人生の黄昏を迎えた人間にとって、最後の眼眩めくときめきであろう。だが、そう遠く出来る人間はさらにはいない。人それぞれ老いる年によって慌てふためくものである。

人間はだれしも確実に年を取っていく。そして、確実に物忘れがひどくなり、軀の動きが怠惰になり、やるべきことを失い、やがて朽ち果てる。その迎えるべき時期をどう過ごしていくか。これは人それぞれ異なる。安定の心で静かに迎えるにして

は、人間どうしてもあがいてしまう。メイン州・ニューイングランドの湖の畔。夏のいくばくかの時を過ごすべく訪れるノーマン（寺下貞信）とエセル（河東けい）夫妻。80の年を迎えるノーマンにとっては48回目の湖畔。だが、彼にとって、ここで

の日常生活の楽しみである魚釣りでさえ、今年は煩わしい。外に出ていくことが不安である。その変化を感じる69歳のエセルの恐れ。これが二人で過ごす最後の夏になりはしないか。

ゆったりとしたテンポで舞台は作

自然と納得される。これがチェルシーに対するノーマンのわだかまりの氷解を暗示しているのである。

二人のベテランが安定した力を見せている。寺下貞信（ノーマン）は言葉として毒舌と皮肉に満ちて、やや偏屈に見られるが、人間としては憎めないユーモアを感じさせる人柄が自然と現れ、その彼が老いへの恐れに沈み込んでいたのだが、ピリーによって触発され、心が高揚してくる変化を無理なく表現してい

る。対する、河東けい（エセル）はそれを優しく受けとめることにより、老境を迎えた夫婦であっても、男女では異なりがあることにより、ドラマが生まれてくることをごく自然にじみ出せた。

スタジオ公演のためでもあるろうが、背景に拡がっているだるう湖のきらめきを感じ取れなかったことと、家屋の木の壁の線がやや硬い感じである。場の暗転にエセルの思いが込められている「人形エルマー」

を写し残すことによって、このドラマがエセルの思いによって、繰り広げられていることが感じ取れた。

この作品はこれまで映画化もされ、いくつかの劇団でも上演されている。従って、取り上げるには、何らかの気負いが生まれてきそうだが、舞台はそれを感じさせることなく、ゆったりとしたテンポで貫いて、戯曲の雰囲気よりよく表現している。

（3月9日夜 劇団スタジオ）

劇団大阪『光る時間（とき）』

渡辺えり子／作 熊本 一／演出

父の70歳の記念に、子どもたちちのプレゼント。初めての家族水入らずの温泉旅行。ただ、紅葉の盛り

ない弟・立人は互いをあげつらつたいさかいは始めてしまう。それを屈託なく見ながら茶を飲んでいる次郎と秋子の老夫婦。やや落ち着いた頃、突然闖入してくる3人の老人たち。少し惚けかけている次郎の頭に、

過ぎし日が思い出されてくる。それは敗戦間近の武蔵野軍需工場での日々。闖入してきた老人たちはその時、生死のはざまを過ごした仲間たちの中川、水谷、林田であった。鮮烈に浮かび上がってくる青春の時。それは「光る時間（とき）」。

作者の父の戦時中の体験をベースにして描かれた内容ということ。日本人のほとんどの親たちは自らの過ごしてきたトキを語る事が少な

劇団京芸が創立50周年企画の第3弾として、藤沢薫、早見栄子という二人の大ベテランによる一人芝居の2本立てを上演した。ともに創立メンバーではないが、ほぼそれに等しい。この劇団を背負ってきた演技者の芸を見てもらおうという企画である。

早見が演じる宮本研作『花いちもんめ』は、これまでに何人かの女優たちによって上演されている。夏の暑い昼間の土道。狭い舞台の左前隅に小さなお地蔵様。石段で昇る奥の

人のつながりに気がつくこと

劇団京芸 『花いちもんめ』 宮本 研／作 横山一真／演出

『はたがめの鳴る里』

下戸明夫／作 藤沢 薫／演出

二重が、先に続いてゆく道。中年の女遍路が汗を拭い、誰かにつけられているような、と観客に語りかけ、一人語りが始まる。愛想良くでもなく、打ち明け話でもなく、行き過ぎる者とふっと言葉を交した、そんな調子で話に入ってゆく加減が良い。

満州で奥様暮らしをしていた、とさらびやかな思い出話を始めた彼女は、途中で、嘘をついていたことを明かす。見栄で得々と話していたのではなく、「美しい思い出」を語って見たかった。そう感じさせた。そ



ひとり芝居 早見栄子
『花いちもんめ』

演劇評論家 神沢 和明



い。それは過去はもちろん、現在の時々でさえも。従って、子どもたちは父母の経験を自分の生活に生かすことが出来ない。だが、「太平洋戦争」という未曾有の時を経験した世代は、これを次の世代に語り明かさねばならない責務を負っているはずなのだ。

林田と次々に、そして彼らの若き時代に入り込んでいく呼吸は、うまく作り上げている。予告された空襲のため、死に直面した時間を過ごした仲間たち。次郎にとつて痛恨の浅野太郎の死。老境を迎えた彼らにとつて、その時は忘れることが出来ない「光る時間」であった実感はしつかり伝わってくる。

幕明き。言い合う姉弟とそれを見ながらの老夫婦。だがそこに、目に見えぬ互いの気遣いというか、家族の雰囲気が見えにくい。何かしらの眼づかいなりの気持ちが良い。突然参加してくる中川、そして水谷、

適役を印象づけた。女性たちはA・Bのダブルキャストでのぞんだが、中では山内佳子（秋子）が老け役をうまくこなしたのが目立つ。若手では立人の若い妻の二人、西田千佳子、河合由香里が思い切りよく演じていたし、前添唯照（浅野太郎）がまだ含み声にはなるが、成長が目立つ。舞台は上手・2/3に温泉宿の一室をしつらえ、その正面の窓の彼方も含め、全面を（大黒）で囲んだ。工事現場は、前面下手から真横に足場を突き出し、それを回想場面にも利用したが、どうも不自然。下手1/3は全面が空間。これも回想場面には利用されるがさして効果があったとは思えない。この装置には疑問を感じる。（大黒）は回想場面に螢光塗料の転々と光る紗幕を引くために、その背景を黒にするためだろうが、これでは部屋そのものが独立した、外部からは途絶した空間になってしまう。

（5月18・20日夜 谷町劇場）



ひとり芝居 藤沢薫
『はたがめの鳴る里』

れ良くというのではないが言葉が粘つかないために聞きやすく、ゆるゆるした流れの中で感情をじっくり作っていく。村を逃げ出してゆく日本人たちをロシア兵たちが襲う、その残酷な場面でもあまり声を荒立てずにおき、主眼である場面、帰国直前に、中国人に託した娘に別れを告げにゆき娘に拒絶された、その残念さにそれまで支えてきた深い思いを満たす。計算が行き届いていた。

その娘が中国残留孤児として母親を探しに来日していると言う。会えるものか、と言う彼女であるが、後をつけられている、という彼女の感覚は、娘に追いかけてほしいということの裏返しではないだろうか。わらべ歌「花いちもんめ」の「あの子がほしい」のフレーズは、中国人に売られる日本人の女の子たちの悲しいテーマソングであるが、今、彼女には「母さんがほしい」と聞こえているのではないかと、娘が乗った飛行機を見送る通路の立ち姿を見ながら、思った。昔の悲しい出来事の「語り聞かせ」として良い舞台になっているが、動きがほとんどないだけに、語りの調子にもう少し変化がほしくなってしまう。

ちらはセリフの調子で演じられ、少し訛りも入れている。表情と声音の表現が豊富な役者だから、目先が変わりメリハリがつく。雪降ろしの音に戦争中の銃撃を連想して一瞬時間をさかのぼってしまうなど動きもあり、幕切れの、祭りの棒（矛）を振る場面では、生まれ育った土地への老人の愛情と意地が視覚的にも印象づけられる。ただ、話の内容が劇的であるよりは評論的で、いまひとつのってゆけなかった。一人過疎の村を守ることに、戦場で一人戦うことを対比して示すのも一つの方法だったかもしれない。

両作品ともに「戦争」がからんでくるが、この年齢の役者ではそうなってしまうのか。では40〜50代の役者なら「安保」が出てくるのだろうか。私は「学園紛争」の幕引きをしてきた世代だが、あの状況を主題にした一人芝居はあるかなと、ふと思つた。

(3月23日 DDシアター)

劇団息吹『夜の来訪者』

J. B. プリーストリー／作 内村直也／訳
八木柙一郎／脚本 木田昌秀／演出

息吹には珍しい翻訳劇、推理劇である。もともと脚本は日本の社会に移し変えている。

町の有力者、倉持幸之助の邸宅。妻、娘、息子に娘の婚約者・黒須を交えて、小さなパーティーを開いている。なんの陰りもないような幸せな人たち。と、家政婦が警察官の訪問を知らせる。影山警部と名乗る不思議な男は、ひとりの若い女性が自殺したことを告げ、この場の人々皆が女性の死に責任があるのだと語り、それぞれの秘密をあらわにしてゆく。

プリーストリーの作品はあまり多く紹介されていないが、『夜の来訪者』(“An Inspector Calls”)の人氣は高く、何度も上演が繰り返されている。写真のトリックによって、不確

かな、あるいは無かったことを、現実として観客にまで信じ込ませてしまおう作劇術の巧みさ。小さな事件への言及を芯にして、人々の裏に隠されていた事実が表に現れて来る展開と、時間の進行が最後の土壇場で始めに戻る実験的な手法が印象的である。

以前にこの芝居を観たときは、上流階級に属する人々の悪事が暴かれていくサスペンスとして見てしまった。だが影山の、「人間は他の人間全体に責任がある」という言葉を反芻してみれば、その告発は傲慢な階級意識にだけ向けられるものでないと思われる。人との関係を自分に都合の良いようにしか捉えず、他者を見下し不幸にして反省しない、そんな人々すべてのところに「インスペク

ター(内部をのぞき込む者)」は訪れて来るはずだ。

この芝居のポイントは影山をどう形象化するかであろう。影のような存在として、静かに厳格にという演じ方もある。しかし演出者はより直接的に怒りを表す方を選んだ。それは強い実在感を漂わす大坊晴彦の演技傾向にもふさわしい。個人を超えた怒りを湛えて、彼はより高い存在となった。耐え難いと言わぬばかりの苦々しい顔つきで登場し、深みのあるよく通る声を、他の者たちの疑問や反論を庄するように強く張った。人々が自身の行為を省み後悔することに導くのではなく、人々が有罪であり弾劾されていることを思い知らせようとしていると見えた。「血と炎と怒り」が訪れると恫喝する影山に、「最後の審判」の怒れるキリストのイメージを見た。

幸之助の岩崎徹は、自分の努力で地位を築いてきたという自負が、彼を他の者に対して高圧的に振る舞わ

せると感じさせた。小柄な大坊にのしかかるように反論する。それは自



分の立場を守る以上に、自分の生き方を肯定しようとするためと思える。絵に描いたような大立物ではなく、現実にいる小暴君然として実在感と勢いがあり、影山と幸之助の対立で芝居の枠が固まった。妻・ゆきはまったく自分中心で社会に責任があると感じていない人物だが、佐藤栄子は彼女の社会意識の欠如を一一見おおらかな言動振りで示した。その盲目さが息子を追い詰める皮肉を強めるためには、もっと傲慢でも良かったろう。黒須の辻本浩明は物事を自分に都合の良いように説明してゆく要領の良い男を、嫌味なく演じた。彼によって影山が警察の人間でないこと、女性の死は無かったことが一旦は確かめられる。しかしその後で彼が受ける電話が、時間を後戻りさせ、虚構が現実になる。娘・沙千子は嫉妬という心の罪によって女性を苦しめた。それまで家によって守られてきた彼女は、自分が社会の一部であることに気づき、家族で最初

反省し、影山への畏怖をもち、彼の告発を見守る。池内利津子は箱入り娘らしい無邪気さと、隠されている事実が明かされていくことへの、不安と興味が半ばする気持ち、声のトーンと強さを変えて示した。息子・浩一郎は自分の子を身ごもった女性に生活費として渡す金を、会社の金を盗むことで作っていた。それを止めると頼む彼女の言葉を聞こうとせず、彼の身勝手さは現代の少年犯罪の犯人たちに通じるだろう。青野充裕は不満の中で焦れながら、行動することができない若者の不安定さを感じさせた。家政婦の柳辺育子の、傍観者としての冷静な存在感も重要だった。

部屋の飾りが省略されて名士の邸の豪華さはないが、壁の茶色が落ち着いた印象で目に染みである。設備のせいもあるが、ノイズの多い音響には問題がある。

(5月12日 プラネットステーション)

デジタル劇団員入門〈その1〉

—メールを書こうよ—

1. デジタル劇団員A

「iモードの契約数がついにパソコン通信の大手ニフティを越えた!」や「Windows2000の発売に行列!」や「省庁のホームページが書き換えられた!」などという「!」付きの話題が新聞やテレビなどで報道されるたびに、Aさんは、「パソコンでいい舞台ができるか?」「ワープロが気のきいた科白を書いてくれるか?」「メールでリアリズムの深遠な議論ができるか?」と「?」つきのセリフを吐き続けていました。齒に衣を着せないAさんですから、若い劇団員に疎まれそうですが、その逆に、舞台上でたちまちお客さんを魅了し、袖の小道具係がポオーツと顔を

劇団仙台小劇場

石垣 政裕

ishigaki@econ.tohoku.ac.jp

赤らめながら道具を渡したくなるようなすばらしい演技を見せるため、なん目も置かれてはいるのです。

そのAさんが、稽古場で開かれたある送別会の席で「わたしも、とうとうパソコン買いましたね、娘に言われて……、インターネットやっていますよ、この年で……」とお客さんに二合徳利を傾けながら、わざと合わせないように視線を下げて、話を切り出しました。

Aさんはアマチュア劇団のベテランの役者で、昔は、稽古後の飲み屋での熱っぽい芝居の話や、激しい政治状況の話が嬉しくて劇団を続けていたような人です。当時の劇団員の

中には演技より議論の方が中身の濃い人もいたそうです。ところが「近頃の若い劇団員は酒の飲み方をしらん」と彼が時々ぼやくように、若い劇団員たちは飲みに誘っても知らん顔。政治の話をするれば、次の週からは稽古をやすんでしまう。この日のように、仕方なく飲み会ということになれば、お客さんがいるというのに自分たちだけで輪を作ってしまう。公演後の打ち上げなんか、乾杯をしたらサツといなくなってしまうのです。

それだけではありません。「ニューヨークヘダンスのレッスンへ行くので、しばらく稽古、休むんですけど、YZKがあるじゃないですかあ」「メールで返事を出さずって言うしい、添付ファイルはno.じゃだめだからあ、jpgにしてくださいねー」などと、理解するには半日も苦闘しなければならぬようなことを、これ聞こえよがしに話をするのです。語尾がストレートのままだったりする

と、Aさんは自分の背中にツーツと水滴が流れてしまうような、無防備な虚脱感に襲われるのでした。

そんなAさんが、今日は、送別会に来てくれたお客さんを相手に、お銚子を何本かテーブルの上になかせながら熱心に話をしているのです。その姿は、どこか、いつも口角泡を飛ばして最先端を語っているという昔を彷彿させるようなものがあります。「えっ！」とAさんを凝視し、息をのむ他の劇団員を尻目に、「今日はマジだな。意識がはっきりして、だいたい、呂律が回ってる」とだれもが思うほど、はっきりとした物言いで、「メールの効能」「インターネットの極意」を話し出したのです。

Aさんのお酌を受けながら、話を聞いていたBさんによれば、いま世間を騒がせている新興宗教の伝道師のように確信に満ちた用語を使い、横文字に「てにをは」をつけただけ

のような技術用語を流暢に操るAさんの話しっぷりやその内容は、まさにAさんのデジタル劇団員への変身を直感させただけではなく、来るべき高度情報社会に対する地域劇団の対応の遅れを痛感させたそうです。

さて、私たちはこの、デジタル劇団員に変身したアマチュア劇団員Aさんの経験談にしばし耳を傾けながら、Aさんとまではいかなくても、地域劇団も「インターネットの効能」にあやかるうかと考えたのです。

バーチャルという言葉は、「実際の施設や装置がなくてもあたかもそこに存在しているように振る舞うことができる」という意味で、バーチャル・モール、バーチャルタウンなどといった使われ方をします。私たちは「実際にパソコンがなくてももう操作したような気分になってしまおう」バーチャル劇団生活をこれから展開しようとしているわけです。そして、パソコンを買う前に理解して

あ、時流に乗ってるよ」と自慢しているのです。このアドレスの意味については後で述べることにします。

さて、日本のインターネット利用者数は1999年2月で1508万4600人。この伸びで行くと（日本インターネット協会「インターネット白書'99」）1999年末には1845万人になると予想されているので、日本の総人口を1億2649万人（平成10年 <http://www.stat.go.jp/Sk3c.htm>）とすれば国民の15%はインターネットのユーザーになっていることとなります。世帯数からするとほぼ5世帯に1世帯が何らかの形でインターネットを利用していることとなります。そのうちのほとんど（95%）が電子メールの利用者なのだそうですから、30人劇団員がいれば、6人はメールを読むことができるかもしれません。10人の劇団でさえも2つもメールアドレスが使えることとなりますので、劇団の間の

連絡ならこれらのメールで済んでしまいかもれません。

1999年2月からはNTTドコモという会社がiモードなる携帯電話機でインターネットの情報をやりとりできるサービスを開始し、これが爆発的に普及しているので、メールの利用者はさらに増えているはずです。携帯電話は話す時代から、見つめる時代になってしまったのです。そのうち、お互いに相手の顔を映し出すことになるはずですし、稽古中に台本を目隠しにして電話を握りしめ、器用に指を動かしている団員がいたら、劇団は知らない間にデジタル化していると認識していいでしょう。

電子メール（以下単にメールと書きます）は、後で述べるように、普通の手紙のように文字を送るだけでなく、絵や写真なども送ることができます。Aさんをはじめは「そんなのあんた、手紙に写真を入れてしま

おこうと、解説書を2冊買ったまま挫折したり、電機屋さんや事務機店さんのすすめに乗って買ったパソコンが奥のタンスの横で家具の仲間入りをしてしまうことがないように、この入門を読んだら、すぐ「解説の」書は捨て、街（パソコン電機店）に出よう」と力説したいわけです。

さて、前置きがとても長くなったことをお詫びして、さっそく本題に入らなければなりません。

2. メールってなに？

Aさんが学生の頃はメールというとエアメール（航空便）を指していた……かどうかわかりませんが、現在では明らかに「電子メール」を意味します。通常 email とか email と略されます。Aさんがみんなに配っていた名刺にはちゃんと「email Aohan@ashihama.ne.jp」などと書いてありますが、これは電子メールの宛先を示して、さりげなく「おれ

えばおなじやないか」と思っていたそうです。「ほなら、手で書いたほうがなんぼか早いわ」と、42歳の厄年に妻から送られたというブルーインキを詰めたパーカーの万年筆で原稿をしたため、同時に中古カメラ店で手に入れたペンタックスOM1で撮った写真を添付し、演劇会議へ送っていたそうです。ところが、デジタル劇団員に変身したAさんは、パーカーをキーボードに変え、ペンタックスをデジカメ（1、0、1、0と歩く亀ではなく、デジタルカメラのこと）に変えて原稿を送っているのだそうです。もともと、だからといって、原稿が期限通りに届いたという感謝の言葉は編集局からはもらっていないそうです……。

メールの優れたところをだけをあげてみましょう。短所については、それぞれの劇団の演出に頼めば必要以上にダメ出しをしてくれるので、ここでは省いてもいいでしょう。

表1 おおよその記憶容量

原稿用紙	1枚	400字	800バイト
A4のノート	1冊 100ページ	77,000字	154キロバイト
フロッピーディスク	1枚	720,000字	1.44メガバイト
CD-ROM	1枚	270,000,000字	540メガバイト

すでに1分間に80文字打つそうですから、文字だけで考えると、2ギガバイトのハードディスク分を打つには、休みなしで23年285日33時間が分かかります。これでは三蔵法師がお経を入力するほどの集中力と時間を費やさなければなりません。ハードディスクに書き込むことができるデータ量は膨大だということになります。しかも、最近では10ギガバイトを越えるハードディスクも現れていますので、こんどは孫悟空の域に近づい

てしまおうわけです。さらに、これら記録された文字などは、なんでも、他の文書に使うことができますし、加工・編集が自由自在です。孫悟空を手玉にとる釈迦さまのようにありがたみが出るわけです。

⑤とにかく手数を省ける
一つのメールに、宛先をたくさん書けば、一度にたくさんの人に送ることが出来ます。メンバーが決まっている運営委員会メンバー、劇団員全員、照明部員などなど、グループごとに一括してメールを送ることが可能です。Aさんは、劇団の会計を担当しているため、劇団費のためにちな団員を予めリストしておき、毎月末になると、一度に請求書を送るという手段をとっています。付録に書き込んだメールアドレスを使えば、さらに簡単にたくさんの人を仲間にする事ができます。

3. さつそくメールを出してみよう
Aさんのことわざに曰く、「買う前に慣れる」。実地的確な言葉です。パソコンを買う前に、友だちや職場の「お兄さん」、せりふを見てやっている劇団員のパソコンを借りてメールを出してもらいましょう。文字の入力は高倉健さんのように指一本でいいのです。「男の挑戦」が周囲の方に伝わるかもしれませぬ。しかし、その手紙に返事が来たときは、かつて一度だけ受け取ったことのある恋文のように心が躍るはずですよ。Aさんはまた「持つべき者はお節介なオタク劇団員」といいます。とにかくパソコンというものはよく分からないだけに、一旦トラブルが起きると急激に熱が冷めてしまう傾向があります。そんなとき、電話一本で、ねじ回しのドライバーとソフト上のドライバーとを持参して劇団に来る団員は貴重です。時にはパソコンの

①とにかく速い

「あっ」という間につきます。遅くても数分ぐらいです。Aさんの奥さんはオランダに留学した娘から日本料理の作り方を聞かれるんだそうです。「ええと、ダシの次は何入れるの?」「オーブンもう30分になるんだけど、出してもいい?」これが航空便だったら「次に豆腐を入れて下さい」「出している間に腐ってしまいました」「味噌を入れて下さい」「すでに汁がなくなっていますか?」……ぞつとするでしょう。

②とにかく安い

Aさんが全リ演の会議に出るとします。そうすると、交通費、宿泊費、食費、コピー代、交流費などがかかります。前もって、メールで資料の配付や議題の調整をしておけば、会議は短時間で済み、宿代が浮くことは間違いありません。また、資料の送付も、80円の切手が、10円の市内電話代(通話料金だけでなく、接続

料金が加算される場合もあります)で済むわけです。雑誌や編集原稿などの編集の場合はさらに安くなるというわけです。1回に20円かかったとして、60円の節約。1日4通メールを送れば、1年でパソコン代まで回収してしまふことになりす。ファックスの経済性に匹敵します。もっとも、飲むことも大切なことはAさんがいちばんよく知っているので、こんな場合は「次の日の会議を気にしないで飲むことができる」という利点をあげればいいことになっています。

③とにかくマイペース

携帯電話は、自分のプライベートの領域まで電話が入り込むような気がして、Aさんはいまでも馴染めないそうです。メールの場合は、ベルの音に呼び出されることもなく、家族との団らんの後でも読むことができるので、お互いの自由度を尊重することに出来ます。若い頃から劇団、

劇団と走り回って家族を顧みなかったAさんは、少しでも罪滅ぼしに考えると考えているのかもしれない。

④とにかく記録・保存でき、資源も有効利用
これまでのコピー機に頼る資料やファックスと違って、紙を使わないで文書を保管でき、それらをいつでも簡単に取り出せます。机の上がきれいになったAさんは、奥さんから「やればできるじゃない」とほめられたと照れていました。ではどのくらいの文字情報を保存できるか、ちよつと計算してみましよう。

今、英文の1文字を1バイトという単位で表します。日本語の場合は漢字など種類が多いので2バイト使います。そうすると、書ける文字の量は単純な計算で(表1)のようになります。

キロは1000倍、メガはその1000倍、ギガはさらにその1000倍です。デジタル化したAさんは

内部の掃除までしてくれたりします。Aさんはそのたびに、一升瓶に つまみまで持参してくる旧劇団員の 顔をしみじみと思い出すのだそうです。

「ちよつとこのメールを出して くれる？」と頼めば、ソフトウエアを 動かしてくれるはずで、これは メールというメールを書いたり読ん だりするソフトウエア（以後メール と書きます）です。メールにはいろ いろな種類のものがあります。とて もたくさん機能を持ったり、勝手に いろいろなことをやってくれるもの もありますが、何でもかんでもやれ る有能なものは、それだけ一度つま づく（トラブルがおこる）とにつち もさつちもいかなくなるという人生 訓に似たものがありますので、でき だけ扱いやすいものを選ぶ必要が あります。ここではとりあえずネッ トスケープメッセンジャーという メールを使ったと覚えてください。

メールには次の三つを書く必要が あります。①宛先を書く②件名を書

く③本文を書く

① 宛先

まず、相手の宛先を調べましょう。これはカタカナでイーメールアドレ スといいますが、日本人同士の場合、 普段は習慣で単にアドレスと言うこ とが多いようです。もちろん、メー ルは世界中に配信されるので、やが て、常に「世界」を念頭におくこと も必要になります。

さて、ではアドレスはどんなふう にして決められるのでしょうか。A さんを例に見てみましょう。A さんは次のようなアドレスを持って います。（もちろん、こんなアドレ スは存在しません、念のために）

Achan@ashitamata.ne.jp

自分のアパートだったら、あなた が入る前から既に住所は決まってい て、契約時に不動産屋さんから教え てもらえます。後はあなたの名前を

com(企業)、net(ネットワーク組織)、 edu(大学関係組織) などとなるわ けです。

そこから先は、機関名、サーバ名 などと個別化していきます。ですが から、先ほどのAさんの場合には、「日 本の・ネットワーク組織にある ashitamata」というサーバを使ってい る「Achan」ということになります。 アドレスを他の人に口で伝える場合 は「私のアドレスは Achan アット マーク ashitamata ピリオド ne ピリ オド.jpです」と言えばいいわけです。

宛先 (To) の他に、なんやら見 慣れない cc や bcc などがあります。

cc はカーボンコピーということで、 ある人に送ったメールを他の人にも 「だれだれさんにこんなメールを送 ったよ」と知らせたい場合には、こ こに「他の人の」アドレスを書きま す。bcc は隠しカーボンコピーとい うことで、他の人にも送る場合、送 った人にはそのことを秘密にしてお

書くだけです。電子メールの場合も、 会社や学校あるいはインターネット のサービスをする会社（プロバイ ダーと呼びます）のメールサーバ（手 紙を配達してくれる郵便局と思っ て下さい）を使う人は管理者から、住 所のようなものを教えてもらいま す。これをドメイン名といいます。

「ashitamata.ne.jp」の部分です。 「Achan」の部分はメールで使う仮 の名前（バンドル名といいますが、 べつにこんなことは覚えなくても…… 覚えなくてもいいかもしれません） です。これは、既に与えられる場合 と、自分の希望でつける場合とがあ りますが、Achan はメールで使うあ なたの名前と考えて下さい。

さて、この二つの記述を「@」で わけていますが、これをアットマー クと呼びます。住所（ドメイン名） は「」（ドットあるいはピリオド。 犬の好きな方はポチでしようか； ;）で区切られています。相手が どこのメールサーバを使っているか

きたい場合に使います。cc では受 け取った方が「ふむ、だれだれさん にもこの文書は送られているんだ」とわかりますが、bcc のところに書 かれた宛先は、メールを受け取った 相手 (To) には知らされないことにな っています。人間関係を大切に なさりたい方は、cc のところまで にしておくことをおすすめします。 宛先は、コマンドで区切りたりすれ ば、いくつも書くことができますの で、同じ文書をたくさんの人に送る 場合に便利です。

② 件名

件名 subject には「全り演運営委 員会日程の調整」「フェスティバル の助っ人頼む」などと内容の要約や 呼びかけなどを短く書きます。半角 英文で35字、最近日本語で書かれ る場合が多くなりましたので、漢字 仮名交じりで12から18字ぐらいに してお方がよいでしょう。

海外に送る場合は本人宛でも英語

は、アドレスの後ろから読んでいく と判断がつく場合があります。ja は 日本という国名を表します。中国な ら cn、韓国なら kr、ドイツなら de と言うわけです。国名がついていな い場合もあります。アメリカ合衆国 ではないことが多いようです。 これにはAさんはいまでも「アメリ カ帝国主義の覇権主義に手を貸すか もしれない」と少しわだかまりを持 っているようですが、これはイン ターネットの発祥の歴史、世界規模 のネットワークという観点から今回 は少し我慢して、次の機会に書くこ とにしましょう。

また、アドレスの次の部分は、機 関などの種類を示しており、これは 国によって違いますが、日本では cc (主に株式会社などの営利企業)、nc (ネットワークサービス事業)、ed (大 学など教育機関)、gd (小・中・高)、 go (日本の政府機関など)、gr (任意 団体など)、cc (非営利法人) など があります。これが世界規模では

表3 Bさんからの返信

a-	劇団ふつかめのBです。
b-	Achan wrote; > 2週間前でやっと台詞が入りました。 私にはなかなかできないことです。 > つきましては、稽古場へ10時にお集まり下さい 途中、スーパーで買い物をしていきますので 少し遅れます。申し訳ありませんので 始めていて下さい。
c-	----- Yokohama Beikichi Theater Group Futsukame e-mail Bchan@nekodo.co.jp -----

あります。ネットワークは便利な反面、一人の不注意が全体に大きく影響したり、個人のプライバシーや安全を脅かしたり、脅かされたりする危険性もあります。

表2 Aさんの手紙

a-	劇団ななかまどのAです。
b-	2週間前でやっと台詞が入りました。 これまでにない快挙なのでササカマ でお祝いしましょう つきましては、稽古場へ10時にお集 まり下さい よろおしく
c-	----- 矢沢英七 劇団ななかまど 千田市大塚区邪町5-36 e-mail Achan@ashitamata.ne.jp -----

③ 本文
決まった書き方はありませんが、多くは次のような書き方をするようです。
a 「>」の「だれだれです」と名の

を使うことが必要です。受け取る側で日本語の表示ができない場合もあります。それでも、件名だけでも分かる、いろいろな面で便利です。また、半角のカタカナや特殊文字は使いません。

b 「本文」を書く
c 「署名」をつける
例えばAさんは「表2」のように書きます。

パソコンに、日本語を表示するにはそれなりのシステムが必要なので、それがうまくいかない場合の時も考えて、件名のところでも述べたとおり、半角のアルファベットで書いておけば、安心かもしれません。このcの署名の部分は、使うメールによって、一度設定しておけば、自動的に書き添えられるものもあります。

さて、ここまでくればしめたもの、あとは「送信」あるいは Post や send などというボタンをちよいと押すだけで、メールが送られていきます。

5. 添付ファイル

さて、文章だけでなく、写真やワープロの文書、音声、ビデオ画像までメールにくっつけて送ることができ

7. こんなことに注意すればいい
そこで、いくつかの注意が必要になってきます。

① ルールを厳守しよう。

自分が使おうとしているネットワークにはそれぞれの考え方（ポリシー）があるのでそれをよく知っておく必要があります。たとえば「商業行為はできません」「教育研究などの場合以外は利用できません」とか、さまざまなポリシーがありますので注意して下さい。

② 相手のことを考えましょう。

文章だけなら、それほどの量にはなりません、不注意に写真を貼り付けたらすると、相手が迷惑する場合があります。Aさんの友だちで、よく「うちの息子のかわいい寝顔を見て下さい」と大容量の写真を送ってきたりする友人がいます。送ってくる彼は、よく演出から「独りよが

ます。これらはすべて「ファイル」として扱います。これを予めどこかに保存しておき、ファイル添付のボタンでこのファイルか？ と聞いてきますので、それを教えてやればいいわけです。

6. 返信のメール

届いたメールを指定して、返信のボタンを押すと、相手のアドレスを入れなくても返信を出すことができます。（表3）のように返信をすればいいこととなります。

ここで「>」は相手の文章を引用したという約束の記号です。こうすることで、文面が単純化され、効率よく通信ができるようになっていきます。だからから来たメールを別の相手に転送することもできます。受け取ったメールを指定して「転送」のボタンを押し、相手のアドレスを書き込み「送信」するだけです。

メールなどを出す場合には、いくつか注意しなければいけないことが

りの演技はするな」と注意されているようですが、常に相手のことを考えて、小さなメールにするように心がけたいものです。また、相手は必ずしも最新のメールシステムを使っているとは限りませんし、おなじワープロを使っているとも限らないので、できるだけ単純な通信を心がけましょう。

③ 特定の個人を誹謗中傷しない

紳士・淑女とまではいかなくても、メールを使ったりする場合はエチケットを守らなければなりません。ネットワーク上のエチケットというところでネチケットという言葉もあります。他人への誹謗中傷はこれの中でも厳禁の部類に属するものです。とくに、メールは話者の姿が見えないことから、なんでもできるという気分になることがあるので注意が必要です。

④ 変な手紙は読まずに捨てる

身に覚えのない内容の手紙、見知らぬ人から添付ファイルが送られてきたなどということがしょっちゅうあります。これは、普通の郵便で送られてくる怪しげなダイレクトメールや不幸の手紙、訪問販売などと同じと考えて、取り合わないで下さい。メールは「削除」のボタンを押して捨てる。また、あまりしつこい場合は抗議しましょう。Aさんも「変な写真をダウンロードしたと身に覚えのない請求書が英文で来たことがある」のだそうです。これは全く無視していたら何のことはなかったとのことです。

また、添付されてきたファイルをいじっていたらウイルスがくっついてしまいました。この場合は、例のオタク劇団員に電話をして事なきを得たのだそうですが、ウイルスは自分のマシンが壊れるだけでなく、自分が感染源になり他人に迷惑をかけることになりかねないのでとくに注

意が必要です。Aさんはその後、強力なウイルス検知ソフトを入れてもらっていると自慢していました。

(5) メールはだれかに読まれることもある

オープンな議論をするということから始まったシステムだけに、悪意があれば、メールは読まれてしまうと考えて下さい。悪意ではないでしょうが、会社などによっては、メールの中身をチェックしているところもあります。絶対秘密にしておきたい内容の場合、最近では暗号化して送るということが行われていますが、これは話すときと長くなり、当面は必要ないので書きません。しかし、くれぐれもメールにはクレジットカードの暗証番号などを書かないようにして下さい。

(付録) メールリングリスト

たくさんメンバーに、同じことを知らせるのに、いちいちメンバー名を書いたり、新しくメンバーになった人を知ったりするのはとても面倒なものです。それを代わりにやってくれるのがメールリングリストというシステムです。ある特定の郵便ポストがあり、そこにメールを送るとそこに登録されている全部のアドレスにメールが送られます。メンバー内の意見交換、情報の共有などにとっても便利なものです。

全リ演のポストもつくりました。アドレスは

zenrien@mia.nifty.ne.jp です。

一般には公開しておりませんが、全リ演のメンバーだけ利用できます。参加して下さい方が多ければ多いほど内容は充実します。参加申請は以下のアドレスにメールを出すだけです。

owner-zenrien@mia.nifty.ne.jp

劇団名などを明記して下さい。

曲 三〇二号室の春

戯 劇 — 近しき病院のスケッチブック —

作 栗木 英章

〈出演〉

尾崎大志 入院患者 フリーター
学 その父 大手メーカーの営業マン
由利 その母
山田 功 入院患者 金型任上工
洋子 その妻 パート勤め
真理 その娘 OL
納谷次郎 入院患者 役者
杉野美樹 次郎の恋人 女優
石川賢治 入院患者 中学校教師
鈴木みどり その教え子 中学三年生
小森香代 同右
野村京子 看護婦
川合千恵 看護婦
刀根 誠 医者(女医でも可)
はな 病院のパート掃除婦
その他 声など
(とき)

現代 二月から三月にかけて。

〈場所〉

ある病院の外科病棟 三〇二号室を中心に。

— 無人の病室。

はなが例えばモップがけなどの掃除をしていると床にお金が落ちていた。まわりにだれもないのを確かめて、天に祈りつつお金を懐に入れる。はなは、「神様、仏様、お恵みをありがとうございます。」と念仏を唱えながら、次の部屋へ移動していく。

— 片隅の京子に明かり。

京子 ここは中規模の病院です。私は外科病棟の看護婦をしている京子といえます。看護婦不足で勤務はきついです。

やり甲斐のある仕事だと思っています。

(病室を見て) これは三〇二号室です。

四人部屋です。(腹のあたりを押さえて、山田が入ってくる) 山田功さん、機械メーカーの任上工をしています。腕のいい職人さんで、肝臓ガンの手術をしたばかりなのに、もう仕事のことを気にされていきます。

山田 (ふと、パジャマのポケットに手を取り) おかしい。

京子 どうしたの？

山田 お金、どこかに落としましたのかな。

京子 そう、じゃ事務局の方へ届けておきます。

山田 病院で……金かかるなあ。

京子 お年寄りや弱い人にしわ寄せがいく医療行政だから……組合でもがんばってるんだけどね。

山田 娘が結婚するんだ。早く退院させて

くれ。

京子 それは、山田さんが医者と一緒にな
って回復に努めたら、それだけ早く——
山田 仕事したいんだ。そうでないよ。今、
厳しい時期だから、な。

京子 はい、今はあれこれ気にしないで、
やすむこと、ね。

——山田は横になる。続いて、納谷がブツ
ブツ言いながら入ってくる。

京子 納谷次郎さん。東京の劇団の役者さ
んだけど、肺ガンの手術のため、生まれ
故郷にあるこの病院へ入院したんです。

納谷 「アア与太郎 来たかい、マアこっ
ちへ入んな。さつきおふくろにあつたど
ころが、まだお前は相変わらず遊んでる
そうだな。そろ二十歳にもなってるんだ、
遊んでちゃだめだ」「ウーン、おれも二
十歳になんかなりたかアねえけれども自
然になつちまつた。伯父さん、なんだね
二十のことをハタチというんだね、して
みると三十はイタチてえかね」
京子 ふふ、今度は咄家の役者？
納谷 初めてセリフのある役についたけど

士天海冥真になってしまっんです。

京子 そう。

大志 そんなあつさり認めないで下さい。
ぼくは生れたときから士天海冥真で育つて
きたんです。

京子 じゃまた、すぐに戻るんでしょ。そ
の士天——

大志 冥海！ 次の逆転は二二〇年先で
す。それ考えると口惜しくて口惜しくて

京子 明日は手術よ。気持を落ちつけて。
大志 ……ぼく……ほんとは悪性じゃないの。
京子 胃かいよう。手術をすれば確実に直
るわ。桜の花の咲くころには退院でき
るわ。と思う。

大志 ぼく……桜を、見れるんですね。
京子 あの庭の桜、それは見事よ。三〇二
号室のみんなでお花見しましょ、ね。

——大志は少し落着いて横になる。
千恵が京子を呼びにくる。

千恵 あつ、急患です。すぐ手術室へ
京子 はい、ありがとう。(急いで去る)

…ふん、もう別の役者にならなうたよ。

京子 そう……また次の機会に——
納谷 ない！……もう、役者も終わり——
(咳込む)

京子 風邪をひくためよ。さ、眠りましよ。
納谷 ……俺、直るのかな。

京子 ……ええ。

納谷 一瞬の沈黙のあとのええ、ええ相変
わらずバカバカしいお笑いを(ふとんを
叩く)

山田 おい！

納谷 ホコリ高き男、ラー、ラーララーラ、
バーン、カム・バック、シェーン。(ベ
ッドへ倒れ込む)

——石川が登場。

京子 石川賢治さん、中学の国語の先生…
前立腺の方にガンができて…ニククネー
ムは東北。

石川 (生まじめに) では、今日は宮沢賢
治の「よだかの星」を味わってみよう。
佐藤読んで……なんだ読まないのか。遠
藤……佐竹……みんな返事をしなさい！

——千恵は追おうとして、ゴキブリを見つ
ける。

千恵 はっ、ゴキブリ、病院をナメテから
に。(上ばきを脱いで、思い切り叩く)
キャーッつ、つぶれちゃった。どうしよ
う、先輩、京子さん！(上ばきを手にし
て走り去る)

——急速な闇となる。

二

——夜中。

石川が授業で「よだかの星」を読んでいる
夢。ハモニカが流れる。

石川の声 「…よだかは、実にみにくい鳥
です。顔は、ところどころ、味噌をつけ
たようにまだらで、くちばしは、ひらた
くて、耳までさけています。足は、まる
でよぼよぼで、一間とも歩けません。ほ
かの鳥は、もうよだかの顔を見ただけで
も、いやになってしまおうという具合でし
た…」

——山田と納谷は石川の大声に顔をあげ
る。

京子 石川さん！

石川 さわさわさわさわ……聞こえませ
んか、あのさわめきが。

京子 疲れてますね。菓飲みました？

石川 安定剤なんかで……気持は落ちつきま
せん。さわさわさわさわ……(ふと我にか
えり) 失礼した。(横になる)

京子 学校のストレスからか……少し心にも
病のカゲリが認められます。

——大志が「水金地火木土天冥海、水金地
火木土天冥海」と呪文のように唱えつつ入
ってくる。

京子 尾崎大志君、少々甘えん坊の患者。
胃かいようです。大学受験の最中に入院
してきました。ふふ……大志君、どうした
の？

大志 太陽の周りを回っている九つの惑星
を太陽に近い方から順に並べたんです。
京子 へえ、すごい！

大志 ところがこの二月には、土天冥海が

——生徒たちの騒ぎ声が大きくなつてかき
消す。

石川 うるさい。静かにしなさい！

——石川は自分の声に驚いて、体を起こす。

大志 (月明かりの中で低くハモニカを吹
いていたが) 大丈夫、ですか？

石川 ……夢、か。

大志 すみません。

石川 うん？

大志 ハモニカ吹いたもんで——

石川 構わんよ……眠れないのか。

大志 ……はあ。

石川 手術前にはな、誰でも、

大志 休憩室へ行つてきます。(去る)

石川 (夜空を見上げて) 冬は……星がよく
見える……

——石川は深いため息をついて横になる。
休憩室に明かり。ハモニカを吹いている大
志。京子が見回りにくる。

京子 だめよ、寝なくちゃ。

大志 …あれが火星です。

京子 どれ？ (指さす方を見て)へえ、赤く光ってるのね。

大志 今、地球に一番近づいているところ。京子 詳しいのね。将来は天文学者？

大志 わからないんです。自分が何になりたいのか…今まで親の言う通り順調にきて…はじめて大学入試に挫折して、胃の手術を受けることになって…何だかよくわからなくなっただけです… (泣く)

京子 早く病気を直して、また挑戦してください。 (やさしく肩に手をかける)

大志 おやすみ。(去る)

京子 おやすみなさい。(腕時計を見て)

今は夜中の一時過ぎ。私たち交代で、夜の巡回をしています。ちよつとしんどいけれど、これも大切な仕事ですから。でも不思議なんです、こうして回っていくと、今まで静かだった病室が、急にザワザワと出ます。咳をしたり、ううつと寝返りをうったり…私看護婦になりたてのころその意味がよくわかりませんでした。不気味にさえ思えました。でも、そのうちにわかりました。眠れな

い患者さんたちが、私たちにちよつとした心のスキンシップを求めているのだと。だから、各々ちよつと背中をさすってあげたり、ふとんをかぶせたりして過ぎていくんです…ホラ、聞こえるでしょ。

—かすかに、ざわめきや咳ばらいの声。京子は、懐中電灯を持って、三〇二号室も見回り去っていく。暗い中で様々な声が交錯する。

○うちのかかあが持ってきた花、すぐ枯れちまっつてよ。

○そりやよかった。うちの嫁なんか甘いもんばつか持ってきて、わしを糖尿にして殺すつもりだ。

○ほんた、足がしびれて動けんわ。

○ほんたでか、あの看護婦ツンツンしてるのは。

○おうい、おうい—

○北海道

○とういこと言っつてかん。ここ名古屋だ。

○ほうか、わし愛知だとばつか思っつたぎや。

○南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經…

—みんなの声がお経に呑み込まれていく、星空がしばし残って。

三

—日曜日の昼下がり。手術を終えた大志のところに両親の学と由利が見舞いに来ている。

山田は慣れない手つきでノートパソコンを操作している。納谷は休憩室に。石川は不在で、ベッドの横でみどりかヘッドホンで音楽を聞いている。

由利 よかった。全てが順調で。はい、これビタミン剤と、これが頭をよくなるというクロロ…なんとか、ね。

大志 いいよ。

由利 それと、(書類を出して)川合塾、申し込んでいたから、これがガイドブック。

学 おい、ちよつとまだ—

由利 ちよつとちよつとよ言ってる間に、みんなはグリーンと進んじやうの。あ、そうだ先生のところにちよつとこあいきつ

を—

学 俺もちよつと—

由利 あなたはいいの。(去る)

学 …大変だったな。

大志 これからだよ。

学 うん…

大志 大志を抱け、か、父さん、どうしてこんな名前つけてくれたの？

学 …うん、父さんは、その、太郎がいといっただが、母さんが大志といっ

てきかないもんだから…。

大志 尾崎太郎…この方がよかったな。学 ふふ…名前はともな、父さんも学

とつた割に、勉強の方はさっぱりで。

—携帯の呼び出しで、学は出て話す。

香代が花を持って登場

香代 (見わたして) あ—

大志 はっ？

香代 先生—

大志 ああ、石川さんね。お医者さんのと

りここへ来てたの。(みどりを見つけて) みど

みどり (一瞥、音楽に聞き入る)

香代 よかった、元気そうで。ちよつとお花替えてくるね。

—香代は花びんごと古い花をもって活け換えに去る。はながゴミの収集にくる。

はな (ゴミの中から週刊誌を手にして)

ミッチーとサッチーの喧嘩、ますますエスカレートか、フン、放つときやいいんだよ。ねえみんな放つときや。(誰も聞いてないので) 渡辺絵美、番組降ろされる、和田アキ子が中立発言…(ひよいと丸めて懐に入れ) 読まなきやいんだけどさ、なぜか気になるし…と。

山田 (大志に) ちよつと、ここへ表を入

りたいんだけど…いいかな。

大志…ああ、はい。(教えてやる)

はな (みどりに) そのペットボトル、自分で片つけてよ。はい、おじやましました。(入口で石川と出合い) 先生、どう

でした。

石川 ……

はな もう退院ですか？

石川 ……転移の疑いあり。(ベッドに入り、

茫然とする)

はな (一人言の如く) まあね、世の中、ええこと少ないで、ほんと。(去る)

—山田と大志は石川をそつと見守る。

学 (電話に) わかりました、すぐ行きます。(切って、深いため息)

—香代が花をもってくる。

香代 先生。

石川 おお、来てくれたか。

香代 元気ない。

石川 ふむ…

香代 石川先生のところへ行くと言ったらね。「東北がなつかしい。早く授業に戻ってくれ」って、あの遠藤くんも、佐竹くんも。

みどり (いきなり) 嘘！

香代 なによ。

みどり 誰も先生のことなんか気にしてない。

香代 そんなことない。

みどり あんただって、学級委員で、仕方

ないからいっぺんだけ来たんだろ。
香代 ちがうわ。
石川 やめなさい。

——みどりは、再び音楽に聞き入る。

香代 先生！
石川 ありがとう。みんなによろしく伝え
てくれ。……

香代 私、先生のこと心配して——
石川 わかつてる。みんなには受験の大切
な時期にこんなことになって……すまない
と思ってる。(頭を下げる)

香代 先生——

——由利もどってくる。

由利 ちよつと教育テレビ、医療の最先端
情報——

学 俺、仕事もどるよ。

由利 あ、そう。九ちゃん九ちゃんと——

大志 ありがとう。

学 うん、無理するな。(去る)

山田 (大志に) すまなかつたな。

大志 これは、何か技術の記録ですか。

山田 大したもんじゃないけど……仕上げ作
業のノウハウを先輩に伝えようと思つて
な。

大志 ……へえ、後輩のため。

山田 まあな。

大志 人のため——

山田 う？ 何かおかしいか。

大志 いえ……不思議な気がして。

由利 遺伝子治療を東大、東大でやってる。

大志 見なさい。やっぱり一番進んでる
のは一流大学よ。ハイ、この薬飲んで。

大志 いいつたら。

由利 大志！ 大志を抱くこと。

大志 もう帰つてよ。

香代 私たち卒業するまでに、もう一ぺん

国語の授業やって、ね。

石川 ……やれる、かな。

香代 「よだかの星」、先生倒れて中断し
たけど、あれを——

石川 ふふ……誰も聞いてなかった。

香代 私、あの話好き。

——バイクの音、近づいてきて停まる。
みどりは立ち上がる。

香代は、みどりの離れたヘッドホンを聞く。

大志 水・金・地・火・木・月・火・水・木・
金……

香代 みどりのお父さん……この間駅で寝て
いた……すこく酔っ払って。

石川 建築現場から落ちたらしくってな……

家庭訪問しても……言葉が出なかつた。

香代 ……先生、生きていくって……いいもの
ですか？

石川 うん？

香代 このまま、ずっと進んでいくことが
不安なんです。自分がわからなくなつて

——

石川 リーダーの君が、か。

香代 みどりはよくみています……私、いい
子じゃない。今日も、他に誘つても誰も

こないし……試験前に自分だけムダな時間

つかつてるような気がして……

石川 ……きれいな花、ありがとう。

香代 帰ります、お大事にして下さい。(皆

に) どうもおおじやました。(去る)

由利 いい娘だね、今どきの中学生にしては、

山田 (サイフをもって、立ち上がり石川

に) 電話を。

石川 (頷く)

山田 何か、買ってきましょか。

石川 いえ。

山田 (行きかけて) また、その、よだか

の話、聞かせてもらえますか……わしらは、

小さいころから、そういう方の本は読ん

だことがないもんで。

石川 はあ。

——山田は出て行く。

石川 「……ほかの鳥は、もうよだかの顔を

見ただけでも、いやになつてしまうとい

うぐあいでした。たとえば、ひばりも、

あまり美しい鳥ではありませんが、よだ

かよりは、ずっと上だと思つていました

ので、夕方など、よだかにあうと、さも

いやそうに、しんねりと目をつぶりなが

ら、首をそつちへ向けるのでした……」

大志 よだかには、するどい爪もくちばし

もなかつたんですね。

石川 名前にたかがついても……たかではな

かつたからね。

——千恵がジャージ姿でとび込んでくる。

千恵 さあ、健康体操しましよ。(気合を

香代 わつ、宇多田ヒカル。

みどり フン、結局そいつも恵まれた一人

さ。またくる。

香代 ねえねえ、もうすぐ卒業だから、学

校へ出ようよ。

みどり 今から、パージンの卒業式。

石川 みどり、自分を大切にしろ。

みどり 大切に、どうなるの？

石川 自分の人生を……生き抜く。

みどり ふふ、めずらしく説教。そうやっ

て生きてきた先生が、生徒からはバカに

されて、ノイローゼになつた上、ガンだ

ろ、アホらしくて。

香代 ひどい！

みどり いい子ぶるのはやめろ。今やみん

な東北のことなんか忘れて、新しい担任

のゴマスつてるんだろ、内申よくしても

らうために。

香代 ちがう、クラスを立て直そうと——

みどり せいせいお受験で、人を蹴落とす

ことを考へな。パーイ(出て行く)

香代 先生——

由利 こわいねえ。今どきの中学生は、ホ

ラ大志、あれが東大の医学部だよ。来年

こそがんばつて——

入れて) ターツ。

——由利はびつくりしてひつくり返る。

千恵 さあ、リクレーションルームで待つ

てますよ。(他の部屋にも呼びかけつ

て去る)

由利 もう、帰る。

石川 「鷹は、これをひじょうに気にか

けて、いやがつていました。それだから、

よだかの顔さを見ると、肩をいからせて、

早く名前をあらためろ、名前をあらため

ると、いうのでした……」(苦痛に身をよ

じらせる)

大志 大丈夫、ですか。

石川 ……もう一度……学校へ戻りたい。

——大志は石川をじつと見守る。

帰りがけた由利は、声もかけられず、「ち

よつと」と言つて立ち尽くしている。

救急車の音が近づいてくる。不安がよま

四

——病室の奥上方に設けられた休憩室。

椅子とテーブル、灰皿など。

所在げな納谷、小形ラジオから、落語が流れている。やがて山田が来て公衆電話をかけるので、納谷はラジオ放送を切る。

山田 もしもし、あ、金型課ですね。仕上げの山田です。どうもすみませんが、製造長お願いします。(待ってる間に納谷へ) 雪ですかね。

納谷 (電話の会話だと思って、気づかない)

山田 (大声で) 雪が降りそうですね。

納谷 はっ? ああ、(あらためて窓外を見て) 冬、か。そうか。冬……。

山田 (電話に) はあ、すみません。ええ、元氣になって、はい、来月位からは仕事に……それで例の絞り型ですが、仕上げが気になって、はっ? もう終わった!? 新しいマシーンで二日間、ほんとですか?

——美樹が見舞い用の紙袋をもってくる。

美樹 やっぱりここだった。

納谷 ……。

美樹 静か、ね。

納谷 みんな部屋で、くつろいでいる時間だ

から。

美樹 そうか。

山田 ……はあ、では失礼します。(切る)

美樹 (明かるく) コンニチワ。

山田 はあ、どうも(去りかけて、氣をとり直し) 雪が降りそうだねって声かけたら、この人「はっ、今は冬、冬か」だって。でも、それってわかるよ。病室にいと、季節がわからなくなっちゃうんだ。わしらもね、工場で金物なぶるでしよ。触ったときの冷たさで、ああ、もう冬かってね。一度北海道へ納めた金型修理に行つたときなんか、うっかり触つたら指先がくっついちゃまって離れない、びっくりして、ムリやり引張つたら、金型の表面に指紋が残っちゃまって……はっは、嘘みたいな話、ははは……。ねえ、二日間、二日間ですよ。

美樹 指紋が?

山田 ちがう、わしらのやつてた十日必要な仕上げがたつたの二日間できると思っていますか。

——山田は行こうとして、つるつと滑る。

ようなら。

美樹 じゃ。(一度振り返るが、思い切つて去る)

——夕食を告げる放送。

——納谷はタバコを出すか、やめる。

納谷 (つぶやく) 再見(サイジエン)、
アフピーダーゼイエン、オールヴオ
ワール……美樹。

——納谷は、ラジオをONする。
音楽が流れる。
夕闇が迫る窓外に、雪がチラつき始める。

五

——学がセールスをして歩く姿

学 ごめん下さい。どうも突然失礼します。あの、私、(名刺を出しつつ) こういう者で、ネチヨラルから電化製品のクリーニングのお勧めにあげりました。奥様、洗たく機の桶の中が汚れていませんか? エアコンのフィルターは、半年に一度の掃除をしませんと、電気代が三割もアップします。それらをプロの腕でしっかり

山田 大体ね。この病院、みがきすぎる。(去る)

美樹 (笑って) おかしい、あの無口な人が。

納谷 ……なかなか退院できなくてね……金もかかるし……皆イライラしてるんだ。

美樹 あなたは、もうすぐでしょ。

納谷 検査検査の毎日。

美樹 退院前に慎重を期しているのよ。(荷をほどきつつ) はい、果物と本、そして、これが、岐阜公演のチラシ、今日はオルグで先乗りなの。

納谷 ……で、どうだった。ぼくの代役。

美樹 久保さんなりにがんばったけど、や

っぱりあなたのように味が出なくて

納谷 ……ともかく、無事終わったんだ。

美樹 ええ。

納谷 オイ、八つあん、塀をつくつたかい。へい、おい、まあそこへ座んな。い、いかい、人は一本のロウソクをもらい、その火を一生懸命に燃やしながら生きています。ただいま特別キャンペーンといたしまして、なんと二割引の消費税もカット、どうでしょう。この機会に利用していただかせませんか。うか。(赤子の泣き声) はあ、どうもおじやましました。ごめん下さいませ。

——学は深いため息をついて、トポトポ歩いていく。

六

——平日の朝の病室、皆そろっている。

石川が手術へ向かう準備をしている。

無言の間。

大志 あの、再手術ということば、まだまだ見込みがあるという証拠ですよ、ね。(石川の視線にあい) ぼ、ぼくの一人言です。ええ、大学受験なんか、もうやめよかな、なんて思ったり、でも受けられるうちは華か、なあと考え直したり……。

山田 行けるうちは…いけばいい。

大志 は、はい。

山田 俺たちのガキのころは…中学出るのがやっとだった。

大志 すみません。

山田 君が謝ることアない、そういう時代だったんだから。

大志 はあ。

—そこへはなが急いで入ってくる。

はな 先生、すみません、こんな時に。

石川 ああ、これ。(手紙を渡す)

はな ありがとうございます。この手紙読めば、息子もきつと金髪送ってよこします。

納谷 督促状を書いてもらったの？

はな そう。うちの息子はやさしいんだけどね。嫁がケチなの。子どもが進学するとかなんとか言って、毎月のものも送ってこないんだよ。だからね、先生に名文書いてもらったの。これでね、先生、思い残すことなく手術室に向かつてちょうだい。(時計を見て) あっ、ワイドショウウの時間、あのサッチーもなかなかのなんだねえ。(走り去る)

納谷 いやあ、女性はたくましい。

石川 今年の桜、早いでしような。

納谷 咲いたら、あの庭で、花見をやりませうか。

大志 京子さんもそう言っていました。やさしく、「三〇二号室のみんなでお花見しましよ」いいなあ。

納谷 そのときは、私も落語を一席やりませうか。

石川 ありがとうございます。もし、もし私が戻ってこれたら、その時は—

納谷 戻るんです、必ず。

石川 …大正十四年でしたが、宮澤賢治は教え子に手紙を出してね、「私は中ぶらりの教師なんかやめて本当の百姓になる。そして小さな農民劇団を創りたい」って。賢治には、やりたいことがいっぱいあったんだ、物々交換、勉強会、花づくりに幻灯会、レコードコンサート…なのに、こっちは生徒に教えること一つできない、通じない…生きる価値が見出せないんです。何をやりたいのかさえつかめない…

山田 …つかむために、生きてるのじゃありませんか…生きてあること、すべてよ

し。…そう、思いませんか…

—大志は石川を応援する思いでハモニカを吹く、そこへみどりが入ってくる。

石川 みどり。

みどり 今からかよ。

石川 学校行ったか。

みどり ふつ、香代の顔をたてて一日だけ行ってやったよ。ああ、眠い、ちよつとだけ、ね。(石川のベッドにもぐり込む)

山田 おい。

石川 少しだけ、休ませてやって下さい。

ダメ教師のふとんの中で、やすらぐときがあるのでしょうか。

納谷 その子のためにも、もう一度ここで国語の授業を—

—京子が迎えにくる。

京子 石川さん、行きますよ。

石川 は、はい。じゃ。

大志 がんばって。

石川 ああ、じゃ、また。(去る)

大志 京子さん!

京子 (戻って) 何?

大志 大したことじゃないけど…昨夜はよく眠れた。

京子 よかった。

大志 食欲も出てきたし—

京子 そう、元気、元気ね。(去る)

大志 ぼく、この病院でいろんなことを学びました。今までの受験一辺倒の生活から、見方が変わったような気がするんです。

納谷 ふふ! そりゃいいが、あつさり変わったものは、またすぐひっくり返ることもあるからね。

大志 わかっています。自分の甘さも浅薄なところも、でも、何だか勉強するということ、すこく幅広く奥深いことだという—

みどり (むくつと顔を出して) ちよつと、静かにしてよ。

大志 ごめん。

山田 (みどりに) おまえなあ。

みどり みどり。ああ、男はこりこり、おやすみ。(再びベッドにもぐり込む)

—そこへ山田洋子と真理がくる。

真理 お早うございます。

洋子 おじやします。

山田 お、二人そろって。

洋子 行く前にちよつと。

山田 うん!

真理 やっぱり父さん、忘れてる。

洋子 お仲人さんのところへご挨拶に。

山田 おおう、そうだった。

洋子 式は予定通りですからね。

山田 あ、ああ、五月にや俺も退院できてるし、万一のときは—

真理 お父さん!

山田 なに? ああ、万一つてえのは、まだ入院中だったら、抜け出してでも行くから、何しろ課長にも主賓あいさつを頼んでるし—(洋子と真理が顔を見合わせるので) なんだい?

洋子 ええ。

山田 言えよ。

真理 まだ内密らしいけど、転勤されるんですって。(洋子に) ね。

山田 なに?

洋子 昨夜こあいさつにみえて。

山田 …こっちゃんには何も…そうだったのか。

洋子 申し訳ない。よろしくって。(落着

かなくて) じゃぼつぼつ—

山田 他には何も言ってなかったのか。

洋子 …

真理 (小声で) 母さん、話した方が。

洋子 だって—

山田 隠すことあないだろう。

洋子 (ハンドバッグから書類を出して) この書類を持ってみえて—(山田は急いで手にする) 職場の都合で、四月から他の人が作業長になるんですって。もちろん、あなたが復帰したら、また元に戻すって言われたわ。(真理に) ねえ。

真理 そ、そう。

山田 …

真理 父さん、責任感強すぎるから、いったん作業長おられた方が気が楽になつていいわよ。まずは健康第一。

山田 俺はまだ仕事ができる。

洋子 そりゃもちろんよ。

山田 俺は生きてるんだ。仕上げ作業のママが俺を、俺のこの腕を待ってるんだ!

洋子 だから、その日のためにも—

山田 このパソコンには、三十年以上のノウハウがつまってるんだ…それをパソコン

ンも返却せよと——

大志 ……あの、それ、フロッピーにおとし

て——

洋子 真理。
真理 私、お父さんの娘であることに、ず

納谷 ……ちよつと。(大志に) 君も。

つと感謝してる。(山田の手をとる)

大志 はい。(二人出ていく)

山田 ……。

山田 おい、式、三月にできないか。

洋子 そうよ、お酒が蒸発して、酔になっ

洋子 何言ひ出すの。

ちやつたわ。

山田 式場、あいてないか。

山田 バカ。

真理 無理よ。

洋子 バカはあなた。

山田 公民館でもなんでもいいや。

山田 バカヤロウ。

洋子 ムチャ言わないで。第一先方にどう

洋子 バカヤロウ!

説明するのよ。

山田 バ、バカ…。(トイレ用のロール紙を

山田 そんなのーうん、お腹に赤ちやんで

クルクルひっぱって鼻をかむ)

きたとか何とか——

洋子 ちよつと。(山田と同様ひっぱって、

真理 お父さん!

真理 行こ。

洋子 あなた!

山田 ……真理、お前…お腹に赤ちやんいな

(同時に)

山田 見せてやりたいんだ。新婦の父ちや

いだろうな。

んは元氣です。尾張金型製作所の作業長

真理 ふふ…残念でした。

です。ますますがんばつてます……そう紹

山田 (枕元からお金の入った封筒を出し

介してもらいたいんだよ。

て) これ、使え。

洋子 ……。

洋子 なに?

真理 お父さん…病氣でも、作業長でなく

山田 労金から、借りた。

なつても、私のお父さんに変わりはない。

洋子 (封を見て) あなた…。

んだ!

——山田は心を残しつつ自分のベッドに戻

る。

——救急車の到着音。

大志 (手にしていたみかんをみどりに渡

して) もらいもの。ふふ…。手術する

前はさあ、こういう食べ物、気が向かな

けりや腐るまで放つといたけど…。手術

終わつたあとのうまかつたこと。うまく

言えないけど、色々なもののおかげで生

きているんだ、そう思った。おおげさか

も知れないけれど…。この広い宇宙で人

間が生きていくってこと、もしかしたら

奇跡的なこともあって…。ふふ…。そ

んなこと考えてたらなぜか涙が出てくる

…。おかしいな、病院で、傷んだ体

と心が妙に動く…。

みどり ……。

大志 (みどりにやさしく) もう、帰った

方がいい。…先生、きつと喜んでいる

よ。

みどり ……うん、東北の手術が終わつたら、

大志 石川さん、ダメ先生どころか、いい

先生なんだ。

みどり ……私のために、泣いてくれた初め

ての先公だよ。泣きながら、宮沢賢治の

話を読んで…ふふ、名前負けしちゃった

んだ、石川啄木と宮澤賢治くつつけた石

川賢治なんて名前背負つて、他の先公が

校長やPTAの顔色ばかりみて、受験の

ことしか言わないのに、あいつは詩人の

ことばつかしやべつてるから…。

大志 それで「東北」か。

みどり おまけに、奥さんに男ができて逃

げられちゃつて…私、よくわからないけ

ど、ああいう人が、みんなにバカにされ

るのがメチャ腹立つ…といつもこいつ

も、生徒の気持なんかわかるうとしない

先公や大人が、えらそうにしてるのが、

許せない。

大志 ……そう、か。

みどり ……寒いよ、何も、かも。

大志 ……うん。(ハモニカを手にもつ)

山田 (ボツンと) わるかたな。

みどり 石川…助かるよ、ね。

山田 大丈夫。ここで、国語の授業をやる

んだから。

山田 なあに、退院したら、またモリモリ

働いて返すから、どうってことない。

洋子 ありがと、助かるわ。

真理 またくるね。

山田 ああ、皆さんによろしくな。

洋子 じゃ、ね。(二人去る)

——入れかわりに入つてきた大志が見送

る。山田はいきなり、みどりのかぶつてい

るふとんをはぎとる。

みどり 何すんの、スケベエ!

山田 起きろ!

みどり 寒い!(ふとんをとり返そうとす

る)

山田 勉強イヤなら働け! ガキが昼間つ

から寝てるんじゃない!

みどり 勝手だろ。

山田 時間がないんだぞ。

みどり 時間なんか、ありあまるほどある

よ、つまらなくつて、くだらなくつて、

持てあましてるんだ。

山田 (みどりの頬を叩いて) だったら、

そのあまつてる時間を、俺によこせ!

俺にはやりたいことがいっぱい待ってる

みどり うん…そのときは、きつと受けに

くる。

——みどりは手を出して、大志からハモニ

カを受けとつて吹く。大志と山田は、そん

なみどりを見守っている。

七

——「六」の続きで、墓前を歩いて行く途

中の洋子と真理、洋子が立ち止まる。

真理 母さん。

洋子 あその団子、うまそうだね。

真理 ほんと。

洋子 食べて行こ。

真理 ふふ…。

洋子 歩きながら。

真理 どうしたの、立ち喰いなんかダメと

いつてるくせに。

洋子 父さんも母さんも、ちゃんとやつて

きた。なのに、私もパートの手当て減ら

されるし…。何だか、とつても腹が立つ

のよ。

真理 ……。

洋子 理不尽。とつても、とつても、とつ

ても。だから、ダンゴ三兄弟を食べな

ら、この大通りを闊歩したいの！
真理 ……いいわ、食べながら歩きましょう。

—二人は腕を組んで去る。
病室は暗い。看護婦の懐中電灯が交錯する。
あちこちから、ざわめきが波のようにさざめく。

○背中が…。

○一週間たつても、食欲が出ないんだよ。

○かゆい…そう、もうちよい右…うんそこそこ…。

○たんが出てたまんないよ。

○いつ退院できるんですか？

○頼む、もうちよつとの間、入院させてちょうだい。

○ああ、焼肉がたらふく喰いてえ。

○もうすぐ春だねえ。

○そう、冬が長いなあ。

○あつという間に夏さ。

○ついでこの間まで秋だと思つたら—
全員、もうすぐ春だねえ。

—やがて訪れる静寂。

寢息がきこえる。休憩室あたりを、こつそ

り歩いている学が見え隠れする。

やがて、納谷の夢を暗示する音楽。

美樹が閻魔大王として浮かびあがる。

納谷 (夢の中で) あおう、レチら様—

大王 コロコロリンリン！

納谷 えんまこおろぎ。

大王 ブー。余は地獄の主、閻魔大王なるぞ。

納谷 閻魔大王様！ どこかでお会いしたような—

大王 地獄に落ち込んだお前たちの生前の行状を裁き、刑を確定する。

納谷 ぼ、ぼくは何も悪いことはしておりません。

大王 と、誰もが言う。この間の田中角栄

しかり、ムッソリーニしかり、ヒットラーしかり。

納谷 歴史的なんですね。

大王 さてさて、お前は！

納谷 納谷次郎と申します。

大王 ふむふむ。罪状を申し述べる。「好き合った女子がおりながら、その思いに

応えずして、己のカラに閉じ込めり、男子の責任を果たさぬ生煮え野郎」か。肉

のレアはおいしいが…。

納谷 ニンクとしようがをつけて—

大王 一口にパクリ、生ビールをグイッ！

という俗世界の誘惑はさておき、この罪状に相違いないな。

納谷 思いを果たすため、欲望のおもむくままに迫るのが、果たして罪なき道と申すのでしょうか。

大王 ふむふむ、で？

納谷 むこうは、これからぐんぐん伸びていく女優です。先の短いぼくなんかとく

つついていたら、結果彼女の足を引っ張るだけです。

大王 努力せぬ自分を合理化しておるな。

納谷 才能がないのです。

大王 才能も努力の結果じゃ。おまえは単に自分が傷つくことを恐れる小心者なり。

納谷 ちがいます、美樹のことを思えばこそ—

大王 恋は役者の肥しじや、それを生殺しのようにして、美樹なる女子を苦しめる。

パッカスカの神もカンカンに怒っておるわ。

納谷 パッカスカ。

大王 パッカスカ、か。ところでおまえはインボカ。

納谷 どうしてそう飛躍するんですか。

大王 こたえろ！

納谷 そりや、そういう気味もあります、なんとかなりません。なんとか—

大王 ならば、お互いの気持に正直になれ！

納谷 はあ…でも、もうぼくは地獄の入口に來ていますし—

大王 (衣裳やかぶりものを取りつつ) 美樹なる女子は、こういう姿形をしておるか。

納谷 み、美樹。

大王 (急変して) 次郎さん！

納谷 ずつと、ずつと、好きでした。一目会ったその日から…恋のとりこになりました。

美樹となつて 「次郎さん、私も！」

納谷 美樹！

—二人は抱き合つて闇に沈む。

音楽。やがて、学が一人言をつぶやきつつ病室へしのび込んでくる。

学 ……仕事仕事で追われ続けたのに…もつ

と自分の生きがい見つけろだと…筆句は町内会長や民生委員をつとめてないような社員は、早く第二の人生を見つけれ…大体、私は設計者だ。新商品開発のため、徹夜もやつた…それをボロのように…。

—学はすべて転び、音が響き渡る。

納谷 (夢から覚めて) しまった！

山田 どうした!?

大志 どうぼうですか、もしもし—

学 はいはい。

山田 (学の影に) 動くな！ 電気。

大志 はい。

—大志が電気をつける。

そこに、学を見つけ、「あつ！」「お父さん、

続いてパンツを脱ぎかけた納谷を見つけ

「あつ！」

学 わ、わたしは—

納谷 ぼ、ぼくは—

学 すべつて、ころんでいます。

納谷 パンツをはきかえています。

山田 へえ。

大志 (学に) どうしたの!?

学 その…なんだ…この近くでおそくまでクリーニングのサービスをして…なんだか…うん、家に帰りたいなくなつて…つい、この病院へ、たどりついて、しまった。

大志 大丈夫？

山田 (納谷に) パンツ、かえたらどうだ。

納谷 そ、そうします。

—納谷は、こつそりパンツをかえる。

大志は学をベッドに腰かけさせ、山田はポットの湯でお茶を入れる。

学 すみません、お騒がせして。

大志 ぼく、来週くらいには、退院だからね。

学 よかったな、よかった。

山田 番茶ですが—

学 ありがとうございます。

大志 すみません。

山田 役者さん、ここへ置いとくよ。

納谷 はい、どうも。

学 (二口飲んで) ふう…今夜は星がきれいだ。(天空に見入る)

大志 父さん！

学 うん？

大志 ……幸せだった？ 今まで。

学 ……ふふ…母さん、昔はそりや輝いてた。三重の山奥から出てきたわたしには、手の届かないお姫さまみたいなものだった。

大志 でも、父さんを選んだ。

学 ……母さん、何にも言わないがな…大好きな人に裏切られて…絶望して…一番無難なわたしを選んだのさ。ふふ…もう時効の昔話。大志。

大志 うん？

学 退院したら、釣りに行くか。

大志 うん、行く。

学 今ごろは、星も一番きれいだ、あのうさぎ座なんか、くつきり見える。

大志 (同じく眺めて) ふふ、うさぎ座、やっぱり狩人オリオンの大犬に追いかけてる。

山田 弱いうさぎだがな…ためな動物じゃない。大きな耳はまわりの音を聞き分け、横についてる目は、ぐるりを見渡す。知ってるかな、野ウサギは年に三回も五回も子ども生む。

大志 ほんとう？

学 そうだ。生まれた子どもは隠してしまい、親と一緒に住まない。夜、お乳を飲ませに、隠れ場所へやってくると。大志 賢いんだ。

学 入試には出ない話だろうが…うさぎも七日なふればかみつく。

大志 ふうん…うさぎが…

山田 七日なふれば、かみつく、か。

納谷 (ある決意をして) ぼく、出かけます。

大志 こんな時間に、どこへ？

納谷 閻魔大王！

山田 えんまだいおう？

納谷 いえ、岐阜へ、彼女、舞台上に立ってるんだ。

大志 電車、まだ走ってませんよ。

山田 歩いていけばいい。

学 そうですよね、始発に乗れる駅まで。納谷 ええ。

——納谷はジャンパーを着て、気負い込み行きかけるが、ドアのところで立ち止まる。

山田 行け！

納谷 ……

山田 おれたちはうさぎだ、行ってくれ！

大志 納谷さん！

納谷 ……明日、再検査だった！

——立ち尽くす納谷。

星が切なく輝いて、音楽。

八

——舞台上に、美樹が「ワーニヤ伯父さん」のソーニヤの衣裳で浮かびあがる。

美樹 (ソーニヤとして) 「…運命がわたしたちにくだす試みを、辛抱よく、じつとこらえて行きましようね。今のうち

も、やがて年をとってから、片時も休まずに、人のために働きましょうね。そして、やがてその時が来たら、素直に死んでいきましようね。あの世へ行ったら、どんなに私たちが苦しかったか、どんなに涙を流したか、どんなにつらい一生を送って来たか、それを残らず申し上げましようね。すると神様は、まあ気の毒に、思ってください。その時こそ伯父さん、ねえ伯父さん、あなたにも私にも、明る

い、すばらしい、なんとも言えない生活

がひらけて、まあ嬉しい！と思わず声をあげるのよ。そして現在の不仕合せな暮らしを、なつかしく、ほほえましく振り返って、私たち——ほっと息がつけるんだわ。わたし、ほんとにそう思うの、伯父さん。しん底から、燃えるように、焼けつくように、私そう思うの…」(神西清訳より)

——拍手の中で消える。

明かるくなると、平日午前中の病室。

石川はもどっており、納谷は不在。

医者刀根の回診、看護婦の千恵が付いて、指示により処理してまわる。

山田 三月末には退院できるんでしようね。

刀根 今のところは、何とも。

山田 いつはつきりします？

刀根 検査結果が今週中に出るからその時点ですね。

山田 検査検査検査——うんざりだよ。

千恵 山田さん。

山田 わからなきや強い抗ガン剤でも何で

も射ってくれ。

刀根 山田さん。御存知でしょ、この間も他の病院で必要のない抗ガン剤を連続使用して不幸を招いたことを。

山田 いいよ、六千七百万円もらえれば——

刀根 病気の治療は、医師と患者さんと二人三脚でなし遂げるものです。わかっ

て下さい。

山田 四月にはどうしても出なきやならならんだよ。

——千恵が小声で刀根に説明する。

刀根 私たちも全力を尽くしますから。

千恵 (山田のふとんととのえつつ) 元

気出して。

山田 ……(しばらくして電卓を使い書き込んでいく)

刀根 (石川に) どうですか。

石川 ……

千恵 石川さん。

石川 はかばかしく、ありません。

刀根 傷口を。

——千恵が手伝って傷口をみせる。

刀根 (見て、専門用語で手当を指示する)

千恵 はい。(処置をする)

刀根 夜は眠れますか？

石川 痛くて、息をするのも…

刀根 少し痛み止めを調合しましょう。

みどり ちよいと、あなた。

刀根 はっ？

みどり この病院大丈夫？

千恵 何言うの？

みどり この隣りがお寺だろ、手当おろそかにして、お寺とグルになってもうけるつもりじゃないだろうな。

刀根 面白い子だね。娘さん？

石川 ええ、まあ——

みどり 大体ねえ、臓器移植もやる時代に

どうしてガンくらいすぐ直せないんだよ。

刀根 口惜しいが——

みどり 口惜しいよ。

刀根 口惜しい。(お経のように) くやし

い、くやし…(と唱えつつ大志のこ

ろへ行く) くやし!

みどり やっぱり、もど坊主だ。

千恵 みどりちゃん。(手当を終え) お大事に。

みどり お茶入れるね。(かいがいしくお茶を用意する)

刀根 (大志に) ほう、顔色もよくなってきた、来週には退院できそうだね。

千恵 よかったわね。

大志 ぼく…何だか…退院したくない。

千恵 大志くん。

刀根 病院は船のドックみたいなものでね。ひと休みしたら、また船出していくさ。君は若い、せいぜいこれからの人生、大切にしないさい。(行く)

大志 (千恵に) 京子さんは？

千恵 夜勤明け。

大志 伝えてくれない、ぼく！

千恵 手紙でも書きなさい。

——この間にみどりが外の刀根に近づく。

みどり どういう手があるのか、教えてよ。

刀根 今のまま、抗ガン剤を投与するか。みどり 直るの？

刀根 本人には伝えてあるがね。前立腺ガ

ンが肺に転移している。呼吸困難はだんだんひどくなるので気管切開でのり切る

から…ゆつくり眠って。

山田 君…。

大志 …よだかの星か…石川さんの姿と

づるなあ。

——由利が訪れる。

由利 聞いてきたよ、いよいよ退院だね。

大志 …。

由利 いいこと、胃の半分ぐらいとったつ

てね、人間の体はすぐ回復するんだから

はい、これはビタミンCいっぱいのはトマ

ト、それからオレンジ、それと——

大志 わかった、あとで——

由利 こんな大切な時期に、父さん、急に九州へ転勤することになったんだよ。

大志 九州へ。

由利 新規客先開拓だって。

大志 そう、父さんが。

由利 (この間の千恵よろしく気合) ター

ツ、いいこと、ますますはつきりとして

きたことは、何が何でも一流大学一流企

業に入り、見返してやるのよ。

みどり それやると薬になるの。

刀根 (頷いて) 口や鼻と肺を結ぶのだからね。

みどり じゃいつか手術をしてくれるんだ。

刀根 石川さんは迷っている。切開場所が咽喉の部位に当たるので、もう話すことができなくなるから。

みどり ということは…授業も、できない。

刀根 (頷く) では。(去る)

——みどりは携帯電話をかける。

千恵 ちよつと、携帯使うの、禁止よ。

みどり あつ、香代、病院こいよ、いいな。

千恵 ダメ。

みどり フン、医者だつて使ってるじゃん。

千恵 あれは緊急連絡用のPHS。そっちの端末出力は数百ミリワットだけど、PHSは十ミリワットで医療機器に影響しないの、わかった？

みどり なんかムカつくなあ。

千恵 カルシウム不足。顔色もよくないわよ。一度外来でおいでなさい。(去る)

みどり くるか、こんなヤブ医者。(部屋

大志 母さん、誰を見返すの…昔、母さん

を裏切ったエリート？

由利 …ターツ。過去はふり返らず、いい

ね。一日も早く経営トップにはい上がる

の。

大志 ちがう。

由利 ちがいません。それがこの大不況の

日本での幸せにつながる道、いいところ

に立ってれば、いいところのお嫁さん

もくるし、勝利者になれるのよ。

大志 ちがうちがう。一流とか世間体の幸

せとかじゃなくて、何か、何か、燃える

ものがほしいんだよ。(途中で書いた

手紙を破る) 燃えるものが——

由利 だめよ、紙なんか燃やしちや。

大志 ああ！(泣く)

由利 泣かなくていいわよ。母さんいつ

だって大志の味方だから、もう父さんな

んかアテにせず、二人でがんばっていい

うね。

みどり (石川の傍にある賢治の本を手に

して読む) …よだかは、どこまでも、

どこまでも、まっすぐに空へのぼって行

きました。もう山焼けの火はたばこの吸

殻くらいにしか見えません。やがてよだ

(にもどり) 先生、もうすぐ桜の花が咲く

よ。うちの裏にさ、片栗の花も咲いた。

今度来るとき持ってくるよ。

石川 窓を開けてくれるか。

みどり 寒いよ。

石川 ちよつとだけ。

みどり …うん、(少し開けて) 先生、手

術しよ。

石川 (風を吸ってつぶやく) ススキの高

原をわたる風に賢治がいる。松の林にの

ぼる朝霧に賢治がいる。稲穂をぬらす雨

に賢治がいる。

みどり 先生…。

石川 「お日さん、お日さん。どうぞ私を

あなたの所へ連れてって下さい。灼けて

死んでもかまいません。私のようなみに

くいからだでも灼けるとときには小さな光

を出すでしょう。どうか私を連れてって

ください。」

みどり (窓を閉めて) もう休んだ方がい

い。

大志 賢治は親から進学は許されず、チフ

スで失意の入院をしたとき、京子さん、

じゃない、看護婦さんへの片思いが心の

支えだったんですよね。

かは、最期のひと息でまなこを開きまし

た。そして自分のからだだが、今、燐の火

のような青い美しい光になって、しずか

に燃えているのを見ました。すぐとなり

は、カシオピア座でした。天の川の青白

い光りが、すぐうしろになっていました。

そして、よだかの星は燃え続けました…。

——みどりはそのまま、舞台後上方のひと

隅(病院の庭)へ行く。やがて香代が駆け

つける。並行して、ベッドの上で(生徒へ

の)色紙を描いている石川に明かり。

みどり だから、あの病院の会議室借りて、

東北の授業をやるうよ、そこへ、出て行

った奥さんを何とか呼んでさ。

香代 みどり——

みどり そのためには、どうしても学級委

員の香代に動いてほしい。

香代 ムリよ。今、みんな卒業式と高校受

験間近で必死なんだもの。

みどり それとこれとは別だろ。

香代 …最初は私もそう思ってた。でも代

行の担任に言われた。「リタイアした先

生にいつまでも関わり合って、クラスの

みんなを混乱させないように」って。
みどり 先公は何と言おうと、クラスのみ
んなは、香代の言うことなら聞くだろう。

香代 (首を寂しく振って)「あんたはいいよ。推薦入学が決まってるから」って。もうそれ以上話せなかった。

みどり くそっ！
香代 奥さんも戻ってこないわ、新しい人とどこかで生活始めてるっていうもの。

みどり ……だったら、東北があんまり可哀想だ。もう先が長くないと思つて、一人ひとりに卒業祝いの色紙まで書いてるの……。

香代 ……仕方ない……。

みどり 香代自身はどう思うんだ!?

香代 辛いけど……私もそう思う。みどりも学校へ出て、無事卒業した方がいい。

みどり あ——!

香代 ……

みどり 帰れ!

香代 みどり!

みどり 帰れ! 帰れ! 帰つて、精いっぱい

いい子を演れ!

香代 ……ひどい。(走り去る)

……長い間。
鳥の啼き声。

みどり (鳥に石を投げて)バカヤロー、バカヤロー、よだかの星なんか、燃え続けちゃいけない! (立ち尽くす)

——色紙を苦しみつつ描き続ける石川

九

——休憩室、朝。

(この場と並行して、病室では静かな空間が流れていく。真理のウェディングドレス姿を見えつ隠れつする形で見せていってもよい)

美樹と納谷が腕相撲をしている。

美樹 (負けて) やつぱり強い。じゃ左。

(今度はあつさり、納谷が負けるので)

ダメ、力抜いちや。

納谷 おあいこ、さ。

美樹 意地悪。さあ温泉玉子食べて。熱湯

の中へ入れて十五分。美樹特製のものなの。はい、これお塩。

納谷 (一口食べて) もう、二十分経った。

美樹 ううん、あと十分。(窓へ行つて)

ホラ、みんなバスからこつち見ている。

納谷 もういいよ。

美樹 一言もいってくれないのね、感想

納谷 よかったよ。

美樹 気持がこもってない。

納谷 ソーニヤの初々しさがよく出ていた。ひたむきで。

美樹 (嬉しく) ほんと。

納谷 このまま、力をつけていけば、確かな女優になるよ。

美樹 ……ありがとう。ね、この本の……。(読む)「医学的にガン再発のメカニズムは完全に解明されてはいないが、前向きに生きようという意欲が強いと——(納谷が本を閉じようとするので、それを拒んで)脳の前頭葉からある種の刺激が出て、全身のリンパ球が活性化される」ね、リンパ球というのは病気に対する抵抗力の中心で、それが積極的にガン細胞を攻撃するという理論が、世界的に有名な医学誌にも発表されているのよね。

納谷 (ポケットから宝くじを出して) ふふ……外れ。
美樹 宝くじ?!

納谷 小さいときからね、期待したことは

みんな外れ。(破りつつ)「ガンを克服する本」「ガンは絶対直る」「私はこうしてガンに勝つた」……みんな読んだ。猿のこしかけもこっそり試した。小便を飲むのもいいそうだ……もううんざり……(力なくうんざり)。

美樹 ペシミックになつちやだめ。ね、東京へ行きましょ。東京の病院なら、私もついてあげられる。ううん、芝居なんか離れてもいい。

納谷 二人とも沈没しちゃつてどうなる。

美樹 でも——

納谷 ありがとう。大丈夫だ。抗ガン剤治療しながら、結婚式の司会などで食いつないでいくよ。こうみえても、ソフトな司会だつて評判いいんだ。(立つて)新郎新婦を……紹介します。

美樹 新郎は納谷次郎、将来を嘱望されている役者です。(腕を組んで)新婦は、花も盛りの女優、杉野美樹です。

納谷 お、おい。よせよ。(人の気配を感じさせて)どうも。いい年してふざけまして、どうぞ、タバコを、あつ、すみません。

美樹 ごめんなさい。ふふ……びっくりして行っちゃった。

納谷 (時計をみて) さあ。

美樹 (部屋のカギを出して) 私の部屋の鍵。待ってる。(ムリヤリ納谷の手に握らせて) 生きて——

納谷 ……

美樹 ……

美樹 一緒に舞台へ、ね。(見つめる)

納谷 (かすかに頷く)

——バスのクラクションが聞こえる。

美樹 (窓から下方へ大声で) 今、行くわ。ね、みんな手を振ってる。(納谷は動かない) 再見(サイジュン)……

納谷 (頷いて、美樹を見つめる)

——美樹は思い切つて去る。

納谷は放心しているが、美樹の残していった本(「ワーニヤ伯父さん」)の開けたところを手にする。

納谷 (ポツリポツリと、ワーニヤのセリフを読む)「……わかるかい、せめてこの余生を、何か今までと違つたやり口で、

送れたらなあ。きれいに晴れわたつた、

しんとした朝、目がさめて、さあこれから新規開直しだ、過ぎたことは一切忘れた、煙みたくに消えてしまった、と思うことができたらなあ……(咳込む)

——バスのクラクション。

納谷はためらっているが、思い切つて、窓へかけよる。そして、かすかに手を振る。バスの走っていく音。物影から大志が姿を現す。

大志 いいなあ……ごめんなさい。少しのぞき見しちゃった。

納谷 ……今日退院の君が、一番いいのさ。

大志 部屋であいさつしようと思つたら、

山田さん入院延期でしょ。ちよつと辛く

つて。

納谷 そう……

大志 ねえねえ、娘さんが花嫁衣裳を病室で見せるんだつて。

納谷 へえ、花嫁衣裳か。

大志 それも、お母さんのつくつたドレス……ああいう家族うらやましいな、うちなんかいつも金と出世と世間体ばかりでう

んざり。

納谷 今の社会では、ね。やむを得ない風景さ。

大志 でも、その風景を、少しは変えていくつもり。

納谷 ふふ…成長した。

大志 おかげ様で。なんだか大人びた言い方。

納谷 もう大人さ。

大志 ほんと、お世話になりました。

納谷 いやいや、ぼくの方こそ、君のハモニカに慰められた。

大志 ふふ…。

納谷 ははは…。

—京子が通りかかる。

京子 納谷さん、駄目でしょ。部屋で横になつてなきや。

納谷 はいはい。では山田さんに声をかけてくるか。(温泉玉子や本を持ってゆつくりと去る)

大志 (京子に) 手紙、読んでくれた?

京子 ありがとう。

大志 うん。(次の言葉を待つ)

京子 元気で。

大志 —えっ、それだけ?

京子 ふふ…病院生活してるとね。看護婦が天使のように見えるときがあるの、こんなくたびれ果てているのにね。

大志 ううん、ううん。(首を激しく振る)

京子 でも退院すると、たちまち忘れて新しい毎日に向かっていくわ、誰も彼も。

大志 ぼくはそんな軽薄じゃない。

京子 軽薄とかでなく…それはみんな健康な証拠。この限られた狭い空間から大空へ翔び立つのよ。それでいいの、それで。

大志 嫌だ。

京子 また、そんなこと言っていると、大学落ちるぞ。

大志 落ちてもいい。

京子 (頭ヘコツンとくらわすなどして) 大学入って、成長して、いつか桜の下で同窓会やるの。そしてわかつていくわ、あなたにも私にも、月日と人生の重さが。

大志 月日の重さ、か。うん、部屋のみんなの人生みてるよ—

京子 ね、じゃ一か月後の検査忘れないように。(去る)

大志 な、なんだよ、一か月後の検査なら。

洋子 だって本番前に一度—

山田 おれが駄目になって、式へ出れない

とも思ってるのか。

洋子 そんな、誰も思ってます。誰も。(涙ぐむ)

納谷 山田さん。

山田 (はなに) 少し、みがき過ぎじゃないの。

はな (ドキッとして) め、めでたいからね。

洋子 すみませんねえ。

—真理が(シンブルな)ウエディングドレスを着て姿を現わす。

大志 きれい!

真理 (山田に) 母さんを責めないで、私

がムリに頼んだの。父さんに、一目見て

もらい、元気を出して—

山田 おれは元気だ。

真理 母さんのつくってくれたドレス—

山田 ……(じんときて) ああ…いいよ。

納谷 ほんと、美しい。

か、なんだってんだよ…水金地火木土天

冥海。ああ、土海冥にもどったのか…

土海冥…。

—大志も病室に向かう。

三〇二号室に本明かり。

相変わらず横になっている石川、枕もとには書き終えた色紙が積んである。山田は検査へ向かう準備をしており、洋子が恵理の着替えを行ったり来たりしている。

—モップをかけにくるはな。はなは時折り作業着のポケットから封筒を出しては思案する。

山田 いいからパートへ行け。

洋子 いいんだもの。

山田 クビになるぞ。

洋子 組合の仲間がカバーしてくれてるの。

山田 組合、本気か。

洋子 そうよ。パートの労働組合。そう簡単には解雇されないわよ。

山田 バカ、世間様にたてつくようなマネ

しやがって。

洋子 世間様にたてつかず、ハイハイと言

ね。

山田 ……(頷く)

真理 ほんとよ。

山田 うん…元気になって、な。

—はなが封筒を山田に渡す。

はな これ…少しだけど、お祝いにとつ

いて。

山田 (意外で) いいですよ。

はな とつてもらわないと困るの。石川先生と約束したから。(一同が石川の方を見るので) そんな大げさなことじゃないんだよ。先生の手紙のおかげでさ、息子から金送ってきたから、まっ、罪ほろぼ

しに…何だよ、罪つたつて、みんな、それ、背負ってるんだろ、そんな深く考え

ないで、な。

洋子 どうもすみません。

はな (真理に) やさしいお嫁さんになつ

てな。

真理 はい。ありがとうございます。

はな あんたならきつとなれる、この世の中、やさしいのが一番。さ、もう話をツ

われる通りすこしてきたあなたに、いい

ことありました。

山田 理屈を言うな、大体そういう理屈を

女が—

洋子 今やこの腕で、我が家の家計を半分

支えてるんですから。

山田 全く、いいか、何事も引き際は肝心

だからな。

洋子 ひきません。

山田 頑固。

洋子 そうでないよ、あなたの女房はつと

まりません…これからは二人…ふたり

で残された人生、歩いていくんですから

ね。

山田 ……(洋子をあらためて見つめる)

洋子 ほれ直した?

山田 バ、バカ、シミがついてるのを—

洋子 シミも女の勲章。ふふ…。

山田 まったく…ははは…。

—納谷、続いて大志も入ってくる。

大志 わ、幸せそう。

納谷 山田さん、花嫁衣裳、楽しみですね。

山田 ばかが大げさなこと考えるもんだか

ルツとかえて、ツルツと。(と言つてツルンとすべる)ほんと、磨きすぎだつたね。ははは…(去る)

—大志がハモニカで結婚行進曲を吹く。石川が苦しげに何か言う。

納谷 (寄り添って聞き) うんうん、石川さんも、おめでとう、と。

洋子・真理 (同時に) ありがとうございませう。

山田 じゃ、着替えな。

真理 はい。(洋子とともに着替えへ)

大志 新婦お色直して退場でございませう。

続きまして、新郎尾崎大志も、退院でございませう。三〇二号室の皆様、これまでものご厚情に心より御礼申し上げます。

山田 おめでとう。

大志 ぼくだけお先にすみません。

山田 ふふ、若いもんから順番だ。

納谷 じゃ次はぼくだ。

—千恵が学と由利と共にくる。

由利 ほんとにありがとうございました。

千恵 いいえ、よかつたですね。山田さん、行きますよ。

山田 はい、では——石川さん、行ってきます。

—石川、領いて手をかすかに振る。

納谷 (見送り、咳込みつつ横になる)

—山田は大志の肩を叩き、入口に向かう。

山田 (学に) うさぎ——

学 うさぎ、ふふ…。

—山田は千恵と共に去る。

由利 さあ、荷物運びましょ。すぐ勉強できるよ、ね。

学 ちよつと——

由利 ちよつとちよつとといつてる間に、ほらこの荷物を——

学・大志 ちよつと！ (同時に)

—由利は荷物をもってひっくり返る。

十

—夜、病室を巡回する千恵。

千恵 ターッ。(周りを見回し) ああ、ゴキブリが登場しませんように。それから、なにと患者の皆さん、静かに寝ていませうに：私に手をのばしてきませんように：次は三〇二号室：(のぞいて) あら、静か、静かだ：(そつと様子をうかがい) 大丈夫ね。(離れて行きつつ) でも：ホツとするけど、あまり静かだと不安になる：もしかして、私だと声をかけにくいのかしら：私って、とても京子先輩のように、やさしくてきばきと対応できないもの：(休憩室の公衆電話にきて、ためらった後ダイヤルを回す) もしもし、英夫？ …ごめん、寝てた：うん：別に用事じゃないの：でも：なんだか、寂しい。：だつて：こうして、健康なのはとつてもいいんだけど：どういふのかな、毎日毎日普通に過ぎていくのが、不安：今度いつ会える？ …うん、きつとね：うん：おやすみ：(切つて、ふと窓外を見る)

—庭の外灯の明かりの中で、みどりが桜の木の枝に、手作りの花をつけている光景が浮かびあがる。

千恵 (驚いて窓から) ちよつと、危ないわよ——

みどり シッ。

千恵 何してるの？

みどり 見ての通り。

千恵 桜の花を？

みどり そう、咲かせてるの。

千恵 やめなさい。叱られるわよ。

みどり (かまわず) 三〇二号室から見えるだろ。

千恵 …石川さんに？

みどり 畜生、ヤブ医者め、もうすぐ桜が咲くついでに…。

千恵 私も行く。

みどり 来るなよ、叱られるぞ。

千恵 いい。いいもん。

—千恵は生き生きとして走り去る。やがて二人が桜の造花を増やしていく。音楽—やがて、鳥の啼き声と共に朝が訪れる。桜の花つけを続けるみどり。

学 まず大志は、私と釣りに出かける。

由利 何言ってるの、ねえ大志。

大志 釣りに行って、それから星を見るんだ。

学 うさぎ座。

大志 オリオン座。

由利 ちよつと、——

学 さ、運ぼう。

—学と大志は、皆に一礼して荷物を運ぶ。

由利 (あわてて) お世話になりました。

(外へ) ちよつと、ちよつと——(と去る)

—石川はやつとのことと起きあがり、色紙に向かう。

石川 …病のゆゑにも、くちんいのちなり、みのりに育てばうれしからまし…。

—静かなたたずまいの中で…。

音楽

千恵がそつと三〇二号室へ入ってきて、石川の耳元に桜の「開花」を伝える。石川は千恵に助けてもらいつつ半身を起こし。窓から桜を見る。

みどりのVサインが目映る。

石川はムリに立とうとして、千恵に止められる。そのやりとり、納谷と山田は目を覚ます。

山田 どうした!?

千恵 どうしても起きあがるって。

納谷 無理しない方がいい。(千恵の指さす桜を、納谷と山田も眺める)

千恵 石川さん——

石川 授業を…もう一度、伝えたいことが…どうしても…。

—一同は心配しつつ、支えて立ちあがらせる。石川の耳に、さわざわとした生徒の騒ぎが交錯する。

みどり (ためらう石川を見て) みんな聞け！ (さわめき消えていく)

石川 (あえぎつつ) 楽に聞いてほしい。

「大地の肥しとなって、この身を棄てた

い「これが宮澤賢治の絶筆です。詩人の最後の言葉です。それはあたかも「よだかの星」の終章を思い出させてくれます。「よだかの星は燃え続けました。いつまでもいつまでも燃えています。今でもまだ、燃え続けています」(体がよるめく) 納谷 もういいでしょう。みどりくんも満足してますよ。

千恵 そう、やすみましよう。

山田 ……続けてください。

山田 山田さん。

石川 一人ひとり、燃えてるんだ、ねえ。

(頷いて) 受験や進路に悩める諸君に伝えたい。みんな、それぞれの人生がある。可能性をもっている。ひとたび生を受けた以上、精いっぱい輝く権利と義務を有している。生命を燃やし続けて…よだかの星のように、明かるく、輝いてほしい。ありがとうございます。(倒れる)

一同 石川さん!

——納谷と山田は石川を助け起こして、ベッドへ横にさせる。

千恵 先生を呼んできます。(走り去る)

みどり 先生、桜の花が見えるか。(木を思い切り揺する) 花びらが舞っているのが見える? 先生、石川先生——

——朝日の中を、造花の桜の花びらが、まるで吹雪のように舞う中で、石川は眼をつむる。
音楽、高まる中で。

十一

——卒業式で、生徒の名前が次々と読みあげられる。

(その間に、三〇二号室は無人となる) やがて、「鈴木みどり」と読みあげられる。「はい」という声とともに、奥上方のみどりに明かり。セーラー服を着て、手には石川が描いた「色紙の束」を持っている。

みどり ……これは、石川先生が最後の力を注いで、みんなに描いてくれた色紙です。受け取ってください。…先生は亡くなる瞬間まで、私たちのことを気にして、別れの詩を読まれました。…「よだかの星は燃え続けました。いつまでもいつまでも燃え続けました。今でもまだ、燃え続けて

います…」(空を見上げて) 先生、私…卒業します…。

——遠くハモニカが流れる。

少し明かりの入った無人の三〇二号室を、はながゆつくりと掃除していく。

石川の寝ていたベッドには、桜の花が一枝飾られている。

——舞台、暗くなると共に、夜空に星が輝く。その中を「よだかの星」が、燃えながら上方へ昇っていく。

ハモニカが徐々に高まって——

(完)

上演についてのお問い合わせは左記へ。
〒457-0016
名古屋市中区汐田町11の8

栗木英章

全リ演西会議主催

かやぶき交流会に石倉村長も

まわりの山の緑とみごとに調和した「しいの実シアター」と、4月10日に開館されたばかりの「かやぶき交流館」での「かやぶき交流会」が、4月15日(土)〜16日(日)に島根県八雲村で開かれました。主な日程は次の通り。

西会議運営委員会

4月15日 13:00〜16:00

藤沢 薫 ひとり芝居

4月15日 19:00〜20:00

「はがための鳴る里」

「かやぶき交流会」

4月15日 20:30〜22:30

「八雲国際演劇祭」を終えての報告と専門部会からの報告

4月16日 9:30〜13:00

「西会議運営委員会」

あしづえの團山さんより、メアリーさん(カナダ)と、

全リ演東会議の総会に出席し、「99八雲国際演劇祭」を終えての報告と同時に、次の二点の問題提起をされたことの報告があった。

①「全日本リリズム演劇会議」の英語訳をどう表記したらよいか。

②「演劇会議」誌の編集を東会議に移すことについて。

つづいて全リ演西会議として、8月25日(金)〜27日(日)に、岩手県湯田町の銀河ホールを中心に行われる、第8回全日本演劇フェスティバルに、西会議の各劇団より、合計75人以上の参加に向け最大限努力することを決めた。そのためにも、より安く、無理なく行ける方法を検討中。同時に、演劇フェスティバルで演じる大道芸も募集中とのこ

とで、数演目が候補にあげられ、検討してもらおうことになった。

最後に、専門部会の梶さんより「自治体の文化行政に関するアンケート調査の結果」につき中間報告があった。

藤沢薫 ひとり芝居
『はがための鳴る里』

前年の西会議運営委員会で、「かやぶき交流館」の完成に合わせて、「かやぶき交流会」を行うことを決定した。その記念公演として、役者人生50年の藤沢薫さんの「はがための鳴る里」をぜひにと全員一致で決定、藤沢さんにも快諾していただいた。

村民はじめ各劇団からの観客で満席のなか、舞台に明かりが入る(西会議参加者48人、八雲村民64人)。電話の鳴りひびくなか、上手より藤沢氏登場。

孫との「超」楽しいやりとりと、息子夫婦との面倒くさげな会話の芝居が始まると、その対比のあまりにもおもしろさに客席から笑いが起こる。出だしからの大変な熱演に感動するうち、中盤からの意外な展開・大どんでん返しのころには、思わず体の方を心配していた。

しかし、機敏な動きと明瞭なセリフまわしには、鍛えられた50年間の重みを感じさせられた。今回の公演は、無理を承知のハードスケジュールとなり困難な条件のなかでの舞台となった。しかし、そんなことは微塵にも感じさせない。

だれもが、こんなに気力の満ちあふれた舞台になるとは、予想もし得なかつたほど、迫力の伝わるひとり芝居で全員大満足であった。

「かやぶき交流会」

感動のさめや、らぬうちに、しいの実シアターから5分もかからない「かやぶき交流館」に移動。石倉村長はじめ村の人たちが囲炉裏に火をおこして待っていてくださった。

参加者全員の紹介のあと、村の婦人会の方々による、山の幸を生かした手作りの料理と、三つの囲炉裏の炭火と、



4月10日に開館した「かやぶき交流館」

村民のあたたかいおもてなしを受け、さらに地酒のふるまひもあつたりと、最後には全員が腹一杯となるなど交流会は大盛会だった。

交流のなかで、今回の国際演劇祭を開催して、たとえ文化が違つても、心の通じあえる交流・ふれあいの大切さを感じ、島根県木次町のダムに水没する、かやぶきの家屋を「かやぶき交流館」として、よみがえらせることができたのではないかと話されていた。

行政として、住民合意を求めながら、経済的にはあまり成り立たないであろう「かやぶき交流館」を建設することに至つたなど、大変な苦労をされたことがよく分かつた。しかし、これからの「かやぶき交流館」を通じ、有形・無形の効果が八雲村にも還元されると確信させる交流会であった。



「かやぶき交流館」で交流会

「99八雲国際演劇祭」を終えての報告と専門部会からの報告

これまで「演劇会議101号」をはじめ、いろいろな機会

など、苦しくて大変だった体験談を、ユーモアたっぷりに語られた。

以下、報告を思いつくままに簡単にまとめてみました。詳細については、みなさんも機会があれば生の声で聞いて意見交換してみれば、「百聞は一見にしかず」ではありませんが、一聞すればより理解が深まると思います。

報告全体からは、これだけ劇団を中心として行政も住民も、完全無償な形でのボラン



八雲村 石倉村長

ティアとして巻き込んだ、三者が一体となつての国際演劇祭は初めてであるということだ。

○開催するに至つた経過

観客動員数の伸び悩み、限界を感じたことから観客は地域住民だけでなく積極的に打つて出る必要がある。すなわち観客は、日本だけでなく世界中の人々ということ。

○国際社会でも認められる演劇祭

ディスカッションを大切に、町づくりの一環としてみんなのできる。予算内におさめ、経済的にも成り立つ演劇祭にする。

○コンテスト形式とした

国内外を開わず出演劇団とも平等に同じ条件下で参加してもらおう。たとえば、上演時間は50分に限定する。全劇団ともスタッフ・キャスト全員ホームステイしてもらおうなど。

○文化を地域に根づかせる
演劇祭によって文化を地域に根づかせる。子どもたちにも地域教育の一環とし、文化の国際化を図る。

○三者一体で

新しい組織で、みんなで働いてつくる演劇祭を行政・住民・劇団の三者が一体となつて対等・平等の立場で作りに上げる。たとえば、完全無償のボランティアで実行委員会を作り参加してもらおう。

○演劇祭を作り上げるプロセスを大切に

ディスカッションを大切に、指示してやらせるのではなく住民に親しみを持ってホームステイなどやってもらおう。○文化の国際化により地域を変えていく

たとえば、セレモニー委員会で文化の違いをどう考えていくのかということから地域も変わっていくかざるを得なくなる。

最後に、専門部会の梶さんから「自治体の文化行政に関するアンケートの結果」について、中間報告があった。内容については、後日詳細な分析を待つて報告されると思いますが、ここで省略させていただきますので、ここでは省略させていただきます。短期間にもかかわらず回収率が55%に達したという、いかに文化行政に対する関心が高いかを示すものと言えます。

ただアンケート項目のなかで一点、「助成について」は県・市のレベルのものが混同されて記入されているので、分けてアンケートを取る必要があるかなと思われました。今回の調査を第一歩として、地域の文化行政を箱物づくりからソフトの充実へと、より良い方向へ持っていけるよう活動を進めたいとの報告であった。

(若者座 尼崎)

第19回 北海道演劇祭inオホーツク

—ハッカのまち演劇祭—

と き 2000年9月15日(金)・16日(土)・17日(日)
 ところ 北見市芸術文化ホール(中ホール・音楽ホール)
 端野町公民館(グリーンホール)
 観劇料 通し券 5000円 1回券 1500円 3回券 3000円
 交流会費 3000円

主 催 第19回北海道演劇祭inオホーツク実行委員会
 共 催 北海道演劇集団・北海道文化財団
 北見市・端野町・北見市教育委員会・端野町教育委員会
 事務局 北見市市民ホール芸術文化ホール
 (北見市泉町1-2-22 TEL 31-0909)

好評発売中! 西日本劇作家の会・編集発行

『ドラマの森』第3集

《所収作品》

清水 巖 作:『1995こうべ曼陀羅』(2幕3場)
 井上満寿夫 作:『浪華一揆大塩乱始末記』(十段)
 楠本幸男 作:『月の砂漠』(1幕)
 芳地隆介 作:『華・散る』(前口上と7場12景)

かねがね予告の『ドラマの森』第3集が、5月末発行されました。ずっしりした内容で、すでに所収作品には大阪で上演計画がすすんでいる清水巖/作『こうべ曼陀羅』など話題をよび、先般の東西劇作家の集まりでも演劇会議100号記念別冊戯曲集所収作品と共に上演希望の問い合わせが集まっています。ぜひお早めに下記へご購入申込みください。 2200円(送料別)
 (ただし3冊以上送料当方もち)

購読申込み先…和歌山市加納271-14 楠本幸男 TEL・FAX 073-473-7589
 八尾市服部川1218 東川宗彦 TEL 0279-41-0554

西会議2000年度総会は
7月15、16日(大阪で)

今年は8月に「全日本演劇フェスティバル」(岩手県・湯田町)開催のため、総会を1カ月早めます。
 日時 7月15日(土) pm 6:00開会
 16日(日) pm 1:00解散
 場所 新野ノースサイドホテル
 大阪市西区新町1-18-20
 (厚生年金会館南)
 TEL 06-6531-1350
 費用 1万円(予定)

松下朗さんとお別れする会

東京芸術座劇団葬 5月27日

「松下朗さんとお別れする会」が、東京芸術座劇団葬として、去る5月27日(土)東京・信濃町の千日谷会堂で執り行われました。
 舞台・テレビ美術家、東京芸術座演出部長の松下朗は去る4月28日、心不全で73年の生涯を閉じました。
 「お別れする会」当日は、あいにく小雨模様でしたが、西城秀樹氏、妹尾河童氏などをはじめ演劇関係者、テレビ放送関係者の方々が多数にご列席いただきました。
 全り演からも、こばやしひろし議長はじめご参列いただきました。

(郡司)



劇団あしぶえ 3つの試み

21世紀に生きる劇団として あしぶえは、次の3つの試みに挑戦し、新しい「芸術活動」の展開を始めるべく動き出しました。

【試み1】

子供と先生料金を半額にします。大学・高校・障害者の料金も値下げし料金体系の表示を変更します。

子どもたちの「感じ合う心や協力し合う気持ち」が希薄になった。「コミュニケーション能力が育ちにくい」「大きな声が出ない」などといったことが指摘されるようになって久しくなります。子どもたちを取り巻く環境が大きく変わり、今や家庭だけの問題でも、学校だけの問題でもなく、社会全体で考えていかなければならない事態になっていると、私たちは考えます。

もともと、「演劇」と「教育」

は密接な関係を持っています。先に書いた子どもたちの現状は、すべて「演劇の持つ教育力」と符合します。そういう状況の中、演劇に携わる者として、私たちに何ができるかを何年も考えつづけてきました。

あしぶえが「しいの実シアター」に入って、まもなく5年になります。

その間、春秋のロングラン公演のほか、学校公演、国内外公演、講師、講演、シンポジウム、「演劇楽校」「八雲国際演劇祭」の開催などさまざまなプランをすすめてきました。

次のプランとして、子ども

たちの料金を今までの半額に、また、子どもたちの身近な存在であり、影響力の大きい先生の料金を、大人の半額にすることにしました。義務教育の教科の中に「演劇」を取り入れているイギリスなどで、先生の観劇料金が安く設定されていることも、私たちの考えのもとになりました。

劇団の運営は、劇団員の団費と公演収入とさまざまな助成金によるやりくりの中で、実は、子どもの料金はこの15年間、一度も値上げすることなく、千円という料金を必死で維持してきたものです。

今回の値下げによって、すぐさま子どもたちの状況が改善されるとは毛頭思っていないが、長く続けることによって、いつしか子どもたちや、子どもを取り巻く周囲にさまざまなよい影響をもたらすものと、私たちは信じています。

「セロ弾きのゴーシュ」旧料金と新料金

セロ弾きのゴーシュ	旧料金
A券(一般).....	2000円
B券(大、高、障害者、65歳以上).....	1500円
C券(小、中学生).....	1000円

セロ弾きのゴーシュ	新料金
A券(一般).....	2000円
B券(65歳以上).....	1500円
C券(先生、障害者、19歳以上の学生).....	1000円
D券(4歳~18歳).....	500円

「先生」とは、4歳~18歳の保・幼・学校の先生のことをいいます。

【試み2】

全稽古を公開にします。

全稽古を公開し、地域の子どもたちや一般の人たちが、いつでも気軽に劇場に足を運べる環境をつくります。創造活動を目の当たりにすることによって、子どもたちが努力することや協力することの大切さを学び、演劇をより身近に感じるようになります。

【試み3】

劇団員による学校訪問「シアターボックス」をはじめます。

劇団員たちが地域の小・中学校を訪問し「シアターボックス」を行います。

「シアターボックス」とは、児童・生徒にパフォーマンスを通して演劇をPRする活動のことです。また、作品の紹介、あらすじ、テーマの解説、

観劇のマナーなども説明しますので、子どもたちは学校にいながら、演劇に興味をもつことができます。

劇団あしぶえは、今後もどんどん新しい試みを増やしていきたい、本当の意味で地域の人々に愛される劇団として、努力していきたいと考えています。

劇団の住所が
変わりました

☆劇団蒼生樹

〒220-0046

横浜市西区西戸部町

2-192-14

(☎は同じです)

「アノニム戯曲賞」募集

応募資格	問わない
応募作品	創造集団アノニムのKYOTO演劇フェスティバル上演作品
上演時間	120分(以内)のもの 1作品
題材	自由
応募締切	2000年8月31日(木)
入選発表	2000年10月末
賞金	20万円

作品提出先・問い合わせ

創造集団アノニム

〒602-8282 京都市上京区仁和寺街道千本東入る 西陣文化センター

TEL 075-431-4116

FAX 075-803-0377

E-mail rebun cx.airnet.ne.jp

第8回 全日本演劇フェスティバル

岩手 湯田 銀河ホール地域演劇祭

- 日時 2000年8月25日(金) 午後4時受付開始
26日(土)
27日(日) 午後1時開会
- 場所 岩手県和賀郡湯田町「ゆた文化創造館、銀河ホール・Uホール」
〒029-5511 岩手県和賀郡湯田町上野々39地割195番地2
TEL.0197(82)3240 FAX.0197(82)2883
- 参加費 ひとり 16,000円 温泉旅館2泊5食・観劇料

劇団 やませ
「わが内なるラピュータ」
作・榎谷伸夫/演出・加藤健太郎

湯田町から

岩手 ぶどう座
「めくらぶんど」
作・演出・川村光夫
「お婆さんと酒と役人と」
作・ふじたあさや/演出・川村光夫
上演場所・ぶどう座稽古場

特別参加

劇団 馬山
マダン劇「春香伝」
作・不明/演出・文鏡根

劇団 自立の会
「おこんじょうり」
原作・さねとうあきら/脚色・ふじたあさや
後藤富美/編作・森田有/演出・谷田昌蔵

劇団 大阪
「そして、あなたに逢えた」
作・近石綾子/演出・熊本一

- 主催 第8回全日本演劇フェスティバル・銀河ホール地域演劇祭実行委員会
(構成団体 全日本リアリズム演劇会議 湯田町)
実行委員長 こばやしひろし 全り演議長/副委員長 菅原信夫 湯田町長
- 後援 湯田町観光協会 湯田町芸術文化協会

問い合わせ先 TEL044-511-4951 FAX044-533-6694 京浜協同劇団 城谷 護
TEL0177-77-4677 (FAX 兼) 青森市中央 2-4-6 劇団支木 中野 健

編集後記

☆「100号記念戯曲集」について、「未定」の森本氏からの「意見」14作中から、7作を選んだ理由。特に、落とした7作への(評価と問題点)を明らかにすべき!!

☆現実的には、極めて困難な作業ではあるが確かに必要だし、可能な限りやらねばと始めたわけですが、結果として、ご承知の通り。早川の多忙と馬力不足と健康上の問題も絡みます。弁解の余地なし。次の機会には必ず——お約束します。☆リアリズム・シリーズ④、若干、変則的な組立にしました。いかがでしょうか。(早川昭二)

☆「地域に根ざす演劇活動」は、全り演運動の一貫した課題でした。前号、前々号では島根県八雲村と「あしがえ・しいの実シアター」について紹介してきました。前号と今回(おそろく次も)とひきつづき岩手県湯田町と「ぶどう座・銀河ホール」について特集します。地域に根ざす演劇活動について、私たちは豊かな経験を積み上げてきました。今後も「創造と観客」の関係について、それぞれの地域

の条件を活かした活動を紹介できればと願っています。芸団協出版「地域に生きる劇場」(衛紀生・本杉省三編)も併せてお読みいただければと思います。(栗原省)

☆1997年夏から編集実務を西で受け持ち3年がたちます。この間に100号を迎え、記念号や、記念戯曲集を出せたのは喜びです。先日の最終校正会議(毎号8人で開催)の席上、「長かったなあ」「かしアツという間だったなあ」という声が出ました。1号づつ、少しでも読みやすく、内容も充実させ、紙面もきれいに……と知恵と力を出し合ってきたなかでの率直な感想だった気がします。

☆今夏から編集実務が東に移りますが、この経験を生かせる参加をしたいと思っています。(赤松比洋子)

「原稿の送付について」
次号(11月号)の締切は9月20日です。

戯曲などは作品ができたときにすぐ送ってください。また、劇評なども各劇団で依頼して上演が終わり次第送ってください。

早川 昭二	〒168-0063 東京都杉並区和泉1-9-12-201 TEL 03-3323-8943
栗原 省	〒643-0111 和歌山県有田郡吉備町庄684-32 TEL 0737-52-5963 FAX 0737-52-6099
境野 修次	〒272-0136 千葉県市川市新浜1-23-5-103 TEL&FAX 047-356-7217
赤松比洋子	〒663-8141 兵庫県西宮市高須町1-11-859 TEL&FAX 0798-45-3307

①劇団通信および舞台写真は、〒547-0027 大阪市平野区喜連5-1-45 劇シイム内「演劇会議」編集部 担当者 石田章
TEL 06(6707)3833
FAX 06(6799)3833
②戯曲については、早川昭二編集長または、栗原省へ送ってください。
③それ以外の原稿については、東会議は東京連絡所 境野 修次 西会議は大阪連絡所 赤松比洋子

演劇会議 103号 2000年7月8日発行 定価 700円(送料240円)

編集長 早川昭二
編集委員 境野修次 石垣政裕 山崎三郎 栗原省 赤松比洋子 楠本幸男
発行所 〒673-0844 兵庫県明石市東野町1-5-1009 梶 武史 方 TEL/FAX 078-911-1513

誌代振込先(郵便振替)口座番号00200-4-78639
全日本リアリズム演劇会議事務局(〒211-0952 神奈川県川崎市幸区古市場2-109 京浜協同劇団・城谷護)